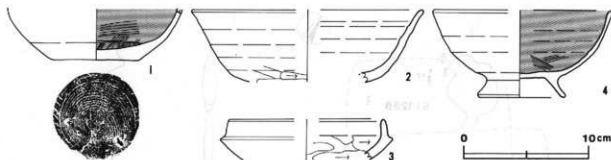


第232图 第126-A·B号住居跡実測図



第233図 第126-A号住居跡出土遺物実測図

第126-B号住居跡 (第232図)

位置 調査3区中央部, K11as区。

重複関係 第126-A号住居跡に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 壁が残存しておらず、規模も平面形も不明であるが、竈の位置と床から、一辺約 [2.60] mの方形と推定される。

主軸方向 N-37°-E

壁 第126-A号住居跡による掘り込みなどにより、残存していない。

床 全体的に平坦で、あまり踏み固められていない。

竈 北東壁推定ラインに付設されている。規模は、長さ100cm、幅75cmである。天井部は崩落し、残存していないが、両袖部の一部が残り、砂混じりの灰色粘土で構築されている。火床部は楕円形に10cmほど掘りくぼめられ、火熱を受けて赤変している。煙道は火床から緩やかに立ち上がっている。

竈土層解説

- | | |
|-----------------------------------|------------------------------|
| 1 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子微量 | 7 暗褐色 粘土粒子多量 |
| 2 黒褐色 焼土粒子・焼土小ブロック・粘土粒子・粘土小ブロック少量 | 8 暗赤褐色 焼土粒子・焼土小ブロック多量 |
| 3 暗赤褐色 焼土粒子多量 | 9 暗赤褐色 焼土粒子少量、焼土小ブロック微量 |
| 4 黒褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量 | 10 暗暗褐色 焼土粒子中量、粘土粒子少量、炭化粒子微量 |
| 5 暗褐色 粘土粒子多量 | 11 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 |
| 6 黒褐色 焼土粒子・粘土粒子少量 | 12 赤褐色 粘土粒子多量、焼土粒子少量 |

覆土 単一層からなり、自然堆積である。

土層解説

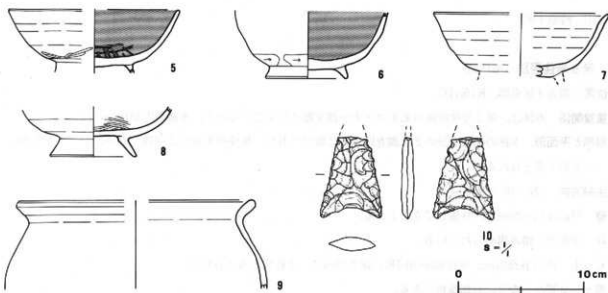
- 5 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土粒子微量

遺物 土師器片53点、須恵器片3点が出土している。6と8の土師器の高台付坏が竈右手前の覆土中から、7の土師器の高台付坏と9の土師器の甕がそのすぐ南東側の床面直上から、5の土師器の高台付坏が南東部の床面直上から出土している。

所見 本跡は遺構の残存状態が良好ではないが、時期は出土遺物から平安時代と思われる。

第126-B号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	粘土・色調・焼成	備考
第14図 5	高台付坏 土師器	A [13.6] B (5.1) E (0.7)	平底に「ハ」の字状に深く高台が付く。体部は内轉して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へラ磨き。体部外面ロクロナデ。体部外面下半へラ磨り。底部回転へラ磨り。内面黒色処理。	砂粒・長石にふい褐色普通	P448 40% 床直



第234図 第126-B号住居跡出土遺物実測図

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第234図 6	高台付環 土 師 器	B (5, 3) D 6.5 E 1.0	平底に「ハ」の字状の高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面へう磨き。体部外面クロコナデ。体部外面下半へう削り。底部回転へう削り。内面黒色処理。	砂粒 よい黄褐色 普通	P449 60% 覆土中
7	高台付環 土 師 器	A [13, 4] B (5, 0)	平底に「ハ」の字状の高台が付くと推定される。体部は内彎して立ち上がり。口縁部はわずかに外反する。	内面へう磨き。体部外面クロコナデ。	砂粒・バミス・長石 よい黄褐色 普通	P451 30% 床直
8	高台付環 土 師 器	B (4, 0) D 6.7 E 1.5	平底に「ハ」の字状の高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	内面へう磨き。体部外面クロコナデ。体部外面下半へう削り。底部回転削り切り。	砂粒・長石・バミス 褐色 普通	P452 20% 覆土中
9	甕 土 師 器	A [18, 6] B (6, 9)	口縁部、体部上半破片。体部は内彎して立ち上がり、上位に最大径を持つ。頸部は「く」の字状に外反し、端部は断面三角形になる。	口縁部、頸部内・外面横ナデ。	砂粒・雲母・石英 灰褐色 普通	P453 5% 床直

図版番号	種別	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第234図10	石 鏝	(2, 2)	1, 6	0, 4		1, 0	チャート	覆土中	Q30 80%

(4) 時期不明

第5号住居跡 (第15図)

位置 調査2区東部, K15j3区。

重複関係 本跡は、第1号住居跡の北東コーナー部を掘り込んでいるので、本跡の方が新しい。

規模と平面形 本跡の北側 3分の2は調査区域外に延びており、規模や平面形は明確でないが、一辺が3.40mの方形と考えられる。

主軸方向 [N-18°-W]

壁 壁高は15~39cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、踏み固められている。

ピット P1は長径37cm、短径32cmの円形、深さ21cmで、支柱穴と考えられる。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量 3 暗褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック微量
2 黒褐色 ローム粒子中量、焼土小ブロック微量

遺物 土師器片2点が出土している。

所見 時期は、本跡に伴う遺物がないため不明であるが、第1号住居跡より新しいことから古墳時代以降と考えられる。

第17号住居跡 (第135b4)

位置 調査3区西部, K10e7区。

重複関係 本跡は、第16号住居跡と南壁の東側を第3号土坑に掘り込まれているので、本跡の方が古い。

規模と平面形 本跡の西側 4分の3が調査区域外に延びており、更に、第16号住居跡、第3号土坑と重複しているため、規模や平面形は明確でないが、残存している壁や床から長軸 [4.90] m、短軸 (2.34) mの方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-18°-W

壁 南壁から東壁にかけて一部が残存している。壁高は34cmで、外傾して立ち上がる。

床 平坦で、南壁付近の一部が踏み固められている。

覆土 4層からなる自然堆積である。

土層解説

- 21 暗褐色 ローム中ブロック少量、ローム粒子少量 23 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
22 暗褐色 ローム粒子少量、焼土粒子微量、炭化粒子少量 24 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子少量

遺物 土師器片103点が出土しているが、いずれも廃絶後の流れ込みである。

所見 時期は、本跡に伴う遺物がないため不明であるが、第16号住居跡より古いことから古墳時代、またはそれ以前の住居跡と考えられる。

第23号住居跡 (第39図)

位置 調査3区西部, K11c1区。

重複関係 本跡は第21号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

規模と平面形 本跡の北側 5分の4が調査区域外に延びており、規模や平面形は明確ではないが、残存する壁

や床から長軸3.16m、短軸(0.60)mの方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-14°-W

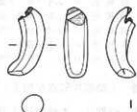
壁 壁高は39cmで外傾して立ち上がる。壁溝は南壁下に確認され、上幅7~21cm、下幅2~10cmである。

床 全体的に平坦で、南壁から中央部にかけて踏み固められている。

覆土 6層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 28 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量、炭化粒子少量
 29 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、炭化粒子少量
 30 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子少量、焼土小ブロック少量、炭化粒子少量
 31 黒褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量、炭化粒子少量
 32 暗褐色 ローム小ブロック微量、焼土小ブロック少量、炭化物少量
 33 暗褐色 ローム粒子少量、焼土小ブロック微量



第235図 第23号住居跡出土遺物実測図

遺物 土師器片34点、土製品1点が出土している。1の土製勾玉が、覆土中から出土している。

所見 時期は、本跡に伴う出土遺物がなため不明であるが、第21号住居跡より新しいことから、古墳時代以降と考えられる。

第23号住居跡出土遺物観察表

図録番号	種別	計測値					出土地点	備	考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第235図1	土製勾玉	2.8	1.5	0.8	0.1	(3.0)	覆土中	DP7	90%

第43号住居跡 (第236図)

位置 調査1区の北部、F13e区。

重複関係 本跡は第6号溝に掘り込まれているので、本跡が古い。

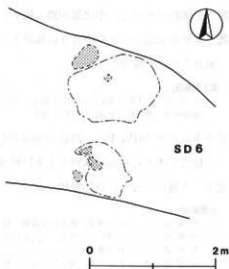
規模と平面形 第6号溝に掘り込まれ床の一部だけしか確認できなかったため、規模や平面形は不明である。

主軸方向 不明

床 残存する床は踏み固められており、平坦であったと考えられる。

遺物 土師器片25点、須恵器片6点が出土しているが、本跡に伴う遺物はない。

所見 時期は、本跡に伴う出土遺物がなため不明である。



第236図 第43号住居跡実測図

第45号住居跡 (第46図)

位置 調査1区の北部、F13f区。

重複関係 本跡は第44号住居跡を掘り込み、第46号住居跡に掘り込まれているので、第44号住居跡より新しく、第46号住居跡より古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが、残存する壁や床から長軸 [4.25] m、短軸 [3.70] m の方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 残存する壁高は3cmで、外傾して立ち上がる。

床 全体的に平坦である。

覆土 10層からなり、自然堆積である。

土層解説

8 暗褐色	ローム小ブロック微量、ローム粒子少量	14 暗赤褐色	ローム粒子微量、焼土小ブロック多量
10 暗褐色	ローム粒子微量、炭化粒子少量	15 黒褐色	ローム粒子微量、焼土粒子微量
11 暗褐色	ローム中ブロック少量、ローム粒子少量	21 極暗褐色	ローム粒子微量
12 黒褐色	ローム粒子微量	22 黒褐色	ローム粒子少量
13 暗褐色	ローム小ブロック微量、ローム粒子微量	23 暗褐色	ローム小ブロック少量

遺物 土師器片57点が出土しているが、本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 時期は、本跡に伴う遺物がないため不明であるが、第46号住居跡より古いことから、古墳時代後期、またはそれ以前と考えられる。

第84号住居跡 (第127回)

位置 調査1区の中央部、G13is区。

重複関係 本跡は第83号住居跡を掘り込んでいるので、本跡が新しい。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが、残存する壁や床から長軸3.33m、短軸(3.15)mで、方形または長方形と考えられる。

主軸方向 N-93°-E

壁 壁高は2cmほどで、外傾して立ち上がる。壁溝は、西壁下から北壁下にかけて確認され、上幅8~23cm、下幅3~5cm、深さ2cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、中央部が踏み固められている。

竈 東壁中央部よりやや南寄りに構築されているが、耕作による乱れを受けており、ほとんど残存しておらず、掘り方だけを確認した。

覆土層解説

1 赤褐色	焼土粒子多量、粘土粒子微量、灰粒子微量	3 暗褐色	ローム粒子微量、焼土粒子微量
2 極暗褐色	焼土粒子少量、炭化粒子微量	4 暗褐色	ローム粒子少量

ピット 2か所(P1, P2)。P1は径30cmの円形、深さ24cmである。P2は径23cmの円形、深さ30cmで、いずれも主柱穴と考えられる。床面を丁寧に精査したが、他のピットを確認することはできなかった。

覆土 7層からなり、自然堆積である。

土層解説

1 黒褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量、粘土粒子微量	5 暗褐色	ローム粒子中量
2 黒褐色	ローム小ブロック微量、ローム粒子少量、焼土粒子微量	6 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子微量、粘土粒子微量
3 暗褐色	ローム粒子微量	7 極暗褐色	ローム小ブロック微量、焼土小ブロック微量
4 暗褐色	ローム粒子少量、焼土粒子少量、粘土粒子微量		

遺物 土師器片106点、須恵器片3点が出土している。1の増と2の土師器鉢が覆土中から出土している。

所見 時期は、本跡に伴う遺物がないため不明であるが、第83号住居跡より新しいことから、平安時代と考えられる。



第237図 第84号住居跡出土遺物実測図

第84号住居跡出土遺物観察表

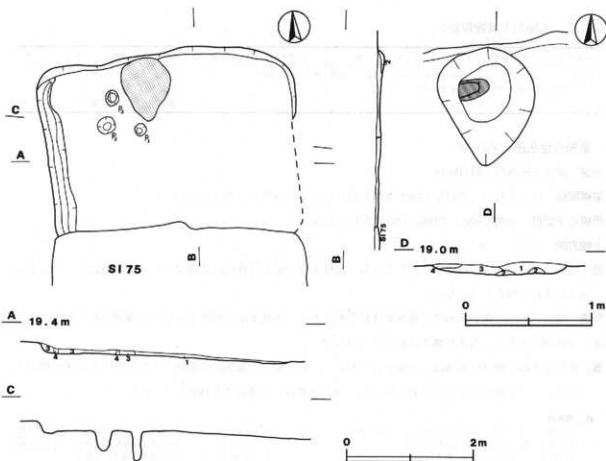
図版番号	部 種	計測値(m)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・組成	備 考
第31図 1	付 土 師 器	B (3,6) C 3.5	底部から体部中位にかけての破片。 底部平底。体部は内彎して立ち上 る。	体部外面へう溜り。内面へラナテ。	砂粒・長石・スコ リア、褐色 普通	P311 20% 覆土中
	体 土 師 器	A [16,0] B (4,2)	体部上位から口縁部にかけての破 片。体部上位は直立し、口縁部に至 る。	口縁部から体部にかけて内・外面ロ クロナテ。	砂粒・雲母 にふい褐色 普通	P564 5% 覆土中

第87号住居跡 (第238図)

位置 調査1区の中央部、G13js区。

重複関係 本跡は第75号住居跡に掘り込まれているので、本跡が古い。

規模と平面形 重複により規模や平面形は明確ではないが、残存する壁や床から長軸4.10m、短軸 (2.91) m
で、方形または長方形と考えられる。



第238図 第87号住居跡実測図

主軸方向 N-1°-E

壁 壁高は31cmで、外傾して立ち上がる。壁溝は、西壁下から確認され、上幅19~29cm、下幅6~14cm、深さ3cmで、断面形はU字形である。

床 全体的に平坦で、竈から中央部にかけて踏み固められている。

竈 北壁中央部に構築されているが、耕作による攪乱を受けており、掘り方だけを確認した。煙道部から焚口部まで94cm、火床部は床面を3cmほど掘りくぼめており、火熱を受けて赤変している。

竈土層解説

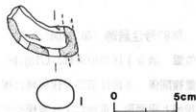
- | | | | |
|-------|-----------------------------|-------|--------------------------|
| 1 暗褐色 | ローム小ブロック少量、焼土小ブロック少量、炭化粒子少量 | 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土小ブロック少量 |
| 2 赤褐色 | 焼土粒子多量 | 4 褐色 | ローム粒子少量、焼土小ブロック少量、粘土粒子少量 |

ピット 3か所(P1~P3)。P1は径19cmの円形、深さ47cmである。P2は長径29cm、短径26cmの楕円形、深さ35cmで、主柱穴と考えられる。P3は長径24cm、短径20cmの楕円形、深さ25cmである。

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------|-----------------------|
| 1 黒褐色 | ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量、粘土粒子微量 |
| 3 極暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 |
| 4 褐色 | ローム粒子多量 |



遺物 土師器片305点、須恵器片3点が出土している。1の土師器瓶が覆土中から出土している。

所見 時期は、本跡に伴う遺物が少ないため不明であるが、第75号住居跡より古いことから、平安時代以前と考えられる。

第239図 第87号住居跡出土遺物実測図

第87号住居跡出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第239図 1	瓶 土師器	長さ5.5 厚さ2.3 幅 3.0	把手破片。中央から折れ、先端部は上方に向く。	把手外面へう掘り。	砂粒・スコリア 黒褐色 普通	P572 5% 覆土中

第96号住居跡 (第240図)

位置 調査2区西部、M11b9区。

重複関係 第2号井戸、第43号土坑が本跡を掘り込んでいるため、本跡が古い。

規模と平面形 長軸3.50m、短軸3.42mの方形である。

主軸方向 N-5°-W

壁 壁高は8~13cmで、外傾して立ち上がる。北壁東側が第2号井戸、北西コーナー部が第43号土坑によって掘り込まれ、残存していない。

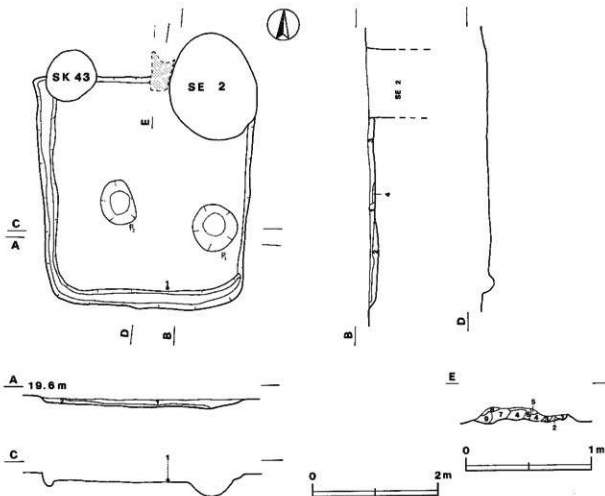
壁溝 幅5~18cm、深さ9cmで、断面形はU字形である。南壁下から西壁下にかけて確認されている。

床 全体的に平坦で、あまり踏み固められていない。

竈 北壁中央部に壁外へ40cmほどの掘り込みがあり、長さ50cm、幅30cmの範囲で方形に焼土と粘土が確認されており、ここに竈が存在したと思われるが、袖部、煙道、天井部とも残存していない。

竈土層解説

- | | | | |
|--------|---------------------|-------|-----------------------|
| 1 暗赤褐色 | 焼土粒子・炭化粒子少量、ローム粒子微量 | 6 黒褐色 | ローム粒子少量、粘土粒子少量、焼土粒子微量 |
| 2 暗赤褐色 | 焼土粒子多量、炭化粒子微量 | 7 暗褐色 | ローム粒子中量、炭化粒子少量、焼土粒子微量 |
| 3 暗褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | 8 黒褐色 | ローム粒子微量、焼土粒子微量 |
| 4 灰褐色 | 粘土粒子中量、焼土粒子・ローム粒子少量 | 9 黒褐色 | ローム粒子微量、焼土粒子微量、炭化粒子少量 |
| 5 黒褐色 | ローム粒子少量、焼土粒子微量 | | |



第240図 第96号住居跡実測図

ピット 2か所。P₁は長径74cm、短径70cmの楕円形で、深さは22cmである。位置から主柱穴と考えられる。P₂は長径71cm、短径52cmの楕円形で、ごく浅く、性格は不明である。

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------|------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 3 緑褐色 ローム粒子微量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量 | 4 暗褐色 ローム小ブロック少量 |

遺物 土師器片242点、須恵器片16点である。いずれも細片で、覆土中から出土している。1の土師器片は南壁付近の覆土下層から出土している。

所見 本跡は、古墳時代から平安時代までの遺物が出土しており、遺構の形態も周囲の平安時代の遺構の形態とは異なっており、時期を判断するのは難しいが、平安時代の遺物が多く出土していることから時期は平安時代ではないかと思われる。



第241図 第96号住居跡出土遺物実測図

第96号住居跡出土遺物観察表

図番番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・風成	備考
240図 1	坏	B 1.3	底部から体部下位にかけての破片。	底部同紐へテ切り。	砂粒・石英・長石 30% 濃い黄褐色 普通	P590 覆土下層
	土師器	C 7.7	底部平底。			

第127号住居跡 (第76回)

位置 調査4区中央部, I10co区。

重複関係 本跡は, 第118号住居跡, 第128号住居跡に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 本跡は第118号住居跡, 第128号住居跡に掘り込まれているため規模は不明であるが, 長軸 [3.28] m, 短軸 [3.03] mの方形と推定される。

主軸方向 N-10°-Wと推定される。

壁 壁高は15cm前後で, 緩斜して立ち上がる。南壁と西壁の一部が残存するが, 他は第118号住居跡, 第128号住居跡によって掘り込まれ, 残存していない。

床 全体的に平坦で, あまり踏み固められていない。

ピット 2か所。P₁, P₂は径23-33cmの円形で, 深さは11-53cmである。位置から支柱穴と考えられる。

覆土 12層からなり, 自然淋積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|----------------------------|
| 1 褐色 ローム粒子中量 | 9 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量 |
| 2 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量 | 10 暗褐色 ローム中ブロック・ローム大ブロック少量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量 | 11 褐色 ローム大ブロック・ローム中ブロック中量 |
| 4 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量 | 12 暗褐色 ローム粒子微量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子微量 | 13 暗褐色 ローム中ブロック少量 |
| 8 暗褐色 ローム中ブロック微量 | 14 暗褐色 ローム大ブロック少量 |

遺物 本跡は極めて残存状態が悪く, 遺物は出土していない。

所見 遺構の残存状態が悪く出土遺物もないため, 本跡の時期は不明である

第128号住居跡 (第76回)

位置 調査4区中央部, I10co区。

重複関係 本跡は, 第127号住居跡を掘り込み, 第118号住居跡に掘り込まれており, 本跡は第127号住居跡より新しく, 第118号住居跡より古い。

規模と平面形 本跡は第118号住居跡に掘り込まれているため, 規模は不明であるが, 長軸 [3.25] m, 短軸 [2.70] mの長方形と推定される。

主軸方向 N-0°と推定される。

壁 壁高は14cm前後で, 外傾して立ち上がる。西壁の一部と南壁が残存するが, 他は第118号住居跡によって掘り込まれ, 残存していない。

床 全体的に平坦で, あまり踏み固められていない。

ピット P₁は長径40cm, 短径30cmの楕円形で, 深さは49cmである。性格は不明である。

覆土 4層からなり, 自然堆積である。

土層解説

- | | |
|--------------------------------|--------------------|
| 15 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒微量 | 17 暗褐色 ローム小ブロック微量 |
| 16 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量, 焼土粒微量 | 18 暗褐色 ローム粒子・焼土粒微量 |

遺物 本跡は極めて残存状態が悪く, 遺物は出土していない。

所見 遺構の残存状態が悪く出土遺物もないため, 本跡の時期は不明である

表2 熊の山遺跡住居跡一覧表

住居跡 番号	位置	主軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (m)	内 部 施 設						土 器	出 土 遺 物	備 考 (注-附)	
						柱間 数	柱間 幅	土柱 数	土柱 径	土 間	土 間				
1	L13aa	N-7°-W	[方形]	[10.61]×[8.70]	14~30	平垣	部	2	4	1	竈	人為	土師器42 須恵器8 陶器1 陶土10個 土製品1 石製品4 瓦1	本跡→S14, 5	
2	L13ab	N-23°-W	[方形]	[5.57]×[5.37]	12	平垣					竈	1	自然	土師器741 須恵器4 陶器2 瓦1	
3	L14aa	N-14°-W	方形	6.20×6.20	18~21	平垣	部	3	4	1	竈	自然	土師器171 須恵器4 陶器2 鉄押1		
4	K13j	N-8°-W	[長方形]	[5.25]×[3.90]	10~30	平垣		1	2				土師器11	SI1→本跡	
5	K13k	[N-16°-W]	[方形]	[3.40]×[3.40]	15~39	平垣				1			自然	土師器2	SI1→本跡
6	K10i	N-8°-W	方形	3.30×3.03	22~33	平垣	全周			3	1	竈	自然	土師器540 須恵器3 陶器2 瓦1	SI7→本跡
7	K10j	N-22°-W	方形	4.72×4.07	10~29	平垣	一部	1	4			竈	自然	土師器120	本跡→SI6
8	K11j	N-90°-W	[方形]	[3.22]×[3.03]	14	平垣							自然	土師器265	
9-A	K11i	N-30°-W	[長方形]	3.35×(2.82)	8~14	平垣		1	4	1	竈	自然	土師器773 須恵器4 陶器2 鉄押1	SI9B→本跡→SI8, 10	
9-B	K11h	N-33°-W	[方形]	5.68×(5.36)	12~24	平垣	一部	1	4	1	竈	自然	土師器109	本跡→SI9A, 13A, 13B	
10	K12b	N-4°-W	[方形]	[3.30]×[3.30]	29	平垣	一部						土師器343 須恵器3 鉄押1		
11	K13g	N-7°-W	方形	4.24×4.22	13~15	平垣	部		4		竈	自然	土師器109 須恵器10	SI4→本跡→SI12, 13A	
12	K11h	N-8°-E	[方形]	(2.36)×(0.98)	7	平垣							土師器2 瓦1	SI11→本跡→SI10	
13-A	K11h	N-13°-E	[方形]	[3.35]×[2.82]	18	平垣						竈	自然	土師器106 須恵器4	SI11, 12→本跡→SI13B
13-B	K11h	N-18°-E	[方形]	[3.91]×[3.61]	12	平垣						竈	自然	土師器1 須恵器1	SI9A, 13A→本跡
14	K10g	N-7°-E	[方形]	3.44×[3.23]	23~32	平垣						竈	自然	土師器199 須恵器4	本跡→SI11
15	K10d	N-11°-W	長方形	5.19×3.20	17~34	平垣	部	2				竈	自然	土師器324 須恵器3 鉄押4	SI16→本跡
16	K10c	N-18°-W	[方形]	[3.84]×[3.60]	33~40	平垣				1			自然	土師器200 須恵器4	SI17→本跡→SI15
17	K10e	N-18°-W	[方形]	[4.80]×[2.34]	34	平垣							自然	土師器103	本跡→SI16, SK 3
18	K11f	N-3°-W	[方形]	3.29×[3.10]	17~22	平垣	一部		2	1	竈	自然	土師器106	本跡→SI19	
19	K11f	N-14°-W	方形	3.30×3.08	15~26	平垣	部		1	1	竈	自然	土師器368 須恵器6 石製品1 土製品1	SI18→本跡	
20	K11c	N-19°-W	[方形]	6.12×(4.40)	20~40	平垣	一部	1	1	1			自然	土師器518 須恵器3 陶器1	本跡→SI20
21	K11e	N-29°-W	[方形]	5.30×(3.86)	43	平垣	一部		2	1			自然	土師器69	SI20→本跡→SI22, 23
22	K11e	N-30°-W	[方形]	(1.20)×(1.14)	44	平垣							自然	土師器64	SI21→本跡
23	K11e	N-14°-W	[方形]	3.15×(0.60)	39	平垣	一部						自然	土師器34土製品1	SI21→本跡
24	K11e	N-64°-E	方形	5.30×5.30	11~15	平垣	一部		4				自然	土師器909 須恵器12 鉄押1	SI26→本跡→SI25
25	K11e	N-12°-E	方形	4.50×4.00	8~31	平垣	一部	1	4	1	竈	自然	土師器60 須恵器7	SI24, 26→本跡	
26	K11d	N-22°-W	[方形]	[5.82]×[5.62]	14~19	平垣	一部	1	4				自然	土師器219 土製品4 瓦製品1 鉄製品1	本跡→SI24, 25, 27
27	K11d	N-13°-E	[方形]	[3.30]×[3.30]	3	平垣							自然	土師器129 須恵器7 鉄押1	SI26→本跡
28	L10aa	N-30°-E	[方形]	(4.10)×(2.40)	18~20	平垣							自然	土師器149 須恵器1 鉄押1	調査区域外に延びる
29	K10g	N-30°-W	[方形]	(4.90)×(2.55)	9	平垣							自然	土師器365 須恵器4 鉄製品1	調査区域外に延びる
30	K11d	N-91°-E	[方形]	[2.80]×[2.60]	13	平垣							自然	土師器100 須恵器4	SI21→本跡
31	K11c	N-20°-W	[方形]	[5.00]×[5.00]	29~36	平垣	一部	1	3	1	竈	自然	土師器570 須恵器53 陶器2 瓦製品1	本跡→SI30	
32	K11b	N-106°-E	長方形	3.35×2.75	9~16	平垣						竈	自然	土師器305 須恵器15 鉄押2	
33	M12c	N-35°-E	長方形	2.52×2.20	17~21	平垣	全周						自然	土師器179 須恵器6	
34	J12i	N-20°-E	長方形	(3.90)×3.70	19~22	平垣	一部		1				自然	土師器157 須恵器5 土師器 土器1 鉄製品1	調査区域外に延びる
35	K11b	N-2°-E	不整形	3.15×2.95	38~42	平垣							自然	土師器339 須恵器45 鉄押2	SI36→本跡
36	K11b	N-30°-E	長方形	4.29×3.28	5~33	平垣		1	4	1	竈	自然	土師器156 須恵器7 鉄製品1	本跡→SI35	
37	F14f	N-8°-E	[方形]	3.60×[5.50]	25~50	平垣	部	1	4				自然	土師器605 須恵器12 陶器1 土製品1 瓦製品1 鉄製品1	本跡→SI41
38	F14f	N-13°-E	長方形	4.49×3.83	16~35	平垣	一部	1	1	1	竈	自然	土師器604 須恵器108 陶器1 土製品1 鉄押1		
39	F14f	N-21°-E	方形	5.47×5.23	7~30	平垣	部	2	4				自然	土師器132 須恵器9	
40	F14i	N-34°-W	長方形	4.41×3.18	6~25	平垣							人為	土師器128 須恵器2 陶器1	
41	F14g	N-18°-E	[方形]	[4.50]×[4.30]	26	平垣	一部						自然	土師器736 須恵器209 陶器2 土製品1 鉄製品1 瓦製品1	SI37→本跡
42	G13aa	N-7°-E	方形	3.30×3.03	19~40	平垣	全周			2			自然	土師器41 須恵器15	
43	F13e	不明	不明	不明	不明	平垣								土師器25 須恵器6	本跡→SD6

住居跡番号	位置	土軸方向	平面形	規模 (m) (長軸×短軸)	壁高 (m)	築年	内 部 地 段					視上	出土遺物	備 考 新田開墾(古・新)
							母溝 (ヒト)	母穴	北山	溝	溝			
44	F131f	不明	[長方形]	13.52×11.32	12	平埴						自然	土師器245 須恵器11 鉄押1	本跡→S145
45	F131e	N-5°-W	方形	[4.25]×[3.70]	3	平埴						自然	土師器57	S144→本跡→S146
46	F131f	N-6°-W	[長方形]	[4.80]×[3.91]	7~24	平埴	7	2	1	溝		自然	土師器253 須恵器3 鉄押2	S145→本跡→S147
47	F131e	N105°-E	[方形]	[3.90]×[3.50]	10~18	平埴	2	4		溝		自然	土師器412 須恵器17 陶器2	S146→本跡
48	F131a	N14°-E	長方形	2.87×2.26	7~11	平埴	2					自然	土師器55 須恵器25	
49	F131g	N14°-E	方形	4.56×(4.42)	23~29	平埴	1	1	1			人為	土師器1094 須恵器72 陶器1 鉄押品1 鉄製品1	
50	G131b	N12°-E	長方形	4.40×3.45	16~30	平埴		2	1	溝		自然	土師器101 鉄押1	
51	G131a	N-3°-E	方形	3.60×4.98	15~36	平埴	一部	2	4	1	溝	自然	土師器291 須恵器5 土製品1	S152→本跡
52	G131a	N15°-E	長方形	[4.95]×[4.50]	23~25	平埴	一部					自然	土師器354 須恵器21	本跡→S151・S152
54	G131c	N18°-E	[長方形]	[4.90]×[1.95]	16	平埴	一部					自然	土師器140 須恵器4	本跡→S155
55	G131c	N21°-E	[方形]	[3.87]×[3.25]	14~18	平埴	一部	2	1	溝		自然	土師器295 須恵器4	S154→本跡→S156
56	G131c	N1°-E	方形	4.81×4.81	10~22	平埴	2	4	1	溝		自然	土師器580 須恵器14	S155→本跡
57	G131e	N21°-E	[方形]	4.10×[4.00]	8~50	平埴						自然	土師器223 須恵器33 土製品1 鉄製品1 鉄押1	本跡→S159
59	G131f	N12°-E	方形	[3.16]×[3.14]	25~35	平埴						自然	土師器746 須恵器174 鉄製品1 鉄製品1	S157→本跡
60	F131b	N17°-E	長方形	5.32×3.38	25~32	平埴	一部	2		溝		自然	土師器742 須恵器7 鉄製品2 鉄押1	
61	G131d	N8°-E	長方形	4.15×(3.35)	20~25	平埴		2	1			自然	土師器65 須恵器2 ベンケウ1	
62	G131e	N13°-E	方形	[4.92]×[4.20]	21~26	平埴	全面	4				自然	土師器1272 須恵器367 鉄製品1	本跡→S167, 72B
63	G131a	N16°-E	方形	3.93×3.73	15	平埴						自然	土師器370 須恵器57 鉄押2	
64	H131a	N1°-E	方形	3.64×3.34	47~81	平埴						自然	土師器284 須恵器29 土製品1 鉄製品1 鉄製品2	
65	H131a	N9°-E	方形	3.64×3.41	9~15	平埴	一部		1	溝		自然	土師器125 須恵器38	
66	G131e	N2°-E	[方形]	[3.90]×[2.30]	10	平埴	1					自然	土師器1600 須恵器242 鉄押1	S168→本跡→S167
67	G131e	N3°-W	[方形]	[2.27]×[1.10]	4~90	平埴						自然	土師器68 須恵器8	S162, 66→本跡
68	G131f	N21°-W	[方形]	[3.10]×[3.10]	14~23	平埴		3				自然	土師器283 須恵器27 土製品1 鉄製品1 鉄製品1	本跡→S166, 69, 82
69	G131e	N8°-E	方形	[4.57]×[4.50]	15~25	平埴	一部	3		溝		自然	土師器1021 須恵器225 陶器1 鉄製品1 土製品1	S168, 82→本跡
70	H131a	N9°-E	方形	3.85×3.70	15~20	平埴	一部	1	1	溝		自然	土師器402 須恵器35 鉄製品3	
72-A	G131f	N7°-E	方形	3.37×(2.43)	18	平埴						自然	土師器690 須恵器74 陶器1 鉄製品1 鉄製品1	本跡→S172B
72-B	G131e	N7°-E	[長方形]	[4.30]×[4.00]	20~45	平埴						自然	土師器154 須恵器53 土製品1 鉄製品1 鉄製品3	S168, 72A→本跡
73	G131e	N24°-E	[長方形]	[4.75]×[4.26]	10~23	平埴	2	4		溝		自然	土師器209 須恵器261 鉄製品2 鉄押1	S174, 80→本跡
74	G131e	N12°-E	方形	4.04×3.96	13~15	平埴						自然	土師器315 須恵器6 土製品1 鉄製品1 鉄押23	本跡→S173
75	H131a	N4°-E	方形	4.10×4.08	10~35	平埴	一部	4	1	溝		自然	土師器81 須恵器7	S187→本跡
76	H131a	N2°-E	[方形]	[3.65]×[3.20]	10	平埴	一部	1		溝		自然	土師器120 須恵器18 鉄押1	S177A, 77B→本跡
77-A	H131a	N3°-E	[方形]	[3.06]×[3.05]	16~20	平埴	1	2	1	溝		自然	土師器215 須恵器21	S176, S178→本跡→S179
77-B	H131a	N16°-E	[長方形]	[3.45]×[2.87]	31	平埴	一部	1		溝		自然	土師器347 須恵器42 陶器1 鉄製品1	S176, S177A→本跡
78	H131a	N16°-W	長方形	7.90×7.68	20~25	平埴	一部	4	2			自然	土師器628 須恵器14 陶器1 鉄製品1	S179→本跡→S177A
79	H131a	N15°-W	[長方形]	6.76×(4.60)	25	平埴		2				自然	土師器147 須恵器5	本跡→S178
80	G131e	N1°-W	[方形]	[4.02]×[3.96]	26	平埴	一部					自然	土師器77 須恵器12	S181→本跡→S173
81	G131e	N25°-E	方形	[3.80]×[3.80]	不明	平埴							土師器31 須恵器19 陶器1	本跡→S180
82	G131a	N14°-E	[方形]	[3.50]×[3.37]	10~25	平埴	1	1		溝		(土師器21 須恵器42 陶器1 鉄押1)	S179→本跡→S169	
83	G131a	N3°-E	[方形]	4.65×[4.43]	20~22	平埴	一部	3	4	溝		自然	土師器161 須恵器21 土製品1	本跡→S184
84	G131a	N43°-E	方形	3.33×(3.15)	2	平埴	一部	2		溝		自然	土師器106 須恵器3	S183→本跡
85	H131f	N90°-E	[方形]	3.30×(3.00)	10~20	平埴	一部	1		溝		自然	土師器176 須恵器18 鉄製品1	新金山域外へ延びる
86	H131e	N30°-W	[方形]	[4.95]×[4.90]	21~30	平埴	一部	4		溝		自然	土師器21083 須恵器300 陶器6 鉄製品1 鉄押1	S188→本跡
87	G131a	N1°-E	[方形]	4.10×(2.91)	31	平埴	一部	1	2	溝		自然	土師器305 須恵器3	本跡→S175
88	H131f	不明	[方形]	[2.61]×[2.60]	不明	平埴						自然	土師器246 須恵器1 土製品1	本跡→S186
89	H131a	N5°-W	方形	3.24×3.16	30~60	平埴						自然	土師器300 須恵器5 鉄押3	
90	H131a	N10°-W	[方形]	[2.84]×[2.80]	20~25	平埴						自然	土師器301 須恵器17 鉄製品1 鉄押1	

住居地 番号	位置	生物方向	平面形	総積 (m ²) (長×短)	壁高 (m)	床面	内 部 施 設				備 考		
							暖房	上水道	下水道	電気			
91	L11ee	N-10°E	長方形	4.64 × 4.06	4-25	平床	なし	2	電	自然	土庫553 須恵器24		
92	M11aa	N-0°E	長方形	4.94 × 3.43	4-8	平床	一部	1	電	自然	土庫592 須恵器29	本跡→SK68, SK74	
93	L11jj	N-0°E	長方形	3.24 × 2.50	2-6	平床	なし	1	電	自然	土庫583 鉄器1	本跡→SK18, SK30	
94	L121a	N-8°E	長方形	3.13 × 2.85	15-22	平床	部		電	自然	土庫521 須恵器20	本跡→SK1, 9, 10, 10b, 11	
95	L11gg	不明	不明	(3.22) × (2.00)	5-18	平床				自然	土庫576 須恵器25 鉄器1	SI111→本跡	
96	M11bs	N 5°-W	方形	3.30 × 3.42	8-15	平床	一部	1	電	自然	土庫522 須恵器16	本跡→SE2, SK43	
97	M12h	N 21°E	方形	3.95 × [3.70]	10-18	平床	部	4	電	自然	土庫527 須恵器24 土庫512 灰片7	本跡→SE 3	
98	L112f	N-0°E	方形	3.90 × 3.43	8-20	平床	一部	2	電	自然	土庫533 須恵器54 陶器1 鉄器1		
99	L11gg	不明	不整形	(2.55) × (2.27)	4-14	平床	1			自然	土庫563 須恵器9 鉄器5		
100	L13ga	N 8°E	長方形	3.80 × 3.15	4-10	平床	一部	1	電	自然	土庫508 須恵器3		
101	L12ee	N-0°E	方形	(3.16) × 2.95	18-22	平床	一部	4	電	自然	土庫541 須恵器1 刀子1	SK27→本跡→SI102	
102	L13da	N 9°E	長方形	3.63 × (2.00)	10-20	平床	1		電	自然	土庫507 須恵器4 土庫508 土器3	SI101→本跡	
103	L12ff	N-0°E	長方形	6.28 × 3.95	5-20	平床	3	1	電	自然	土庫528 須恵器5 土庫512 灰片1 ベンケツ1	本跡→SK56	
105	M12aa	N 90°E	方形	3.46 × 3.18	7-16	平床	全周	24	3	電	自然	土庫599 須恵器233 陶器1 灰化片17 鉄器1	
106	M12ia	N 8°E	長方形	3.36 × 2.95	14-22	平床	全周	3		電	自然	土庫573 須恵器3	
107-A	M12da	N 9°E	長方形	2.95 × [2.59]		平床	一部			電		本跡→SI09, SI08, SD5, 5b	
107-B	M12ds	N-0°E	長方形	4.30 × 3.70	7-11	平床	一部			電	自然	土庫520 須恵器1 刀子1 鉄器1	SI09A→本跡→SI08, SK15
108	M12hs	N 0°E	方形	3.21 × 2.64	3-10	平床		2		電	自然	土庫595 須恵器1 土器5 土器3 鉄器金具1 鉄片2	SI07A→SI07B→本跡
109	M12br	N-0°E	方形	(3.13) × 3.07	20-23	平床	部	2		電	自然	土庫530 須恵器25 灰化 陶器1 刀1 灰片1	本跡→SI110
110	M12bs	N 8°E	長方形	4.68 × 3.33	16-18	平床	一部	2		電	自然	土庫578 須恵器18 土器質土器2	SI109→本跡→SK 2
111	L11ag	N 0°	不明	3.44 × (0.43)	30-35	平床				電	不明	土庫585 須恵器11 灰化陶 器1	本跡→SI25
112	M13ca	N-0°E	長方形	4.17 × 3.33	18-33	平床		4		電	自然	土庫520 須恵器83 灰片2	本跡→SD10
113	M13ca	N 2°E	長方形	4.34 × 3.37	8-20	平床		2		電	不明	土庫576 須恵器22	SK76→本跡→SK45
114	L12da	N-0°E	長方形	4.43 × (1.31)	4-8	平床		2	1	電	自然	土庫579 須恵器2 灰化片1	
115-A	M13ar	N-0°W	長方形	4.90 × [4.00]	27-38	平床				電	不明	土庫566 須恵器6	本跡→SI15B
115-B	M13ar	N-0°	方形	4.33 × 4.48	20-29	平床		1	1	電	自然	土庫507 須恵器47 灰化陶器1 土器質土器1	SI15A, H5C →本跡
115-C	M13r	N 30°W	方形	(3.13) × 4.69	8-11	平床		2		電	自然	土庫552 須恵器14	本跡→SI15B, SD 9
116	L14da	N-0°W	方形	(2.36) × (2.08)	13	平床				電	自然	土庫523 須恵器2 灰化陶器1	
117	M12es	N 8°W	長方形	3.88 × (2.44)	3-5	平床	全周	2	1	電	人為	土庫524 須恵器13 灰化陶器1 土器質土器1	本跡→SK93, 127, 128
118	L10ca	N-0°	方形	3.63 × 3.32	4-20	平床		1	1	電	自然	土庫515 須恵器88 陶器4	SI127, 128 →本跡
119	L112f	N-11°W	方形	3.80 × 3.55	15-20	平床		4	1	電	不明	土庫518 須恵器32 灰化陶 器2 鉄器1	
120	L14ca	N-19°W	長方形	(3.55) × 3.00	15	平床		2		電	不明	土庫579 須恵器5	本跡→SD10
121	L13br	N 2°W	方形	3.13 × 3.01	19-32	平床	一部	2		電	人為	土庫589 須恵器3	本跡→SK75, 103, 113
122	L11br	N-0°	方形	4.02 × 3.95	20-30	平床	全周	4	1	電	自然	土庫543 須恵器59 陶器1 鉄器1	本跡→SK103
123	L11ce	[N-0°E]	[方形]	(3.72) × (3.66)	10	平床		4	4	電	不明	土庫581	
124	L11bs	N-27°W	方形	6.57 × 6.33	10-32	平床	部	5	4	電	自然	土庫570 須恵器89 陶器2 灰化陶器1 鉄片1	本跡→SI125
125	L11ca	N 10°E	方形	(3.65) × (4.72)	5-25	平床	一部	2	4	電	自然	土庫568 須恵器20 灰化陶器2 鉄器1	SI124→本跡
126-A	K11aa	N-5°W	[長方形]	(4.00) × (2.27)	18	平床				電	自然	土庫580 須恵器4	本跡→SI126A
126-B	K11aa	N 37°E	[方形]	(3.60) × (2.60)		平床				電	自然	土庫583 須恵器3	本跡→SI126B
127	L10ca	N 10°W	方形	(2.28) × (3.43)	15	平床		2		電	自然		本跡→SI18, 128
128	L10ca	[N-0°]	[長方形]	(3.25) × (2.70)	14	平床		1		電	自然		SI127→本跡→SI118
129	L11bs	N-0°	[長方形]	(4.82) × (2.36)		平床				電	自然	土庫526 須恵器45 陶器3	SI130→本跡
130	L10ba	N-0°W	不明	(3.96) × (3.50)	18	平床		1	1		電	土庫583 須恵器5	本跡→SI129

2 方形竪穴遺構

方形竪穴遺構は、調査2区で1基、調査4区で2基検出されている。特に、調査4区で確認された遺構では、竹粉や人の歯等が確認されているため、墓塚であったと思われる。以下にその特徴を記載する。

第1号方形竪穴遺構 (第242図)

位置 調査2区西部, L12j2区。

重複関係 第94号住居跡, 第42号土坑を掘り込んでいるため, 本跡が新しい。

規模と平面形 長軸2.30m, 短軸1.60mの方形である。

長軸方向 N-80°-W

壁 壁高は25cm前後で, 外傾して立ち上がる。

床面 ほぼ平坦である。北西コーナー部と南壁中央から長径35~50cm, 短径25~30cmの楕円形で, 深さ7~15cmのピットが, 底面中央部から, 径14cmの円形のピットが確認されている。

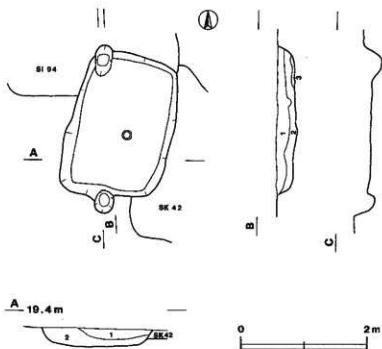
覆土 3層からなるが, 人為堆積か自然堆積かは不明である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量 | 3 暗褐色 ローム粒子中量, ローム小ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量 | |

遺物 土師質土器片21点, 須恵器片8点が出土している。いずれも細片で, 覆土中からの出土である。

所見 出土遺物が少なく本跡の時期を判断するのは難しいが, 遺構の形態から中世と思われる。



第242図 第1号方形竪穴遺構実測図

第2号方形竪穴遺構 (第243図)

位置 調査4区中央部, IIIas区。

規模と平面形 長軸5.00m, 短軸3.70mの方形である。

長軸方向 N-78°-E

壁 壁高は23~33cm前後で, 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。東壁下中央部から長径23cm, 短径20cmの楕円形で, 深さ15cmのピットが確認されている。

覆土 9層からなり, 人為堆積である。

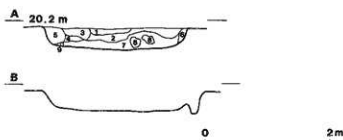
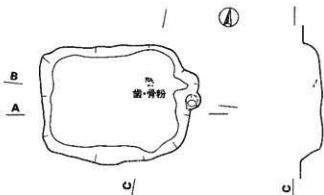
土層解説

- 1 灰褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック中量, 炭化粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子・炭化物少量
- 4 褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック中量, ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 6 褐色 ローム粒子多量

- 7 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・ローム中ブロック・炭化粒子少量
 8 灰褐色 ローム中ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
 9 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量

遺物 出土遺物は、土師器片29点、須恵器片1点、鉄滓1点である。いずれも細片であり、覆土中からの出土である。その他に、北東部覆土下層から人の歯が、そのすぐ下から骨粉が確認されている。

所見 出土遺物が少なく、流れ込みと思われるため、本跡の時期を判断するのは難しいが、遺構の形態や骨粉と歯が確認されていることから、中世の墓塚と思われる。



第243図 第2号方形穴遺構実測図

第3号方形穴遺構 (第244図)

位置 調査4区中央部、H11js区。

規模と平面形 長軸2.40m、短軸2.05mの長方形である。

長軸方向 N-82°-E

壁 壁高は60cm前後で、垂直に立ち上がる。

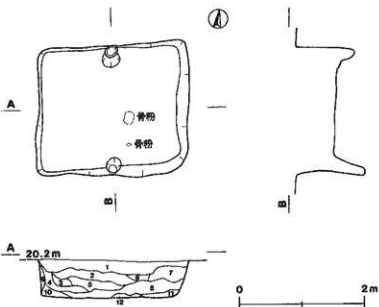
底面 ほぼ平坦である。北壁中央部から長径21cm、短径16cmの楕円形で、深さ50cmのビットが、南壁中央部から径23cmの円形で、深さ30cmのビットが確認されている。

覆土 12層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量、焼土小ブロック微量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量、焼土粒子微量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量
- 褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック多量、ローム大ブロック少量、焼土粒子微量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック多量、ローム大ブロック中量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック多量、ローム大ブロック少量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量、ローム大ブロック多量、粘土粒子微量
- 黒褐色 ローム粒子少量
- 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・焼土粒子微量
- 褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック・ローム大ブロック多量
- 灰褐色 灰中量、ローム粒子・骨粉微量

第244図 第3号方形穴遺構実測図



遺物 土師器片200点、須恵器片11点が出土している。いずれも細片で、覆土中からの出土である。北東コー

ナ一部近くの底面から骨粉と灰が確認されている。

所見 遺物はいずれも流れ込みで、本跡の時期を判断するのは難しいが、遺構の形態や底面から骨粉が確認されていることから、中世の墓塚と思われる。

表3 熊の山遺跡方形竪穴遺構一覧表

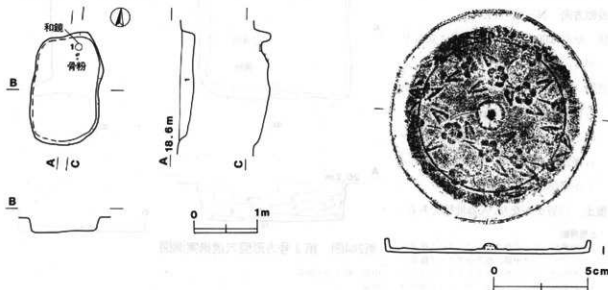
方形 竪穴 番号	位置	長短方向	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考
				長軸×短軸(m)	深さ(cm)					
1	L12j2	N-80°-W	方形	2.30×1.60	25	外傾	平直	不明	土師器21 須恵器8	中世
2	I11a	N-78°-E	方形	5.00×3.70	33	外傾	平直	人為	土師器29 須恵器1 鉄滓1	覆土から歯と骨粉 墓塚 中世
3	H11j2	N-82°-E	長方形	2.40×2.05	60	垂直	平直	人為	土師器200 須恵器11	底面から骨粉と灰 墓塚 中世

3 土坑

当遺跡からは、調査2区、調査4区を中心に多数の土坑が検出されている。調査当初、土坑として番号を付したものは128基を数えるが、調査及び整理の過程で地下式塚、方形竪穴状遺構、井戸等として分類・整理したものが、明らかに近代以降に属する掘り込み及び攪乱・木根痕と判断し欠番としたものを除いた最終的な土坑数は101基となる。101基の土坑の内、中世から近世にかけての墓塚、墓塚の可能性が考えられるものについてはここで記載し、それ以外の土坑については、一覧表で記載した。

(1) 墓塚

第7号土坑 (第245図)



第245図 第7号土坑実測・出土遺物拓影図

位置 調査2区東部、L13j3区。

規模と平面形 長軸1.75m、短軸1.07mの長方形である。

長軸方向 N-0°

壁 壁高は10~23cmで、垂直に立ち上がる。

底面 ほゞ平坦である。

覆土 単一層で、人為堆積である。

土層解説

1 黒色 ローム粒子・ローム小ブロック微量

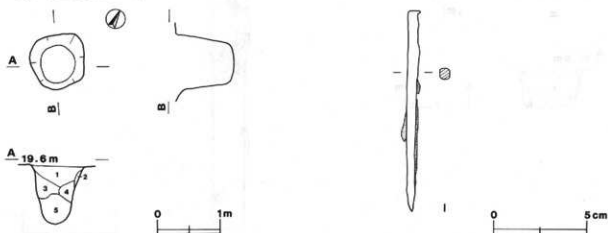
遺物 土師器片18点、須恵器片8点、和鏡1面が出土している。1の和鏡（山吹双鳥鏡）が北東コーナー近くの覆土上層から出土している。また、骨粉がその下層から確認されている。

所見 本跡は出土遺物から、平安時代末～中世初期の墓と考えられる。

第7号土壇出土遺物観察表

図版番号	種別	計 測 値						備 考	
		直径(cm)	縁高(cm)	厚さ(cm)	縁座径(cm)	縁径(cm)	縁高(cm)		重量(g)
第30図 1	和鏡 山吹双鳥鏡	10.7	0.6	0.2	1.6	0.5~0.7	0.3	109.0	M41 白銅製 覆土上層 100%

第9号土壇（第246図）



第246図 第9号土壇・出土遺物実測図

位置 調査2区西部、L119区。

規模と平面形 一辺86cm前後の方形である。

長径方向 N-27°-W

壁 壁高は86cm前後で、垂直に立ち上がる。

底面 ほゞ平坦である。

覆土 5層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量
- 3 黒暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 5 黒暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

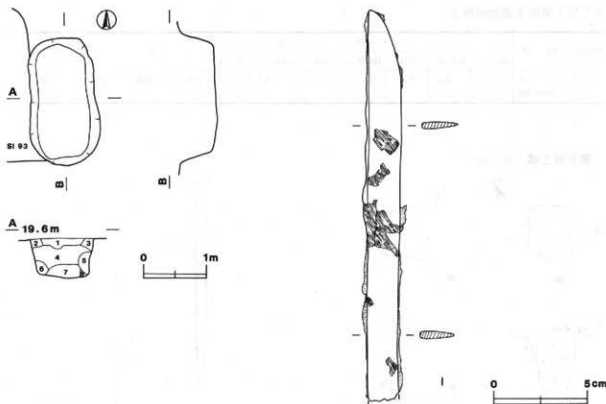
遺物 土師器片15点、須恵器片4点、鉄製品1点が出土している。1の刀子が覆土中から出土している。

所見 本跡は、遺構の形態や覆土中から刀子が出土していることから、中近世の墓と思われる。

第9号土壌出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値				編	考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)		
第9図1	鉄釘	10.6	0.5	0.6	13.0	M42	覆土中 100%

第18号土壌 (第247図)



第247図 第18号土壌・出土遺物実測図

位置 調査2区西部, L11j9区。

重複関係 第93号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長径2.05m, 短径1.00mの長方形である。

長径方向 N-4°-W

壁 壁高は50-60cmで、ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 8層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量、ローム大ブロック微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子微量

- 7 緑褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
8 緑褐色 ローム粒子微量

遺物 土師器片1点、鉄製品1点が出土している。1の刀子が北部の覆土下層から出土している。

所見 本跡は、遺構の形態や覆土下層から刀子が出土していることから、中近世の墓と考えられる。

第18号土壌出土遺物観察表

図説番号	種別	計 測 値				備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第204回1	刀 子	(20.6)	1.9	0.5	(49.0)	M43 鉄製 覆土下層 90%

第24号土壌 (第248回)

位置 調査2区南部, M12c₁区。

重複関係 本跡は第23号土壌に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と平面形 第23号土壌に掘り込まれているため規模は不明であるが、長径 [1.42] m、短径1.17mの楕円形と推定される。

長径方向 N-84°-W

壁 壁高は20cm前後で、緩やかに立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 3層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量、炭化物・焼土小ブロック微量
5 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック少量
6 褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量

遺物 灰軸陶器片1点と刀子1点が出土している。1の刀子が東壁下の覆土上層から出土している。

所見 本跡は、出土遺物や遺構の形態から、中世の墓と考えられる。

第24号土壌出土遺物観察表

図説番号	種別	計 測 値				備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第204回1	刀 子	(17.6)	2.3	0.3-0.5	(47.0)	M44 鉄製 覆土上層 80%

第45号土壌 (第248回)

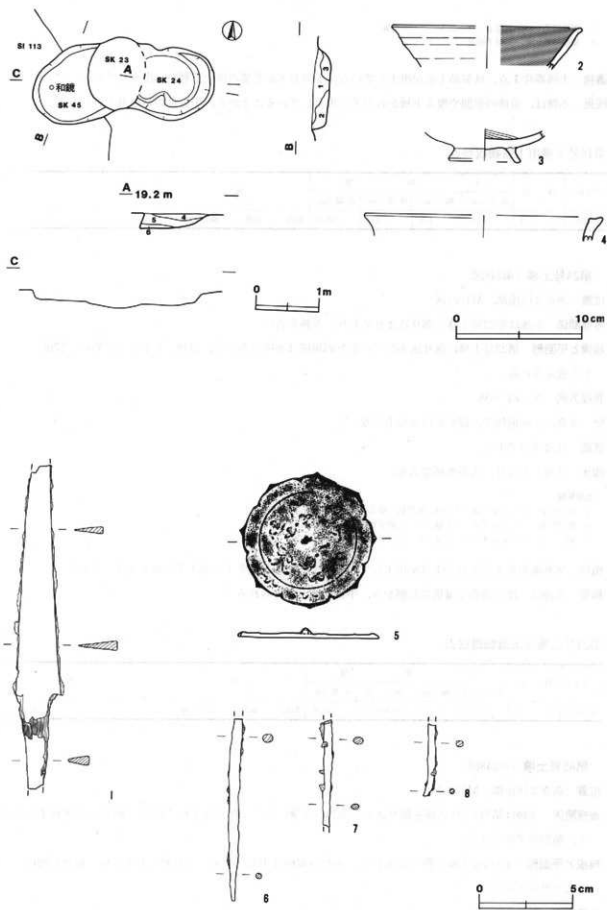
位置 調査2区南部, M12c₄区。

重複関係 本跡は第113号住居跡を掘り込み、第23号土壌によって掘り込まれており、第113号住居跡より新しく、第23号土壌より古い。

規模と平面形 第113号土壌に掘り込まれているため規模は不明であるが、長径 [1.40] m、短径1.08mの楕円形と推定される。

長径方向 N-63°-E

壁 壁高は12-15cmで、外傾して立ち上がる。



第248图 第24・45号土坑・出土遺物実測・拓影图

底面 ほほ平坦である。

覆土 3層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック少量、炭化物・骨粉微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・粘土中ブロック・粘土小ブロック少量、炭化小ブロック微量
- 3 暗褐色 粘土中ブロック中量、ローム小ブロック少量、炭化物・粘土小ブロック微量

遺物 土師器片105点、須恵器片1点、鉄製品1点、和鏡1面が出土している。2の土師器環と3の高台付環が覆土中から、5の和鏡(梅花八枚鏡)が北西部覆土上層から出土し、骨粉がそのすぐ下層から確認されている。また、6, 7, 8の不明鉄製品が南部覆土上層から、4の土師器甕が中央部覆土上層から出土している。

所見 本跡は出土遺物から、平安末から中世初期の墓と考えられる。

第45号土壌出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
2	土 師 器	A [15, 8]	口縁部、体部上半破片。体部は外縁して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へう磨き。体部外周クロコナテ。内面黒色処理。	赤橙・赤褐色 普通	P456 5% 覆土中
		B (3, 3)				
3	高台付環 土 師 器	B (2, 2)	体部破片。平裏に「ハ」の字状に開く高台が付く。	底部内面へう磨き。底部内縁へう磨り。	砂粒・長石・シリシア・パミス・雲母。褐色。普通	P457 10% 覆土中
		D [5, 6]				
		E 1.0				
4	甕 土 師 器	A [19, 6]	口縁部はわずかに外反し、踵部は外につまみ上げられている。	口縁部内・外面黄ナテ。	砂粒・長石 褐色 普通	P458 5% 覆土上層
		B (1, 8)				

図版番号	種 別	計 測 値					備 考	
		直径(cm)	径さ(cm)	縁地径(cm)	縁径(cm)	縁高(cm)		重量(g)
5	和 鏡 梅花八枚鏡	7.5	0.3	0.3-0.7	0.3	0.4	46.0	M45 白銅製 覆土上層 100%

図版番号	種 別	計 測 値				備 考
		長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	
6	不明鉄製品	(9, 7)	0.3	0.5	(8, 0)	M46 覆土上層
7	不明鉄製品	(5, 7)	0.5	0.4	(4, 0)	M35 覆土上層
8	不明鉄製品	(3, 9)	0.4	0.3	(2, 0)	M56 覆土上層

第78号土壌 (第249図)

位置 調査2区東部、L13is区。

規模と平面形 長軸1.10m、短軸0.90mの長方形である。

長軸方向 N-20°-W

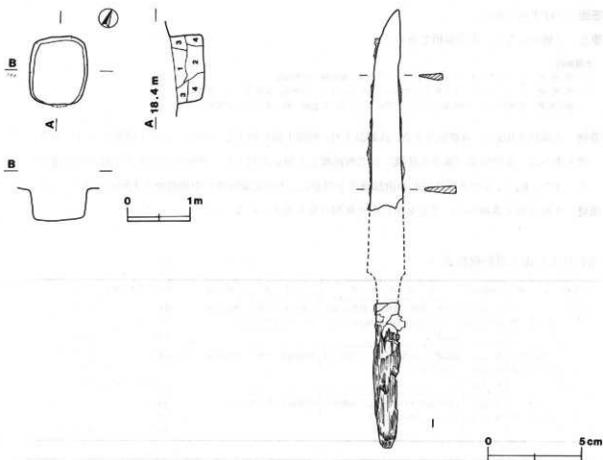
壁 壁高は47cm前後で、ほほ垂直に立ち上がる。

底面 ほほ平坦である。

覆土 4層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、炭化物微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量



第249図 第78号土壌・出土遺物実測図

遺物 土師器片48点、須恵器片4点、灰釉陶器片1点、鉄製品1点が出土している。1の刀子が中央部西寄り
の覆土下層から出土している。人骨と歯がその南側の下層から確認されている。

所見 本跡は出土遺物や遺構の形態から、中世の墓と考えられる。

第78号土壌出土遺物観察表

図版番号	種別	計測値						備考
		長さ (cm)	刀長 (cm)	茎長 (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第249図1	刀子	[23.0]	(10.5)	(7.7)	1.8	0.4	(27.0)	M47 鉄製 覆土下層 70%

第103号土壌 (第250図)

位置 調査4区東部、I11b7区。

重複関係 第122号住居跡の上部に存在し、第104号土坑を掘りこんでいるため、本跡が最も新しい。

規模と平面形 長軸1.50m、短軸1.30mの長方形である。

長軸方向 N-85°-W

壁 壁高は14~20cmで、外傾して立ち上がる。

底面 ほほは平坦である。北西部から骨粉が確認されている。

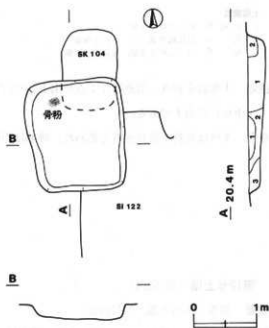
覆土 3層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量、灰微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 3 棕褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子・灰微量

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は出土遺物がなく時期判断が難しいが、底面から骨粉が確認されていることや遺構の形態から、中近世の墓塚と考えられる。



第250図 第103号土壌実測図

表4 熊の山遺跡墓塚一覧表

土坑番号	位置	長径方向 (長軸方向)	平面形	築 設		壁面	底面	覆土	主な遺物	備 考
				長径(軸)×短径(軸)(m)	深さ(m)					
7	L131a	N-0°	長方形	1.75 × 1.07	23	垂直	平坦	人為	土師器18 須恵器6 和鏡1	覆土から骨粉 墓塚 12世紀初
9	L111a	N-27°-W	方形	0.87 × 0.84	86	垂直	平坦	人為	土師器15 須恵器4 刀子1	墓塚 中近世
18	L111b	N-4°-W	長方形	2.05 × 1.00	60	垂直	平坦	人為	土師器1 刀子1	SH93→本跡 墓塚 中近世
24	M12ca	N-84°-W	【楕円形】	[1.42] × 1.17	20	外傾	平坦	人為	灰釉陶器1 刀子1	本跡→SK23 墓塚 中世
45	M12ca	N-63°-E	【楕円形】	[1.40] × 1.08	15	外傾	平坦	人為	土師器105 須恵器1 和鏡1 鉄鏡1	SH112→本跡→SK23 墓塚 中世
78	L131a	N-20°-W	長方形	1.10 × 0.90	47	垂直	平坦	人為	土師器48 須恵器4 灰釉1 刀子1	覆土から人骨と歯 墓塚 中世
103	I111b7	N-85°-W	長方形	1.50 × 1.30	20	外傾	平坦	人為		底面から骨粉 墓塚 中近世

(2) 墓塚の可能性のある土坑

前述した7基の墓塚の内、6基は調査2区の第9号溝の西側から検出されており、その周辺からは他にも覆土が人為堆積で平面形が墓塚に類似している土壌が多数確認されている。また、調査4区でも、地下式墳や骨粉、歯が確認された方形竪穴遺構の周辺に、覆土が人為堆積で平面形が墓塚に類似している土壌が確認されている。これらの土壌は遺物が出土していないか、出土していても流れ込みとみられ、時期も不明であるが、それぞれに中近世の墓塚を形成していた可能性も考えられるため、以下にその特徴を記載する。

第11号土坑 (第251図)

位置 調査2区西部、M111b区。

規模と平面形 長径1.40m、短径1.20mの楕円形である。

長径方向 N-40°-E

壁 壁高は12~18cmで、緩斜して立ち上がる。

底面 壁際が緩やかに低くなり、中央部が若干くぼむ。

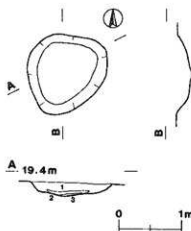
覆土 3層からなり、人為堆積である。2層から炭化物が多量に確認されている。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒色 炭化物多量、ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量

遺物 1. 師器片40点、須恵器片7点が出土している。いずれも細片で覆土中からの出土である。

所見 本跡は遺物が流れ込みと思われ、時期は不明である。



第251図 第11号土壌実測図

第12号土壌 (第252図)

位置 調査2区西南部, M11cs区。

規模と平面形 長径1.10m, 短径1.00mの楕円形である。

長径方向 N-1°-W

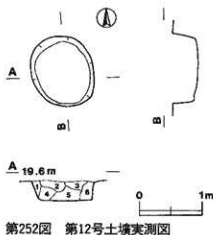
壁 壁高は35cm前後で、垂直に立ち上がる。

底面 はほぼ平坦である。

覆土 6層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 1 黒色 炭化粒子・粘土粒子少量、ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量、粘土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子・粘土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム小ブロック少量、粘土粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 炭化粒子・粘土粒子・粘土中ブロック少量、ローム粒子・造土小ブロック微量



第252図 第12号土壌実測図

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は、遺物がなく時期は不明であるが、覆土の各層から粘土が確認されている点や遺構の形態から、粘土貼りの土壌であったと思われる。

第14号土壌 (第253図)

位置 調査2区西南部, M11ds区。

規模と平面形 長径1.40m, 短径1.15mの楕円形である。

長径方向 N-0°

壁 壁高は20cm前後で、外傾して立ち上がる。

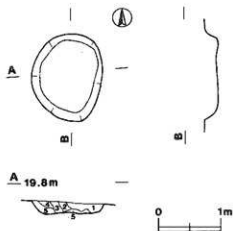
底面 緩やかな凹凸があるが、ほぼ平坦である。

覆土 5層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム中ブロック・炭化粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子多量

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。
所見 本跡は、遺物がなく時期は不明である。



第253図 第14号土壌実測図

第16号土壌 (第254図)

位置 調査2区西南部, M11e区。

規模と平面形 径1.15mの円形である。

長径方向 N-27°-W

壁 壁高は20cm前後で、緩やかに立ち上がる。南西壁際から長径28cm, 短径25cmの楕円形で、深さ28cmのピットが確認されている。

底面 緩やかな凹凸があるが、ほぼ平坦である。

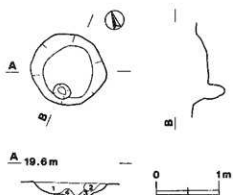
覆土 4層からなり、人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 4 黒暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は、遺物がなく時期は不明である。



第254図 第16号土壌実測図

第17号土壌 (第255図)

位置 調査2区西南部, M11e区。

規模と平面形 長径74cm, 短径60cmの楕円形である。

長径方向 N-0°

壁 壁高は16~22cmで、垂直に立ち上がる。

底面 はほぼ平坦である。

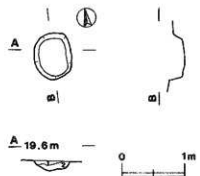
覆土 2層からなるが、人為堆積か自然堆積かは不明である。

土層解説

- 1 黒色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒子中量

遺物 土師器片40点, 須恵器片7点が出土している。いずれも細片で覆土中からの出土である。

所見 遺物はいずれも流れ込みと思われる、本跡の時期は不明である。



第255図 第17号土壌実測図

第23号土墳 (第256図)

位置 調査2区南部, M12c4区。

重複関係 本跡は、第24号土墳と第45号土墳を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 第24号土墳、第45号土墳と重複しているため規模は不明であるが、長径1.15m、短径 [0.90] mの楕円形と推定される。

長径方向 N-6°-E

壁 壁高は32cm前後で、外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 単一層で、人為堆積である。

土層解説

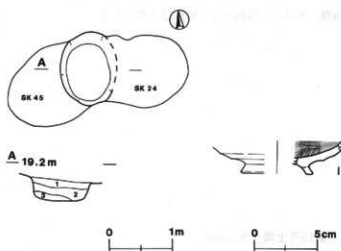
1 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 土師器片2点が出土している。1の土師器高台付坏が北部覆土下層から出土している。

所見 第24号土墳や第45号土墳より新しいこと、両者とも中世の墓墳であることなどから、本跡も中世の墓墳と思われる。

第23号土墳出土遺物観察表

採取番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第256図 1	高台付坏 土師器	B (2.0) D [3.7] E 0.6	底部破片。平底に「へ」の字状に開く短い高台が付く。	内面へう磨き。内面黒色処理。	砂粒・スコリアにふい橙色 普通	P455 20% 覆土下層



第256図 第23号土墳・出土遺物実測図

第36号土墳 (第257図)

位置 調査2区中央部, M12a9区。

規模と平面形 長軸1.72m、短軸1.35mの長方形である。

長径方向 N-0°

壁 壁高は24~33cmで、外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。北東コーナーから径約43cmの不整形円で、深さ15cmのピットが確認されている。

覆土 2層からなり、人為堆積か自然堆積かは不明である。

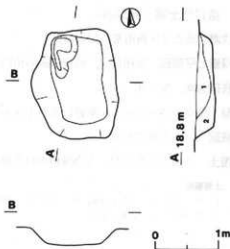
土層解説

1 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック微量

2 黒褐色 ローム中ブロック少量

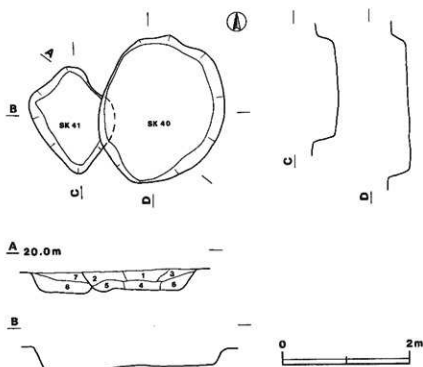
遺物 土師器片3点が出土している。いずれも細片で覆土中からの出土である。

所見 本跡は遺物が少なく、いずれも流れ込みと思われる、時期は不明である。



第257図 第36号土墳実測図

第40号土坑 (第258図)



第258図 第40・41号土坑実測図

位置 調査2区南部, M12bs区。

重複関係 第41号土坑を掘り込んでおり, 本跡が新しい。

規模と平面形 長径2.30m, 短径2.00mの楕円形である。

長径方向 N-0°

壁 壁高は23~35cmで, 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 6層からなり, 人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック微量

- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム大ブロック微量
- 6 黒褐色 粘土小ブロック・焼土粒子微量

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は, 遺物がなく時期は不明である。

第41号土坑 (第258図)

位置 調査2区南部, M12bs区。

重複関係 第40号土坑を掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 長軸1.40m, 短軸1.10mの長方形である。

長軸方向 N-40°-W

壁 壁高は25~35cmで, ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。

覆土 2層からなるが、人為堆積か自然堆積かは不明である。

土層解説

- 7 灰暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 8 暗褐色 ローム粒子・焼土粒子少量

遺物 土師器片10点が出土している。

所見 本跡は遺物が少なく、いずれも流れ込みと思われるため、時期は不明である。

第88号土坑 (第259図)

位置 調査4区中央部、I11d3区。

規模と平面形 長軸2.30m、短軸1.60mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-89°-E

壁 壁高は12~15cmで、外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。北部から径25cm、深さ12cmの円形のピットが確認されている。

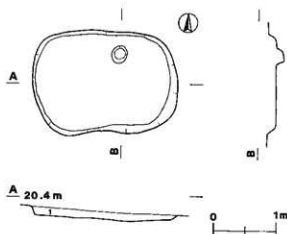
覆土 単一層で、人為堆積である。

土層解説

- 1 灰暗褐色 ローム小ブロック中量

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は、遺物がなく時期は不明である。



第259図 第88号土坑実測図

第95号土坑 (第260図)

位置 調査4区中央部、I11c3区。

規模と平面形 長径1.36m、短径1.02mの楕円形である。

長径方向 N-85°-W

壁 壁高は5~7cmで、外傾して立ち上がる。南壁から径30cm、深さ17cmの円形のピットが確認されている。

底面 ほぼ平坦である。

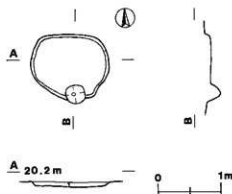
覆土 単一層で、人為堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック・ローム大ブロック少量

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は、出土遺物がなく時期は不明である。



第260図 第95号土坑実測図

第96号土墳 (第261図)

位置 調査4区東部, I11a区。

規模と平面形 長軸1.78m, 短軸1.35mの隅丸長方形である。

長軸方向 N-77°-W

壁 壁高は8~10cmで、外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。南壁の南東コーナー部と南西コーナー部から長径45cm, 短径29~34cmの円形で、深さ37~50cmのビットが、西部から径23cmの円形、深さ14cmのビットが確認されている。

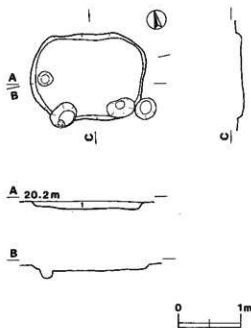
覆土 単一層で、人為堆積か自然堆積かは不明である。

土層解説

1 黒褐色 ローム粒子微量

遺物 土師器片23点, 須恵器片3点が出土している。いずれも細片で覆土中からの出土である。

所見 本跡は遺物が流れ込みと思われ、時期は不明である。



第261図 第96号土墳実測図

第104号土墳 (第262図)

位置 調査4区東部, I11a区。

重複関係 第103号土墳に掘り込まれているため、本跡が古い。

規模と平面形 第103号土墳に掘り込まれているため規模は不明であるが、長軸 [1.24] m, 短軸0.87mの長方形と推定される。

長軸方向 N-6°-E

壁 壁高は20~26cmで、外傾して立ち上がる。南壁が第103号土墳に掘り込まれているため、残存しない。

底面 ほぼ平坦である。

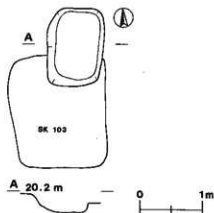
覆土 2層からなり、人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム大ブロック微量
2 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック多量

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は、出土遺物がなく時期は不明である。



第262図 第104号土墳実測図

第107号土墳 (第263図)

位置 調査4区東部, I11c区。

規模と平面形 長軸1.62m, 短軸1.00mの長方形である。

長軸方向 N-85°-E

壁 壁高は35~45cmで、外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。北東コーナー部から径約43cmの小整円形で、深さ1.04mのビットが確認されている。

また、北壁のすぐ外側から、長径35～57cm、短径30～44cmの楕円形で、深さ37～71cmのピットが2か所確認されている。

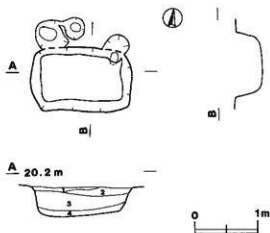
覆土 4層からなるが、人為堆積か自然堆積かは不明である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・焼土粒子微量
- 2 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子・焼土粒子・粘土小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック微量

遺物 土師器片46点、須恵器片3点が出土している。いずれも細片で覆土中からの出土である。

所見 本跡は遺物が流れ込みと思われ、時期は不明である。



第263図 第107号土坑実測図

第109号土坑 (第264図)

位置 調査4区東部、I11ca区。

規模と平面形 長径1.02m、短径0.88mの楕円形である。

長径方向 N-46°-E

壁 壁高は27～30cmで、外傾して立ち上がる。

底面 南西部から階段状に下がり、北東コーナー部から長径30cm、短径23cmの楕円形で、深さ11cmのピットが確認されている。

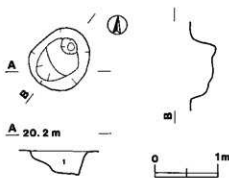
覆土 単一層で、人為堆積である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・中ブロック少量

遺物 木跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は、遺物がなく時期は不明である。



第264図 第109号土坑実測図

第110号土坑 (第265図)

位置 調査4区東部、I11ca区。

規模と平面形 長径1.37m、短径1.08mの楕円形である。

長径方向 N-0°

壁 壁高は25cm前後で、外傾して立ち上がる。

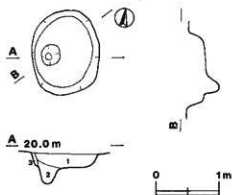
底面 はほぼ平坦である。西部から径30cmの円形で、深さ24cmのピットが確認されている。

覆土 3層からなるが、人為堆積か自然堆積かは不明である。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子少量
- 2 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

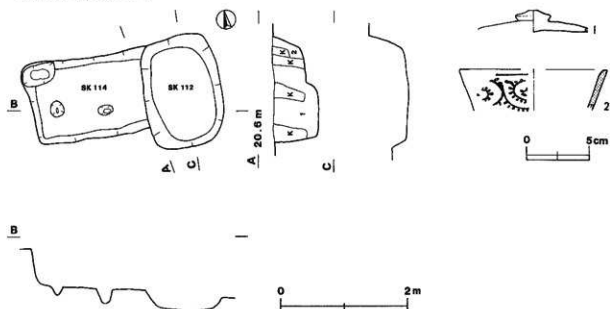
遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。



第265図 第110号土坑実測図

所見 本跡は、遺物がなく時期は不明である。

第112号土壌 (第266図)



第266図 第112・114号土壌・出土遺物実測図

位置 調査4区中央部, I11g2区。

重複関係 第114号土壌を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸1.75m, 短軸1.23mの長方形である。

長径方向 N-0°

壁 壁高は16~50cmで、外傾して立ち上がる。

底面 はほぼ平坦である。

覆土 単一層で、人為地積である。

土層解説

1 珪褐色 ローム小ブロック中粒, ローム中ブロック少量

遺物 土師器片96点, 須恵器片7点, 陶器片6点が出土している。覆土中から1の須恵器蓋と2の磁器片が出土している。

所見 本跡は、覆土が擾乱を受けており、遺物も流れ込みと思われるため、時期は不明である。

第112号土壌出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値[m]	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第266図 1	壺 須恵器	B (1.8)	天井部破片。天井頂部は平坦で、中央部に縦糸珠状の溝みが付く。	天井部内・外面ロクロナデ、天井頂部同転へろすり。	砂粒・長石・雲母	P459
		F 2.6			灰白色	30%
		G 0.9			普通	覆土中
2	染付筒 磁器	A [14.0]	口縁部破片。体部はわずかに外傾気味に立ち上がる。	体部外面に暗褐色文。	灰白色	P460 5%
		B (3.3)			良好	覆土中

第114号土壌 (第266図)

位置 調査4区中央部, I11g区。

重複関係 第112号土壌に掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 東壁が第112号土壌によって掘り込まれているため規模は不明であるが, 長軸 [2.00] m, 短軸1.30mの長方形と推定される。

長径方向 N-90°

壁 壁高は54cm前後で, 外傾して立ち上がる。東壁が第112号土壌によって掘り込まれ, 残存しない。

底面 ほぼ平坦である。南部と西部から, 長径25-27cm, 短径16-22cmの楕円形で, 深さ14-24cmのピットが2か所, 北西コーナー部から長径58cm, 短径32cmの不整楕円形で, 深さ28cmのピットが確認されている。

覆土 単一層で, 人為堆積である。

土層解説

2 暗褐色 ローム小ブロック・中ブロック中量

遺物 土師器片32点, 須恵器片6点, 陶器片1点が出土している。いずれも細片で覆土中からの出土である。

所見 本跡は出土遺物が流れ込みと思われ, 時期は不明である。

第115号土壌 (第267図)

位置 調査4区東部, I11cs区。

規模と平面形 長軸1.68m, 短軸1.03mの長方形である。

長径方向 N-90°

壁 壁高は18-21cmで, 外傾して立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。北東コーナー壁外, 北西コーナー壁外, 南西コーナー壁外の3か所に, 長径60-75cm, 短径38-42cmの楕円形で, 深さ20-90cmのピットが, 南東コーナーの南側の壁外に径40cmの円形で, 深さ73cmのピットが確認されている。

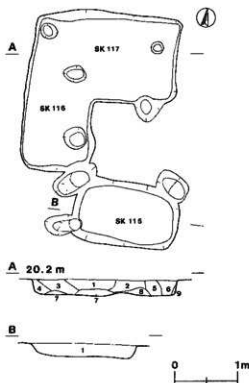
覆土 単一層で, 人為堆積である。

土層解説

1 黒褐色 ローム小ブロック中量, ローム中ブロック少量

遺物 土師器片2点が出土しているが, 細片で覆土中からの出土である。

所見 各コーナーの壁外から確認されたピットから, 土壌は上層を伴っていたと考えられる。時期は, 出土遺物が少なく流れ込みのため, 不明である。



第267図 第115・116・117号土壌実測図

第116号土壌 (第267図)

位置 調査4区東部, I11cs区。

重複関係 第117号土壌と, 第115号土壌のピットに掘り込まれており, 本跡が古い。

規模と平面形 第117号土壌と重複しているため規模は不明であるが, 長軸 [2.50] m, 短軸1.10mの長方形

と推定される。

長径方向 N-4°-W

壁 壁高は20cm前後で、ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。北東部から、長径33cm、短径27cmの楕円形で、深さ8cmのピットが、南東部から径35cm前後の円形で、深さ9cmのピットが確認されている。

覆土 第117号土壌に掘り込まれているため、覆土の堆積状況は不明である。

遺物 土師器片2点が出土しているが、細片で覆土中からの出土である。

所見 本跡は遺物が少なく流れ込みと思われるため、時期は不明である。

第117号土壌 (第267図)

位置 調査4区東部、H11c6区。

重複関係 第116号土壌を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 第116号土壌と重複しているため規模は不明であるが、長軸 [2.33] m、短軸1.40mの長方形と推定される。

長径方向 N-78°-E

壁 壁高は20cm前後で、ほぼ垂直に立ち上がる。

底面 ほぼ平坦である。北東部と北西部から、径18~25cmの円形で、深さ9~10cmのピットが2か所確認されている。また、南東コーナー部西側から、径40cmの円形で、深さ36cmのピットが確認されている。

覆土 9層からなり、人為地積である。

土層解説

- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量 | 6 黒褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量 |
| 2 黒褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量 | 7 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量 |
| 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量 | 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック多量 |
| 4 黒褐色 ローム小ブロック微量 | 9 褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック多量 |
| 5 黒褐色 ローム小ブロック少量 | |

遺物 須恵器片49点、土師器片1点が出土している。いずれも細片で覆土中からの出土である。

所見 本跡は遺物が流れ込みと思われ、時期は不明である。

第123号土壌 (第268図)

位置 調査4区東部、H11j7区。

重複関係 本跡は第122号土壌に掘り込まれており、本跡が古い。

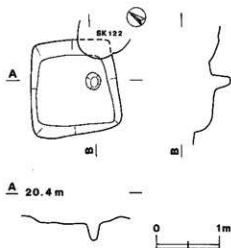
規模と平面形 長軸1.51m、短軸1.31mの長方形である。

長軸方向 N-54°-E

壁 壁高は25cm前後で、ほぼ垂直に立ち上がる。東コーナー部が第122号土壌に掘り込まれており、残存しない。

底面 凹凸気味である。南東壁近くに、径25cmの円形で、深さ32cmのピットが確認されている。

遺物 土師器片15点が出土しているが、いずれも細片で覆土中からである。



第268図 第123号土壌実測図

所見 本跡は遺物が流れ込みと思われ、時期は不明である。

第124号土坑（第269図）

位置 調査4区東部、H11j区。

重複関係 本跡は第100号土坑を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と平面形 長軸1.60m、短軸1.32mの長方形である。

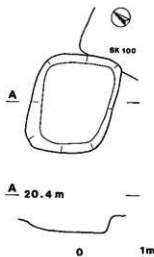
長軸方向 N-70°-E

壁 壁高は20~28cmで、北西壁は緩やかに、南東壁は垂直に立ち上がる。

底面 北西から北東に向けて、緩やかに傾斜している。

遺物 土師器片12点が出土しているが、いずれも細片で覆土中からである。

所見 本跡は出土遺物が流れ込みと思われ、時期は不明である。

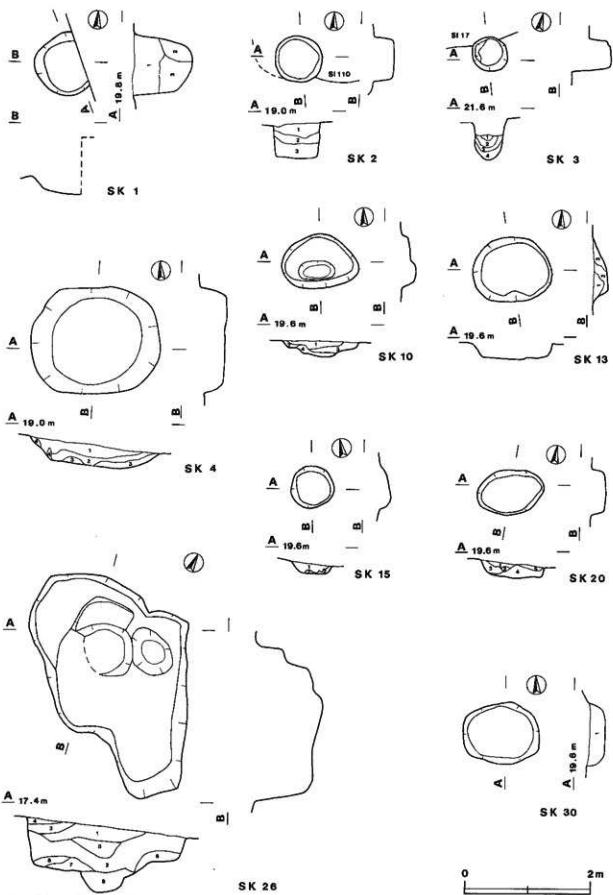


第269図 第124号土坑実測図

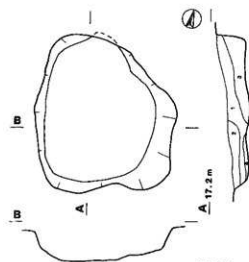
表5 熊の山遺跡墓塚の可能性のある土坑一覧表

土坑番号	位置	長短方向 (長軸方向)	平面形	規模		壁面	底面	覆土	主な遺物	備考
				長径(m)×短径(m)	深さ(m)					
11	M11bo	N 40° E	楕円形	1.40 × 1.20	18	緩斜	直状	人為	土師器40 須恵器7	墓塚の可能性
12	M11ca	N-1° W	楕円形	1.10 × 1.00	35	垂直	平坦	人為		墓塚の可能性 粘土盛り
14	M11da	N-0°	楕円形	1.40 × 1.13	20	緩斜	平坦	人為		墓塚の可能性
16	M11ee	N 27° W	円形	1.15 × 1.15	20	緩斜	直状	不明		墓塚の可能性
17	M11ea	N 0°	楕円形	0.74 × 0.60	22	垂直	平坦	不明	土師器40 須恵器7	墓塚の可能性
23	M12ca	N-6° E	[楕円形]	1.15 × [0.90]	32	外傾	平坦	人為	土師器2	SK24, 45・本跡 墓塚の可能性
36	M12ba	N-0°	長方形	1.72 × 1.35	28	外傾	平坦	不明	土師器3	墓塚の可能性
40	M12ba	N-0°	楕円形	2.30 × 2.00	30	外傾	平坦	人為		SK41→本跡 墓塚の可能性
41	M12ba	N-40° W	長方形	1.40 × 1.10	35	垂直	平坦	不明	土師器10	本跡→SK49 墓塚の可能性
88	I11da	N-89° E	隅丸長方形	2.30 × 1.60	15	外傾	平坦	人為		墓塚の可能性
95	I11ca	N 85° W	楕円形	1.36 × 1.02	7	外傾	平坦	人為		墓塚の可能性
96	I11aa	N-77° W	長方形	1.78 × 1.35	9	外傾	平坦	不明	土師器23 須恵器23	墓塚の可能性
104	I11aa	N 6° E	長方形	[1.24] × 0.87	36	外傾	平坦	人為		墓塚の可能性
107	I11ca	N-85° E	長方形	1.62 × 1.00	44	外傾	平坦	不明	土師器46 須恵器3	墓塚の可能性
109	I11ca	N-46° E	楕円形	1.02 × 0.88	30	外傾	直状	人為		墓塚の可能性
110	I11ca	N-0°	楕円形	1.37 × 1.08	25	外傾	平坦	不明		墓塚の可能性
112	I11ga	N-0°	長方形	1.75 × 1.23	30	外傾	平坦	人為	土師器96 須恵器7 陶器6	SK114→本跡 墓塚の可能性
114	I11ga	N-90°	長方形	[2.00] × 1.30	54	外傾	平坦	人為	土師器32 須恵器6 陶器6	本跡→SK112 墓塚の可能性
115	I11ca	N-90°	長方形	1.68 × 1.03	20	外傾	平坦	人為	土師器2	墓塚の可能性
116	I11ca	N-4° W	[長方形]	[2.30] × 1.10	20	垂直	平坦	—	土師器2	4跡→SK115, 117 墓塚の可能性
117	I11ca	N-78° E	[長方形]	[2.35] × 1.40	20	垂直	平坦	人為	土師器49 須恵器21	SK116→本跡 墓塚の可能性
123	H11j7	N 34° E	長方形	1.51 × 1.31	25	垂直	凹凸	不明	土師器15	本跡→SK122 墓塚の可能性
124	H11j7	N-70° E	長方形	1.60 × 1.32	28	垂直	傾斜	—	土師器12	SK100→本跡 墓塚の可能性

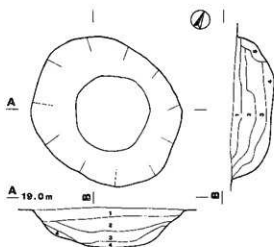
(3) その他の土坑



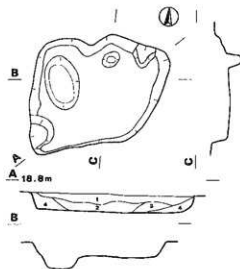
第270图 土坑实测图(1)



SK 31



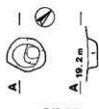
SK 33



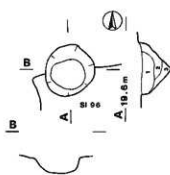
SK 35



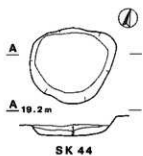
SK 38



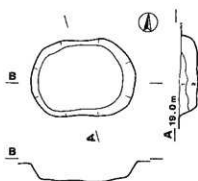
SK 39



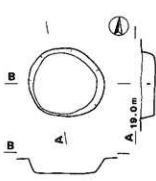
SK 43



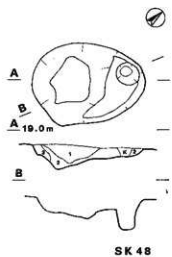
SK 44



SK 46



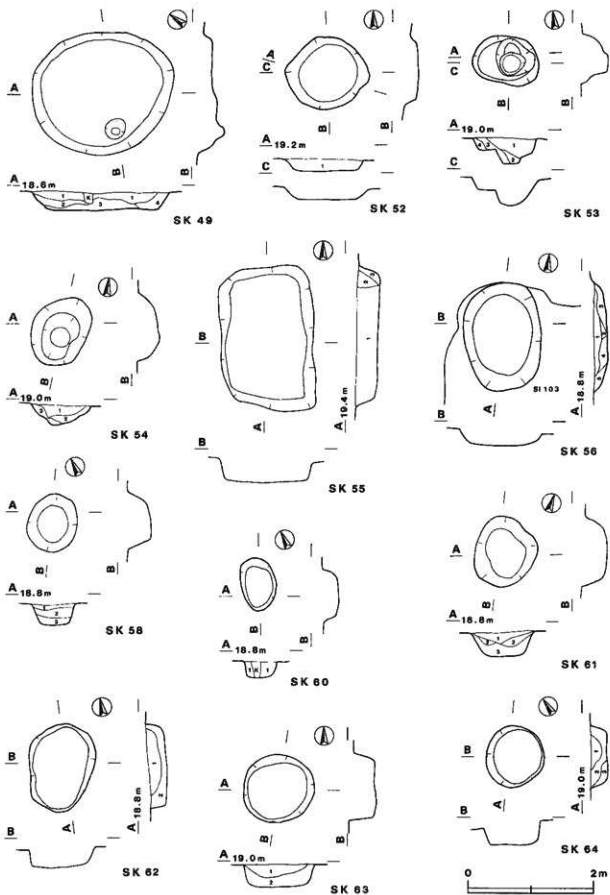
SK 47



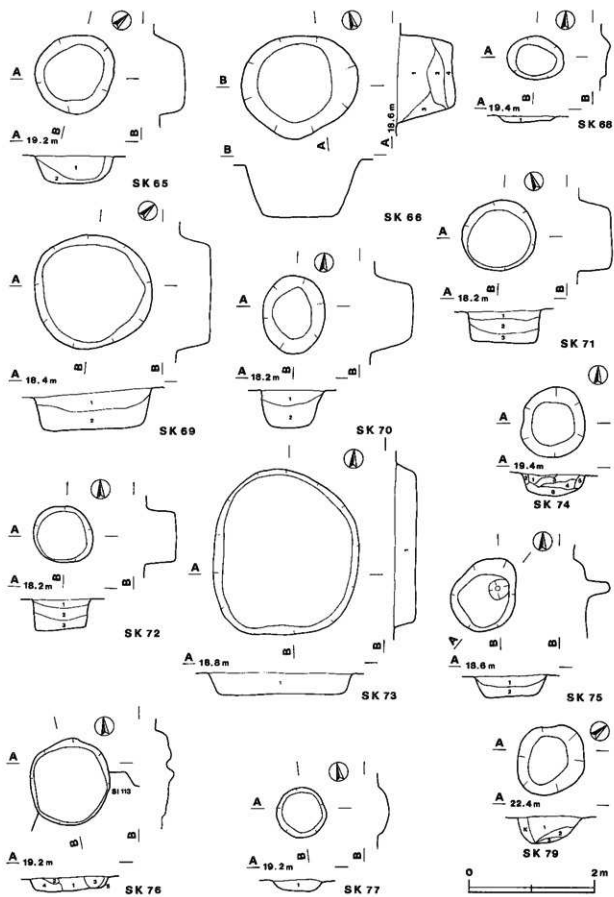
SK 48



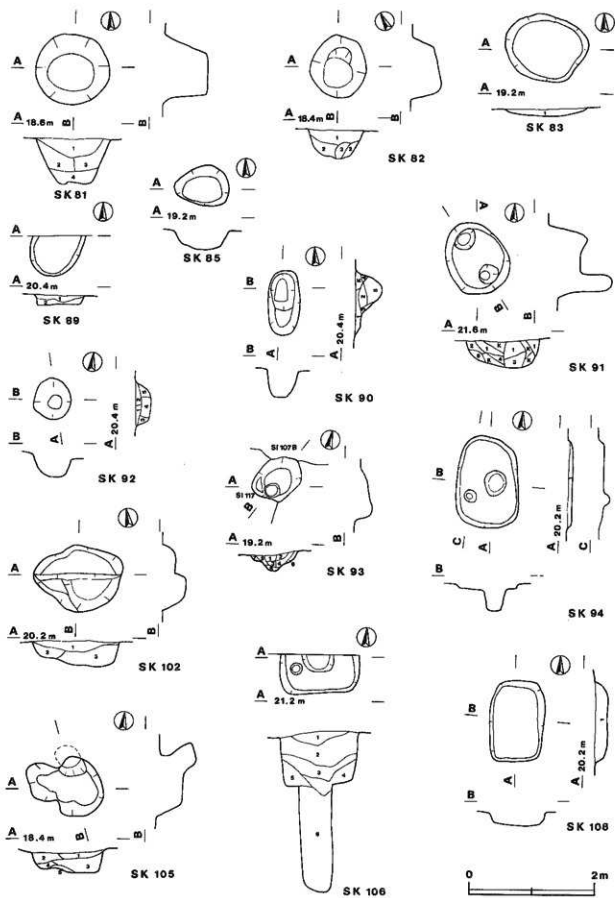
第271图 土坑实测图(2)



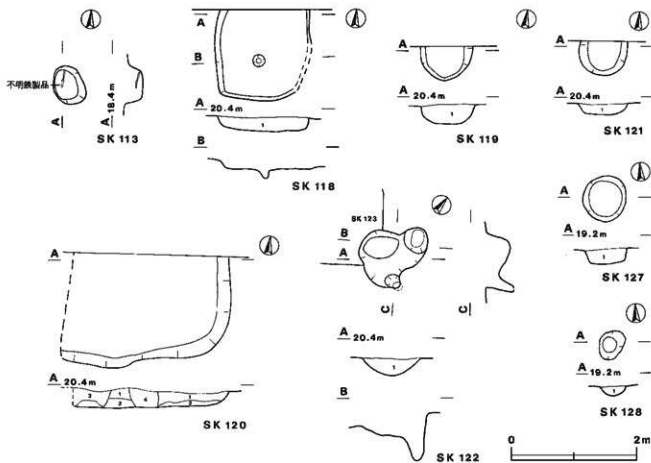
第272图 土坑夹测图(3)



第273图 土坑实测图(4)



第274图 土坑实测图(5)



第275図 土坑実測図(6)

第1号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少根
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第2号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量

第3号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少根, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第4号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒少量, 焼土小ブロック微量
- 3 黒褐色 粘土小ブロック少量, ローム粒少量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック中根

第10号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒少量
- 4 褐色 ローム粒子少量

第13号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒少量

第15号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第20号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック少量
- 2 赤褐色 焼土小ブロック少量, 焼土粒子少量
- 3 褐色 ローム粒少量, 炭化粒少量
- 4 褐色 ローム粒少量
- 5 褐色 ローム粒少量, 炭化粒少量

第26号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量, 焼土粒少量
- 2 暗褐色 ローム粒少量, 粘土粒少量
- 3 暗褐色 粘土中ブロック中量
- 4 黒褐色 粘土粒少量
- 5 黒褐色 ローム粒少量, 粘土粒少量
- 6 灰褐色 ローム小ブロック少量, 粘土小ブロック中量
- 7 黒褐色 粘土粒少量
- 8 黒褐色 粘土中ブロック中量
- 9 褐色 粘土粒少量

第30号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム小ブロック多根, 炭化粒少量

第31号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量, 粘土小ブロック少量
- 2 灰褐色 粘土粒多根
- 3 暗褐色 ローム粒少量, 粘土粒少量
- 4 暗褐色 ローム粒少量, 焼土粒少量

第33号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, 粘土粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子微量
- 5 褐色 ローム粒多量

第35号土坑土層解説

- 1 黒暗褐色 ローム粒少量
- 2 黒暗褐色 ローム小ブロック少量, 粘土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量

第38号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量

第39号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量

第43号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック微量
- 2 黒暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒少量

第44号土坑土層解説

- 1 褐色 ローム粒子少量, 粘土粒子少量
- 2 褐色 ローム粒多量

第46号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量, 焼土粒子微量

第47号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム大ブロック少量, ローム小ブロック中量

第48号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒中量
- 3 褐色 ローム粒多量

第49号土坑土層解説

- 1 黒暗褐色 ローム粒少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒多量
- 4 暗褐色 ローム中ブロック少量

第52号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒少量

第53号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒少量, 炭化粒子少量
- 3 褐色 ローム粒中量
- 4 褐色 ローム粒中量, 炭化粒子少量

第54号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒中量
- 3 褐色 ローム粒多量, 炭化粒子微量

第55号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量

第56号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック微量, 焼土小ブロック微量
- 2 黒褐色 ローム粒少量
- 3 黒褐色 ローム粒少量, 焼土粒子少量
- 4 黒暗褐色 焼土小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 5 暗褐色 ローム中ブロック少量

第58号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム粒中量, 焼土粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒少量, 炭化粒子少量

第60号土坑土層解説

- 1 暗赤褐色 焼土粒少量, 粘土粒子微量

第61号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒中量, 炭化粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒少量

第62号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒微量, 炭化粒子微量

第63号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒少量

第64号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒中量
- 3 暗褐色 ローム粒少量, 炭化粒子微量

第65号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量, 炭化粒子少量
- 2 褐色 ローム粒多量

第66号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒中量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム粒中量
- 4 暗褐色 ローム粒中量, 炭化粒子少量

第68号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量

第69号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム粒少量

第70号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒少量, 炭化粒子少量

第71号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒少量, 炭化粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒少量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量

第72号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒中量, 炭化粒子微量
- 2 黒暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 3 黒暗褐色 ローム粒少量

第73号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子少量

第74号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒少量
- 3 暗褐色 ローム粒少量, 焼土粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒少量, 焼土小ブロック微量
- 5 黒暗褐色 ローム粒微量, 炭化粒子微量
- 6 黒暗褐色 ローム粒微量

第75号土坑土層解説

- 1 暗暗褐色 焼土小ブロック中量, 炭粒子少量
- 2 黒褐色 ローム粒子少許, 焼土小ブロック微量

第76号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, 焼土小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量

第77号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第79号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 2 褐色 ローム粒子多量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量

第81号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック少量, 炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子微量
- 3 暗褐色 ローム中ブロック微量, ローム粒子少量
- 4 灰褐色 ローム粒子中量

第82号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量

第83号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量

第89号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子少量

第90号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 2 暗暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子少量
- 3 黒褐色 ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子微量

第91号土坑土層解説

- 1 暗暗褐色 ローム小ブロック少量
- 2 暗暗褐色 ローム中ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子多量

第92号土坑土層解説

- 1 暗暗褐色 ローム粒子少量
- 2 暗暗褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少許
- 5 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量

第93号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子微量, 炭化粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック少許
- 5 暗暗褐色 ローム小ブロック微量
- 6 暗暗褐色 ローム小ブロック少許
- 7 暗暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子微量
- 8 暗暗褐色 ローム粒子微量

第94号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック少量

第102号土坑土層解説

- 1 暗暗褐色 ローム粒子微量
- 2 明褐色 ローム粒子多量
- 3 明褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子多量

第105号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子少許, 焼土小ブロック少許
- 2 暗褐色 ローム粒子少量, 焼土小ブロック中量
- 3 褐色 ローム粒子中量, 焼土小ブロック少量
- 4 褐色 ローム粒子中量, 焼土粒子中量
- 5 褐色 ローム粒子中量, 炭化粒子少量

第106号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム大ブロック中量
- 2 暗暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 3 暗暗褐色 ローム中ブロック少許, ローム粒子少許
- 4 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム中ブロック少量, ローム粒子少量

第108号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 炭化粒子少量

第118号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック少量, ローム小ブロック少量

第119号土坑土層解説

- 1 黒褐色 ローム中ブロック中量, ローム小ブロック少量

第120号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子中量
- 2 暗褐色 ローム粒子多量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量

第121号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム中ブロック中量

第122号土坑土層解説

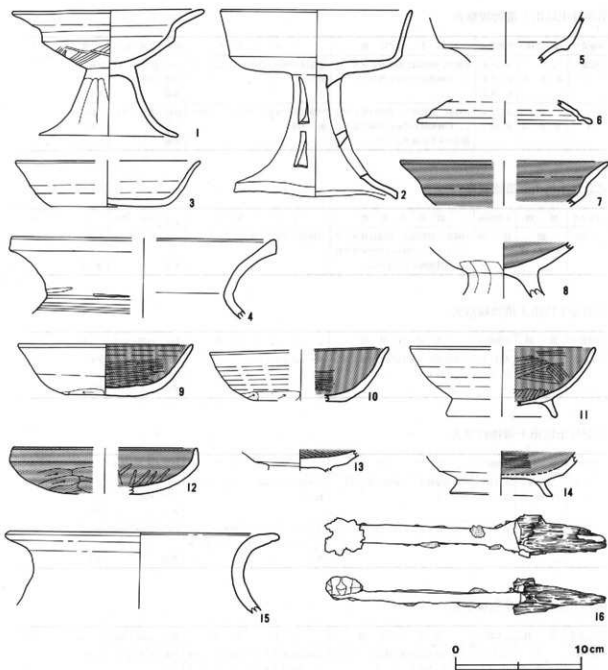
- 1 暗褐色 ローム粒子少量

第127号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量

第128号土坑土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子少量



第276図 土坑出土遺物実測図

第20号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・装成	備考
第280図 1	高坏 土器	A 15.2	脚柱は円錐形で、裾部は「ハ」の字状に広がる。坏体部は外傾して立ち上がり、上位で明瞭な稜を持ち、上方へ真縦的に立ち上がり、口縁部は強く反する。	坏口縁部内・外面横ナデ。体部上半横ナデ。坏体部外面下半へリ削り。坏体部内面へリ磨き。脚部外面へリ削り。脚部内面、裾部内・外面横ナデ。	砂粒・長石・雲母 褐色 普通	P463 80% 覆土中
		B 10.1				
		D 11.0				
		E 5.5				
2	高坏 須志器	A 15.3	脚部は円錐形で裾部は強く開く。坏体部は外傾して立ち上がる。	全面クロコナデ。脚部は三方に二連の透かしを有する。坏部、脚部内・外面、裾部外面に難がかかる。	砂粒・長石 灰色 普通	P464 60% 覆土中
		B 15.0				
		D 13.0				
		E 9.8				

第26号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第4図 3	杯 須恵器	A [14.8]	口縁で、体部は内唇気味に立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内・外面ロクロナテ。底部へう削り。	砂粒・長石・石英・ 赤褐色 普通	P465 20% 覆土中
		B 3.6				
		C [9.0]				
4	壺 須恵器	A [23.0]	口縁部、頸部破片。頸部は強く外反し、口縁部はわずかに内傾する。肩蓋はわずかに積み上がる。	口縁部内・外面ロクロナテ。底部外面へう削り。	砂粒・赤褐色・長石 灰白 普通	P466 5% 覆土中
		B [3.3]				

第31号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第4図 5	壺 須恵器	B [2.9]	口縁部、頸部破片。頸部は外反して立ち上がり、口縁部は明瞭な稜を帯び、内唇気味に立ち上がる。	口縁部、体部内・外面ロクロナテ。	砂粒・長石 灰色 普通	P467 5% 覆土中

第33号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第4図 6	盃 須恵器	A [13.8] B [1.9]	天井部破片。天井部はやや膨らみながら下降する。	内・外面ロクロナテ。	砂粒 灰色 普通	P468 5% 覆土中

第38号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第4図 7	高杯 土師器	A [15.0]	杯部口縁破片。口縁部で稜を持ち、外反する。	口縁部内・外面傾ナテ。内・外面黒色焼成。	砂粒・赤褐色 にふい灰色 普通	P469 5% 覆土中
		B [3.6]				
8	高杯 土師器	H [2.6]	杯部、脚部破片。脚部は円錐形で、杯体部は外傾しながら立ち上がる。	杯部内面へうナテ。杯部外面へう削り。脚部外面へう削り。内面黒色焼成。	砂粒・長石・スコア にふい灰色 普通	P470 20% 覆土中

第75号土坑出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第4図 9	十師器	A 13.9	平底。体部は内唇気味に立ち上がり口縁部はわずかに外反する。	口縁部外面傾ナテ。体部内面へう削り。体部外面傾ナテ。体部外周下面へう削り。底部へう削り。内面黒色焼成。	砂粒・石英・長石・ 赤褐色 普通	P471 80% 覆土中
		B 4.1				
		D 3.8				
10	杯 土師器	A [14.1]	平底。体部は内唇して立ち上がり、口縁部はわずかに外反する。	体部内面へう削り。体部外面ロクロナテ。体部外面下下へう削り。底部へう削り。内面黒色焼成。	砂粒・赤褐色 灰黄色 普通	P472 40% 覆土中
		B 4.3				
		C [7.0]				
11	高台付杯 土師器	A [14.8]	平底に「ハ」の字状に高く高台が付く。体部は内唇して立ち上がる。	体部内面へう削り。体部外面ロクロナテ。底部傾ナテへう削り。内面黒色焼成。	砂粒・赤褐色 にふい灰色 普通	P473 30% 覆土中
		B 3.6				
		D 8.8				
		E 1.4				

第79号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第204 12	杯 土 師 器	A [14.6] B (3.7)	口縁部、体部破片。体部は内彎して立ち上がり、口縁部はわずかに内傾する。	口縁部内・外面無ナズ。体部内面へラによる放射状の細文。体部外面へラ張り。内・外面茶色処理。	砂粒・スコリア・雲母・長石。珪石褐色。普通	P474 10% 覆土中

第93号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第205 13	高台付杯 土 師 器	B (1.3)	底面破片。平底に高台が付く。	底面内面へラ磨き。底面内側へラ張り。内面茶色処理。	砂粒・長石・雲母・パリス。褐色 普通	P475 20% 覆土内

第105号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第206 14	高台付杯 土 師 器	B (2.9) D [14.6] E 3.1	底面破片。平底に「ハ」の字状に開く高台が付く。体部は内彎して立ち上がる。	体部内面へラ磨き。底面内側へラ張り。内面茶色処理。内面の大半は割断。	砂粒・小塵・雲母 にぶい赤褐色 普通	P476 10% 覆土中

第106号土坑出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第204 15	盤 土 師 器	A 21.6 B (6.1)	口縁部、両部破片。頸部は強く外反し、口縁部は外に大きく開く。	口縁部、頸部内・外面無ナズ。	砂粒・長石・石英 にぶい黄褐色 普通	P477 10% 覆土中

第113号土坑出土遺物観察表

図版番号	種 別	計 測 値				備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	
第204/16	不明鉄製品	22.7	3.4	3.0	(140.0)	M48 鉄製 覆土中

表6 熊の山遺跡上坑一覽表

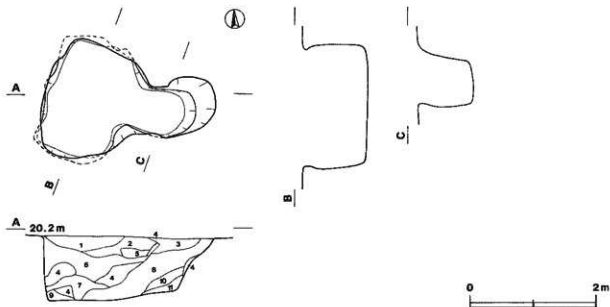
上坑番号	位置	長短方向 (長軸方向)	平面形	規 模		壁面	底面	履上	主な遺物	備 考
				長径(m)×短径(m)	深さ(m)					
1	K151	N-2°-W	円形	1.00 × 0.78	58	緩斜	平坦	自然	土師器23 須恵器3	
2	M12d7	N-90°-E	円形	0.75 × 0.72	32	垂直	平坦	自然		SI110→本跡
3	K10ca	N-38°-W	円形	1.16 × 1.05	69	外傾	平坦	自然		
4	F140a	N-81°-W	楕円形	2.68 × 1.70	40	外傾	平坦	自然	須恵器1	
5	G13ha	N-85°-E	隅丸方形	1.05 × 0.73	23	外傾	平坦	自然		SI69→本跡
10	M11be	N-89°-W	楕円形	1.23 × 0.85	23	緩斜	凹凸	自然		
13	M11da	N-90°-W	楕円形	1.25 × 1.05	25	緩斜	平坦	自然		
15	M11de	N-78°-W	円形	0.69 × 0.66	16	緩斜	屈状	自然		
20	H13gs	N-65°-E	楕円形	1.07 × 0.71	23	外傾	平坦	人為	土師器55 須恵器1	古墳時代後期
26	I11j1	N-52°-W	不整形円形	3.76 × 2.24	110	外傾	平坦	自然	土師器372 須恵器41 鉄律2	
27	L12ea	N-3°-E [楕円形]		2.05 × (1.85)	20	緩斜	平坦	自然		SI101→本跡
30	L11ja	N-87°-W	楕円形	1.21 × 1.00	30	外傾	平坦	自然		SI93→本跡
31	H14j1	N-76°-E [楕円形]		2.50 × 2.26	48	外傾	平坦	自然	土師器67 須恵器1	
33	M12cv	N-35°-E	楕円形	2.52 × 2.20	62	緩斜	平坦	自然	土師器18 須恵器1	
35	M12aa	N-82°-E	小整形方形	2.15 × 1.16	23	緩斜	平坦	自然		
38	L13ga	N-56°-W	円形	0.67 × 0.62	20	緩斜	屈状	自然	土師器12	
39	I13av	N-56°-E	円形	0.62 × 0.54	15	緩斜	屈状	自然		
42	L12ja	N-14°-E	不整形円形	3.03 × 2.40	14	緩斜	平坦	自然		SI94→本跡
43	I11da	N-25°-E	円形	0.84 × 0.79	24	緩斜	屈状	自然		SI96→本跡
44	L12fa	N-50°-E	楕円形	1.44 × 1.24	18	緩斜	屈状	自然		
46	M12ba	N-78°-E	楕円形	1.63 × 1.23	31	緩斜	平坦	自然	土師器2	
47	M12ba	N-88°-E	円形	1.20 × 1.10	25	外傾	平坦	自然		
48	L12j7	N-42°-E	楕円形	1.80 × 1.28	35	緩斜	凹凸	自然	土師器19	
49	M12ba	N-49°-W	楕円形	2.28 × 1.94	25	緩斜	平坦	自然	土師器2 須恵器1	
52	M12ca	N-85°-W	楕円形	1.36 × 1.15	20	緩斜	屈状	自然		
53	L12ia	N-78°-W	楕円形	1.06 × 0.74	19	緩斜	屈状	自然		
54	L12ba	N-32°-E	楕円形	1.15 × 0.90	31	外傾	屈状	自然		
55	L12ba	N-33°-W	楕円形	2.47 × 1.79	37	緩斜	屈状	自然	土師器18	
56	L12fa	N-17°-W	楕円形	1.67 × 1.24	23	緩斜	屈状	自然		SI103→本跡
58	L12ea	N-32°-E	楕円形	0.93 × 0.77	36	外傾	屈状	自然		
60	L13ca	N-20°-E	楕円形	0.85 × 0.57	23	外傾	屈状	自然		
61	M13aa	N-21°-W	楕円形	1.13 × 1.00	35	緩斜	屈状	自然		
62	M13b1	N-23°-E	楕円形	1.40 × 1.00	32	外傾	屈状	自然	土師器2	
63	M13b1	N-44°-E	円形	1.13 × 1.12	37	垂直	平坦	自然	土師器13	
64	M13b1	N-54°-E	円形	0.96 × 0.92	30	垂直	平坦	自然		
65	M13b2	N-15°-E	円形	1.30 × 1.25	46	垂直	平坦	自然	土師器11	
66	M13a1	N-73°-W	楕円形	1.86 × 1.55	83	外傾	平坦	自然		
68	M11aa	N-87°-E	楕円形	0.90 × 0.70	14	緩斜	屈状	自然		
69	L13ha	N-47°-W	円形	1.88 × 1.83	55	外傾	平坦	自然	土師器1 鉄律1	
70	L13ba	N-2°-W	楕円形	1.16 × 1.00	60	外傾	平坦	自然		
71	L13gs	N-62°-E	円形	1.20 × 1.14	53	外傾	平坦	自然		
72	L13ba	N-85°-E	円形	0.96 × 0.90	50	垂直	平坦	自然		
73	L13da	N-83°-W	楕円形	2.64 × 2.33	30	外傾	平坦	自然	土師器20 須恵器3	
74	M11aa	N-0°	楕円形	2.20 × 2.23	67	緩斜	屈状	自然		SI92→本跡
75	L13g7	N-38°-E [楕円形]		1.25 × 0.99	22	緩斜	凹凸	自然	土師器7	

土坑 番号	位 置	長 程 方 向 (長軸方向)	平 面 形	風 傾		壁面	底面	覆土	主 要 遺 物	備 考
				長(短)×短(長)(m)	深さ(cm)					
76	M12cs	N-4°-E	円 形	1.35 × 1.29	31	外傾	凹凸	人為	土師器3 須惠器2	
77	M12ds	N 75°-W	円 形	0.80 × 0.79	18	緩斜	皿状	自然	土師器6	
79	I10d	N-4°-W	楕円形	[1.24] × 1.08	45	緩斜	皿状	人為	土師器7 須惠器8 陶器1	
81	L12ja	N-90°-W	円 形	1.17 × 1.12	70	垂直	皿状	自然		
82	L13ia	N-28°-E	楕円形	1.00 × 0.90	40	外傾	皿状	自然		
83	M12ds	N-80°-E	半楕圓形	1.32 × 1.09	12	緩斜	平壇	自然	土師器11 須惠器1	
85	M12es	N 90°-E	楕円形	0.87 × 0.62	41	垂直	皿状	自然		
86	M13ar	N-25°-W	楕円形	1.27 × 0.76	35	緩斜	皿状	自然		
89	I11as	N-31°-E (楕圓形)	(0.90) × (0.61)	14	外傾	平壇	自然			
90	I11bs	N 1°-W	楕円形	1.01 × 0.50	40	垂直	皿状	人為	土師器4	
91	I10da	N-35°-W	楕円形	1.20 × 0.95	50	外傾	平壇	人為		
92	I11cs	N 13°-W	楕円形	0.65 × 0.57	32	緩斜	平壇	自然		
93	M12es	N-67°-E	楕円形	0.75 × 0.65	25	外傾	皿状	自然	土師器6 須惠器3	
94	I11cs	N-4°-W	楕圓長方形	1.45 × 0.98	10	緩斜	平壇	自然	土師器3	
102	I11as	N-85°-E	楕円形	1.40 × 1.45	21	緩斜	凹凸	自然		
105	L13ba	N-72°-W	不明楕圓形	1.30 × 0.90	65	緩斜	凹凸	人為	土師器1	SI121→本跡
106	I11as	N-90°-E (楕圓長方形)	1.36 × (0.61)	255	垂直	垂直	皿状	自然	土師器8	
108	I11cs	N 1°-E	長方形	1.30 × 0.82	24	外傾	皿状	自然		
113	L12br	N-35°-W	楕円形	1.27 × 0.94	55	外傾	皿状	—		SI121→本跡
118	I11ir	N 88°-W (長方形)	(1.52) × (1.45)	22	緩斜	平壇	自然	土師器106 須惠器5 灰釉陶器2		
119	H11jr	N-90°-E (楕圓形)	0.80 × (0.54)	17	緩斜	傾斜	自然	土師器5 須惠器1		
120	H11ja	N-82°-E	不 明	(2.52) × (1.80)	31	緩斜	平壇	人為		
121	H11is	N 86°-W [円形]	0.77 × 0.54	16	緩斜	皿状	自然			
122	I11ar	N-90°	不 整 形	1.15 × 0.80	32	外傾	凹凸	不明		SK123→本跡
127	M12es	N-25°-E	円 形	0.75 × 0.70	24	外傾	皿状	自然	土師器2	SI117→本跡
128	M12es	N 35°-E	楕円形	0.50 × 0.39	15	緩斜	皿状	自然		SI117→本跡

4 地下式墳

地下式墳は、調査4区から4基検出されている。いずれも小型で、出土遺物はないが、4区の墓域群との関連が考えられる。第1号地下式墳と第2号地下式墳、第3号地下式墳と第4号地下式墳がそれぞれ対になった形で確認されている。以下にその特徴を記載する。

第1号地下式墳 (第277図)



第277図 第1号地下式墳実測図

位置 調査4区東部，I11b4区。

主軸方向 N-59°-W

竪坑 平面形は径約85cmの不整形形で、深さは87cmである。底面は主室に向かって緩やかに傾斜しており、長径75cm、短径67cmの楕円形である。長径方向はN-112°-Eである。

主室 確認面の平面形は長軸1.85m、短軸1.40mの長方形である。天井部は一部残存しており、底面から天井部までの高さは70~80cm、確認面から底部までの深さは約1mである。底面は平坦で、長軸1.98m、短軸1.40mの長方形である。長軸方向は主軸方向とほぼ直交し、N-26°-Eである。

壁 竪坑、主室ともほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土 11層からなり、自然堆積である。上層4, 5, 9は天井部の崩落土層と思われる。

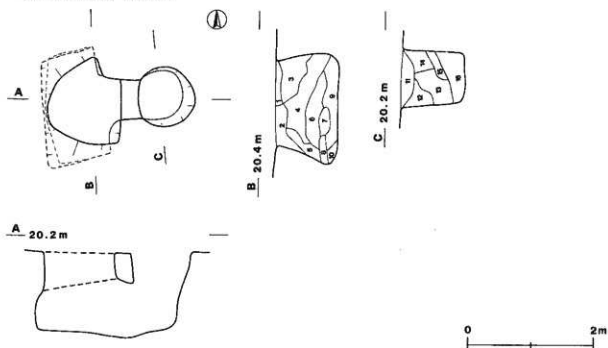
土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土小ブロック・炭化物少量
- 2 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・炭化粒子少量
- 4 明褐色 ローム粒子多量
- 5 褐色 ローム粒子多量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック・炭化物少量
- 7 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量、炭化粒子微量
- 9 褐色 ローム粒子多量
- 10 暗褐色 ローム粒子少量
- 11 褐色 ローム粒子中量

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は遺物がなく時期判断が難しいが、時期は遺構の形態から中世と考えられる。

第2号地下式墳 (第278図)



第278図 第2号地下式墳実測図

位置 調査4区東部, IIIa6区。

主軸方向 N-82°-E

竪坑 平面形は長径96cm, 短径90cmの不整形円形で, 深さは1.25mである。底面は主室に向かって緩やかに傾斜しており, 長径方向はN-22°-Eである。

主室 確認面の平面形は長径1.40m, 短径1.15mの不整形円形である。天井部は一部残存しており, 底面から天井部までの高さは85~95cm, 確認面から底部までの深さは約1.25mである。底面は中央部が若干くぼむがほぼ平坦で, 長軸1.75m, 短軸0.90mの長方形である。長軸方向は, 主軸方向と同じである。

竪 竪坑, 主室ともほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土 16層からなり, 主室は自然堆積であるが, 竪坑は人為堆積と考えられる。上層7, 9, 10は天井部の崩落土層と思われる。

土層解説

- | | |
|-------------------------|--------------------------------|
| 1 黒褐色 ローム粒子微量 | 9 褐色 ローム粒子多量 |
| 2 黒褐色 ローム粒子・ローム中ブロック微量 | 10 暗褐色 ローム粒子中量 |
| 3 暗褐色 ローム粒子多量 | 11 黒褐色 ローム粒子中量 |
| 4 黒褐色 ローム小ブロック・硬土粒子微量 | 12 黒褐色 ローム中ブロック少量, ローム大ブロック微量 |
| 5 極暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック微量 | 13 極暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 |
| 6 黒褐色 ローム大ブロック少量 | 14 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム中ブロック微量 |
| 7 暗褐色 ローム粒子中量 | 15 黒褐色 ローム小ブロック微量 |
| 8 極暗褐色 ローム中ブロック中量 | 16 黒褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック微量 |

遺物 本跡に伴う出土遺物はない。

所見 本跡は遺物がなく時期判断は難しいが, 時期は遺構の形態から中世と思われる。

第3号地下式墳 (第279図)

位置 調査4区中央部, I10b9区。

重複関係 第129, 130号住居跡を掘り込み、
主室南壁下部を第4号地下式墳により掘り
込まれているため、本跡は第129, 130号住
居跡より新しく、第4号地下式墳より古い。

主軸方向 N-90°-E

竪坑 平面形は長軸1.23m, 短軸1.03mの長
方形で、深さは1.00mである。底面は西部
が一段低くなっており、一辺80cm前後の方
形である。

主室 確認面の平面形は長軸2.00m, 短軸
1.30mの不整形である。天井部は一部残存
しており、底面から天井部までの高さは約
80cm, 確認面から底部までの深さは約1.05m
である。底面はほぼ平坦で、長軸2.05m,
短軸1.25mの長方形である。長軸方向は主
軸方向と直交する。

壁 竪坑, 主室ともほぼ垂直に立ち上がって
いる。主室の南壁下部が第4号地下式墳に
より掘り込まれており、残存しない。

覆土 8層からなる。土層6から炭化材と骨粉が確認されており、天井部が崩落して土層7, 8が堆積した後
埋葬施設に利用し、人為的に埋め戻されたと考えられる。

土層解説

- 1 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量, ローム大ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム大ブロック多量
- 5 暗褐色 ローム粒子少量
- 6 暗褐色 ローム小ブロック中量
- 7 暗褐色 ローム大ブロック多量
- 8 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 本跡は遺物がなく時期判断は難しい。遺構の形態から中世と思われるが、自然堆積の途中で埋葬施設に
再利用したと考えられる。

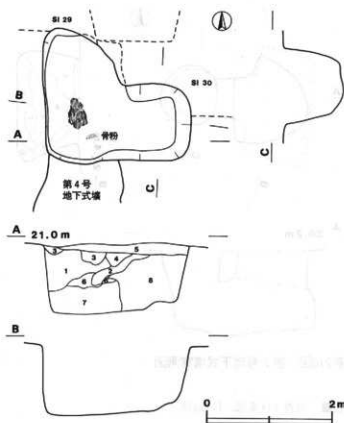
第4号地下式墳 (第280図)

位置 調査4区中央部, I10c9区。

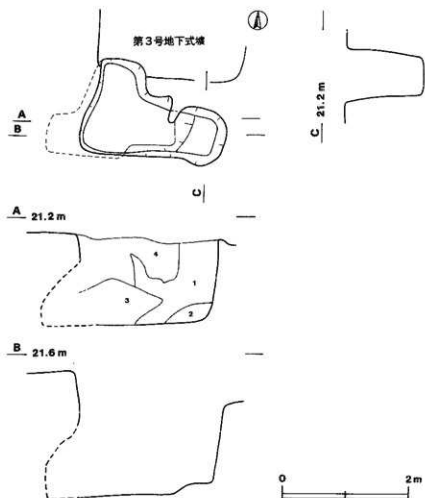
重複関係 第3号地下式墳を掘り込んでいるため、本跡が新しい。

主軸方向 N-83°-W

竪坑 平面形は径約90cmの円形で、深さは1.25mである。底面は西側が一段低く、長軸65cm, 短軸55cmの長方
形である。長軸方向はN-8°-Eである。



第279図 第3号地下式墳実測図



第280図 第4号地下式墳実測図

主室 確認面の平面形は長軸1.50m、短軸1.30mの不整形である。天井部は一部残存しており、底面から天井部までの高さは約1.15m、確認面から底部までの深さは約2.00mである。底面はほぼ平坦で、長軸2.00m、短軸1.30mの不整形である。長軸方向は主軸方向とほぼ一致し、N-90°-Wである。

壁 壁坑。主室ともほぼ垂直に立ち上がっている。

覆土 4層からなり、土層3、4は天井部が崩落した土層と考えられる。

土層解説

- 1 極暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量
- 4 褐色 ローム大ブロック多量

遺物 土師器片2点、須恵器片2点が出土している。いずれも細片であり、覆土中からの出土である。

所見 木跡は、遺物が少なく流れ込みのため時期判断は難しいが、遺構の形態から中世と思われる。

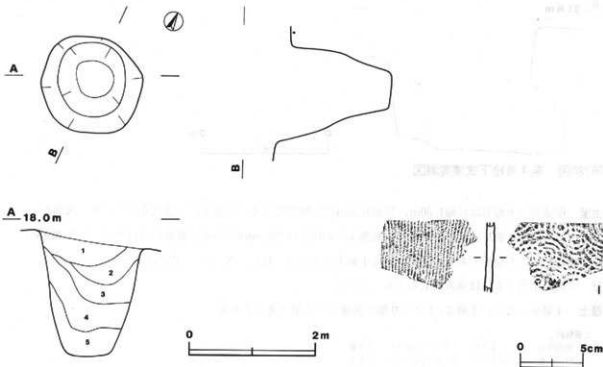
表7 熊の山遺跡地下式壙一覧表

地下式壙番号	位置 (採集方向)	平面形		規				壁面	底面	覆土	主な遺物	備考
				長径(軸)×短径(軸)(m)		深さ(cm)						
				整坑	主室	整坑	主室					
1	I11ba N-59°-W	不整形	長方形	0,85×0,85	1,85×1,40	87	100	垂直	平坦	自然		中世
2	I11aa N-82°-E	不整形	長方形	0,96×0,90	1,40×1,15	125		垂直	平坦	人為		中世
3	I10ba N-90°-E	方形	不整形	1,23×1,03	2,00×1,30	100	105	垂直	平坦	人為		墓域 中世
4	I10ca N-83°-W	円形	不整形	0,90×1,25	1,50×1,30	125	200	垂直	平坦	自然	土師器2 須恵器2	中世

5 井戸

井戸は、調査1区から1基、調査2区から4基、調査4区から1基が検出されている。いずれも流れ込みの遺物が多く時期判断は難しいが、第2～6号井戸は確認された位置から、墓域との関連が考えられる。以下にその特徴を記載する。

第1号井戸 (第281図)



第281図 第1号井戸実測・出土遺物拓影図

位置 調査1区南部、I14d3区。

規模と形状 掘り方は、平面形が1,60m前後の円形をしており、確認面から1,00mの深さまで急傾斜を持ち、

その下80cmは、径86cmの円筒形をしており、底面まで続いている。

覆土 5層からなり、自然堆積である。

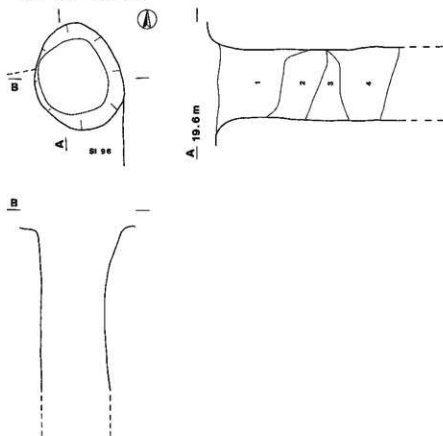
土層解説

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土大ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 2 灰褐色 粘土中ブロック多量、ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土中ブロック少量、ローム中ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・粘土中ブロック少量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量

遺物 土師器片21点、須恵器片2点が出土している。いずれも細片で覆土中からの出土である。1は須恵器片で、外面に縦位の平行印き後カキ目痕が施され、内面には同心円当具痕が施されている。

所見 遺物が少なく流れ込みと思われ、本跡の時期は不明である。

第2号井戸 (第282図)



第282図 第2号井戸実測図

位置 調査2区西部、M11b9区。

重複関係 第96号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と形状 掘り方は、平面形は長径1.70m、短径1.35mの楕円形をしており、確認面から72cmの深さまで急傾斜を持ち、そこから下1.92mは径100cmの円筒形をしているが、底面までは確認されていない。

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土小ブロック微量
- 4 黒褐色 ローム中ブロック・粘土大ブロック少量

遺物 土師器片64点、須恵器片12点、鉄滓1点が出土している。大半が第96号住居跡の遺物の流れ込みと思わ

れる。

所見 本跡の周辺は、平安時代末から中近世にかけて墓域が形成されていたと思われ、墓域に伴う中世の井戸と考えられる。

第3号井戸 (第283図)

位置 調査2区西部, M11c区。

重複関係 第97号住居跡を掘り込んでおり、本跡が新しい。

規模と形状 平面形は長径4.05m、短径2.90mの不整形円形をしており、確認面から53cmの深さまで緩傾斜を持ち、そこから下69cmは径170cmの円筒形をしているが底面までは確認されていない。

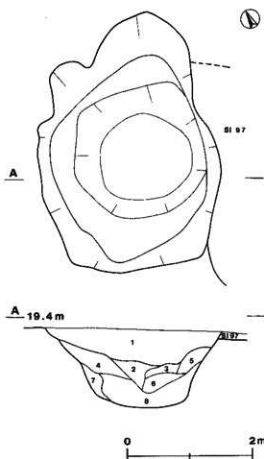
覆土 8層からなり、土層2～8は人為堆積で、土層1は自然堆積と思われる。

土層解説

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化材微量
- 3 黒褐色 焼土粒子・焼土小ブロック少量、炭化粒子・灰微量
- 4 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック・炭化粒子・灰微量
- 5 黒褐色 ローム粒子少量、炭化粒子・灰微量
- 6 黒褐色 ローム粒子少量、焼土粒子・炭化粒子微量
- 7 黒褐色 粘土中ブロック少量、ローム小ブロック少量
- 8 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量

遺物 土師器片86点、須恵器片31点、鉄滓1点か出土している。大半は第97号住居跡の遺物の流れ込みと思われる。

所見 本跡は第2号井戸と同様に墓域に伴う中世の井戸と考えられる。



第283図 第3号井戸実測図

第4号井戸 (第284図)

位置 調査2区中央部, L12j区。

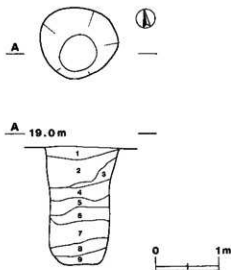
規模と形状 平面形は長径1.25m、短径1.15mの楕円形をしており、確認面から50cmの深さまで急傾斜を持ち、そこから下1.39mは径96cmの円筒形をしている。

覆土 9層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 暗褐色 粘土小ブロック中量、ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム中ブロック・粘土小ブロック少量
- 3 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・粘土小ブロック・粘土中ブロック少量
- 4 褐色 粘土小ブロック・粘土中ブロック中量、ローム粒子少量
- 5 黒褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 6 黒褐色 粘土小ブロック中量、ローム小ブロック少量
- 7 黒褐色 粘土小ブロック少量、ローム粒子少量
- 8 黒褐色 ローム小ブロック・粘土小ブロック少量
- 9 黒褐色 ローム粒子少量

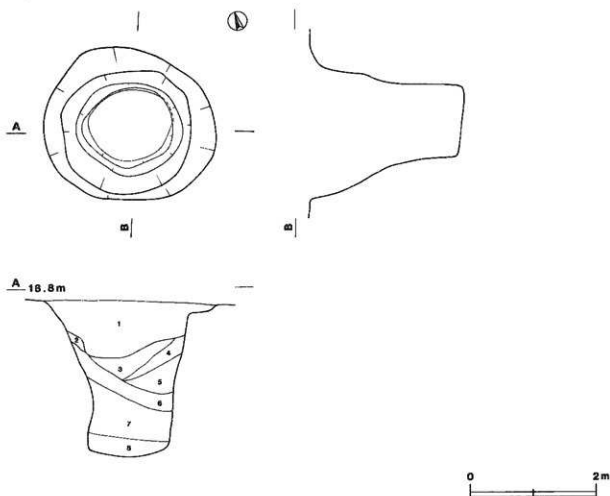
遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。



第284図 第4号井戸実測図

所見 本跡は遺物がなく時期判断が難しいが、第2号井戸や第3号井戸と同様に、墓域に伴う中世の井戸と思われる。

第5号井戸 (第285図)



第285図 第5号井戸実測図

位置 調査2区中央部, L12hs区。

規模と形状 平面形は長径2.78m, 短径2.40mの楕円形をしており、確認面から1.35mの深さまで急傾斜を持ち、そこから下1.09mは径130cmの円筒形をしている。

覆土 8層からなり、自然堆積である。

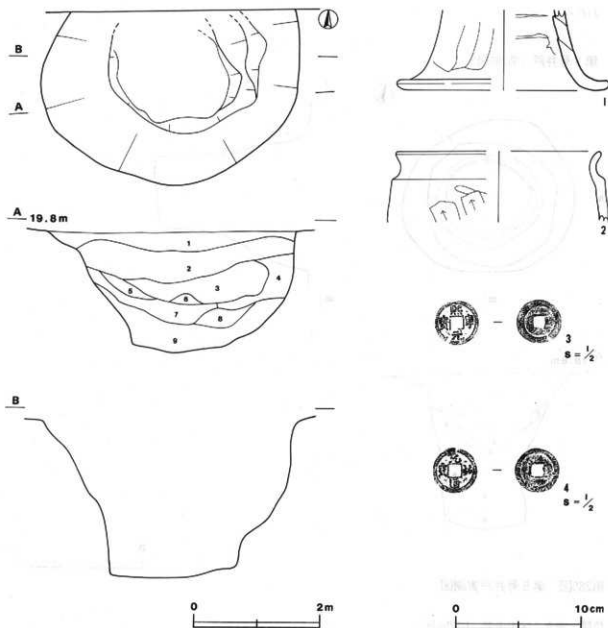
土層解説

- 1 暗褐色 ローム粒子・粘土小ブロック中量, ローム小ブロック・炭化粒・粘土中ブロック少量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量, 粘土小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量, 粘土小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量, ローム小ブロック微量
- 5 黒褐色 ローム粒子・炭化粒子少量
- 6 黒褐色 ローム粒子・粘土粒子少量
- 7 暗褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量
- 8 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック微量

遺物 土師器片77点, 須恵器片3点, 鉄滓3点が出土している。いずれも細片で覆土中からの出土である。

所見 本跡は遺物が流れ込みと思われる時期判断は難しいが、第2号井戸と同様な理由から中世の墓域に伴う井戸と思われる。

第6号井戸 (第286図)



第286図 第6号井戸・出土遺物実測・拓影図

位置 調査4区東部, I11b0区。

規模と形状 北部が調査区域外のため、規模は不明であるが、平面形は径[4.10]mの円形と推定される。確認面から1.60mの深さまでは階段状の急傾斜を持ち、そこから下90cmは202cmの円筒形をしている。

覆土 9層からなり、自然堆積である。

土層解説

- 1 黒暗褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
- 2 褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック多量、ローム大ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
- 4 褐色 ローム中ブロック・ローム大ブロック多量、ローム小ブロック少量
- 5 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
- 6 黒褐色 ローム粒子微量
- 7 黒褐色 ローム粒子少量
- 8 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・粘土粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・ローム中ブロック中量、粘土小ブロック微量

遺物 土師器片113点、須恵器片17点、支脚1点、北宋銭2点が出土している。1の土師器の高坏と4の北宋銭(元祐通寶)が覆土中から、3の北宋銭(熙寧元寶)が下層から、2の土師器の變が底面直上から出土している。

所見 本跡は墓域の中心と思われる地点に近く、墓域に伴う中世の井戸と考えられる。

第6号井戸出土遺物観察表

図版番号	器 種	計測値(cm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色調・焼成	備 考
第2図 1	高 坏 土 師 器	A[16.0] B (5.4)	舞部破片。舞部は「ハ」の字状に強く開く。	舞部外面へう開り。総体内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石 にふい褐色 普通	P46 25% 覆土中
2	変 土 師 器	A[16.0] B (5.6)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部と口縁部の境に縫がある。口縁部は外反して立ち上がる。	口縁部内・外面横ナデ。体部外面へう開り。体部内面ナデ。	砂粒・スコリア 黒褐色 普通	P461 5% 覆土中

図版番号	種 別	計 測 値				備 考
		長 さ (cm)	幅 (cm)	厚 さ (cm)	重 量 (g)	
第2図 3	古 銭	2.3	2.3	0.1	2.4	M34 熙寧元寶(北宋 1068年) 銅銭 覆土中 100%
4	古 銭	2.4	2.4	0.1	2.0	M35 元祐通寶(北宋 1086年) 銅銭 覆土中 100%

表8 熊の山遺跡井戸一覧表

井戸番号	位 菜	平 面 形	規 模		壁面	底面	覆土	主 な 遺 物	備 考
			長さ(軸)×幅(軸)(m)	深さ(m)					
1	L14ds	円 形	1.60 × 1.60	180	急傾	平坦	自然	土師器21 須恵器2	
2	M11ba	楕 円 形	1.70 × 1.35	(264)	急傾	—	自然	土師器64 須恵器12 鉄押1	中世
3	M11ca	不規則円形	4.05 × 2.90	(122)	緩斜	—	自然	土師器86 須恵器31 鉄押1	中世
4	L12j7	楕 円 形	1.25 × 1.15	189	急傾	平坦	自然		中世
5	L12ha	楕 円 形	2.78 × 2.40	244	急傾	平坦	自然	土師器77 須恵器3 鉄押3	中世
6	L11ba	[円 形]	[4.10] × [4.10]	250	急傾	平坦	自然	土師器113 須恵器17 北宋銭2	中世

6 溝

今回の調査で、調査1区から3条、調査2区から4条、調査3区から2条、調査4区から2条、計11条の溝が検出されている。調査3区の2条は道路状遺構と思われる。いずれも時期は不明である。以下、検出された遺構について記載する。

第1号溝（第287・付図）

位置 調査2区南東部，K15i1区。

規模と形状 北東側が調査区域外になるため規模は不明であるが、確認された長さは、北から南へ約(3.5)m 延び、東へクランク状に曲がり、約(2)m延びる。上幅45~57cm，下幅18~35cm，深さ18~55cmである。断面形はU字形である。

方向 K15h1区から南(N-7°-E)に直線的に延び、K15i1区で東(N-87°-E)に直線的に延びる。

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説(A-A')

- 1 暗褐色 ローム小ブロック中量、ローム粒子・炭化粒子少量
- 2 暗褐色 炭化物少量、ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子・粘土小ブロック少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 木跡に伴う遺物は出土していない。

所見 遺物は流れ込みと思われる、本跡の時期は不明である。



第287図 第1号溝断面図

第2号溝（第288・付図）

位置 調査3区西部，K10h9区~K11f4区。

重複関係 第11, 12, 13-A, 14号住居跡を掘り込んでいるため、本跡が斬しい。

規模と形状 長さ約21mで、上幅15~90cm，下幅10~60cm，深さ14cm前後である。断面形はU字形で、底面が踏み固められている。

方向 K10h9区から北東(N-70°-E)に、ほぼ直線的に延びており、方向的に第3号溝とつながると思われる。

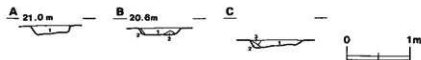
覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説(A・B・C)

- 1 黒褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム粒子・ローム大ブロック少量

遺物 土師器片58点、須恵器片2点が出土している。

所見 底面が踏み固められており、道路状遺構の可能性が考えられる。また方向的に、第3号溝とつながると思われる。遺物はいずれも流れ込みと思われる、本跡の時期は不明である。



第288図 第2号溝断面図

第3号溝 (第289・付図)

位置 調査3区東部, K11ds区~K12cs区。

規模と形状 東側が調査区域外になるため規模は不明であるが, 確認された長さは約(22) mで, 上幅48~92 cm, 下幅27~70cm, 深さ17~28cmである。断面形はU字形で, 底面は踏み固められている。

方向 K11ds区から北東(N-78°-E)に, はば直線的に延びており, 方向的に第2号住居跡とつながると思われる。

覆土 11層からなり, 自然堆積である。

土層解説 (A・B・C)

- 1 黒褐色 ローム粒子・炭化粒少量
- 2 暗褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック微量
- 3 黒褐色 ローム粒子少量, ローム小ブロック・炭化粒子微量
- 4 褐色 ローム粒中量, ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒中量, ローム中ブロック微量
- 6 黒褐色 ローム大ブロック少量, ローム粒子少量
- 7 黒褐色 ローム粒少量, ローム小ブロック微量
- 8 暗褐色 ローム粒中量
- 9 黒褐色 ローム粒少量
- 10 黒褐色 ローム粒微量
- 11 黒褐色 ローム粒少量

遺物 土師器片22点, 須恵器片10点が出土している。

所見 底面が踏み固められており, 道路状遺構の可能性が考えられる。また方向的に, 第2号溝とつながると思われる。遺物はいずれも流れ込みと思われ, 本跡の時期は不明である。



第289図 第3号溝断面図

第4号溝 (第290・付図)

位置 調査1区北部, F13cs区~F14er区。

重複関係 第5号溝を掘り込んでいるため, 本跡が新しい。

規模と形状 東側が調査区域外になるため規模は不明であるが, 確認された長さは約(43) mで, 上幅130~220 cm, 下幅7~125cm, 深さ約27~58cmである。断面形はU字形である。

方向 F13cs区から南東(N-106°-E)に, はば直線的に延びている。

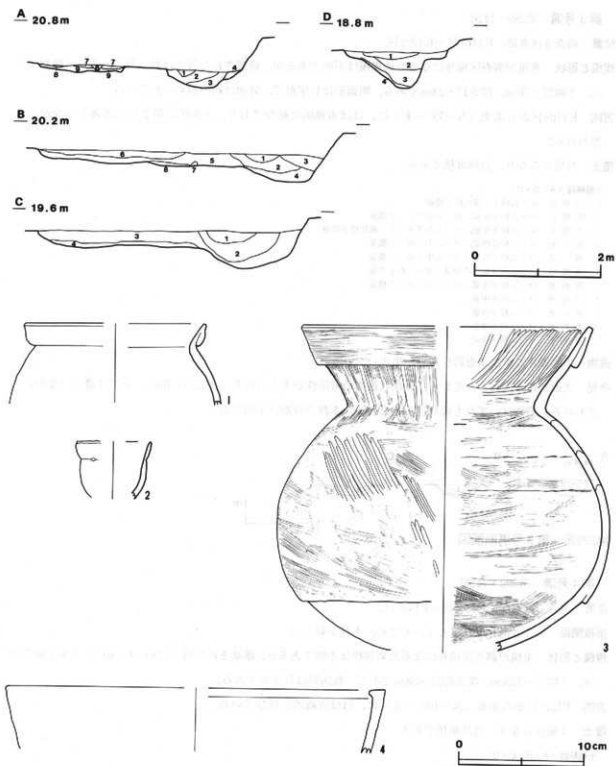
覆土 4層からなり, 自然堆積である。

土層解説 (A・B・C・D)

- 1 黒褐色 ローム中ブロック少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

遺物 土師器片400点, 須恵器片18点, 陶器片1点, 鉄滓1点が出土している。

所見 遺物は流れ込みと思われ, 本跡の時期は不明である。



第290图 第4·5号沟断面·出土遗物实测图

第5号溝 (第290・付図)

位置 調査1区北部, F13c区～F14e区。

重複関係 第3号溝に掘り込まれており, 本跡が新しい。

規模と形状 長さ約30mで, 上幅85～340cm, 下幅60～320cm, 深さ13～25cmである。断面形はU字形である。

方向 F13c区から南東(N-103°-E)に, ほぼ直線的に延びている。

覆土 5層からなり, 自然堆積である。

土層解説 (A・B・C)

- 5 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 6 黒褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量
- 8 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 9 褐色 ローム粒子・ローム大ブロック多量

遺物 土師器片323点, 土師質土器片1点が出土している。1, 2の土師器袋が覆土中から, 3の土師器袋が南壁下中央部の底面から, 4の土師質土器の内耳鍋が北壁下西側の覆土中から出土している。

所見 遺物は流れ込みと思われる。本跡の時期は不明である。

第5号溝出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(m)	器形の特徴	手造の特徴	粘土・色調・地味	備考
第290図 1	壺 土師器	A [14.2]	口縁部破片。体部は内押しで立ち上がり, 口縁部は折り返す。	体部内・外面へウナテ。	砂粒・長石 にふいませ褐色 普通	F479 5% 覆土中
		B (6.4)				
2	ミニチュア 土師器	A [5.8]	体部は内押しで立ち上がり, 中位に最大径を持つ。口縁部は折り返す。	口縁部。体部内・外面へウナテ。	砂粒・長石 にふいませ 普通	F480 20% 覆土中
		B (4.5)				
3	壺 土師器	A [22.8]	丸底。体部は内押しで立ち上がり, 下位に段を有し, 中位で最大径を持つ。頸部は外反50%に立ち上がり, 口縁部は折り返す。	口縁部内・外面へウナテ。頸部。体部 外面へウナテ。口縁部。頸部。体部 外面朝毛目整形後, 磨き。	砂粒 明暗赤褐色 普通	F478 40% 底面
		B (20.8)				
4	内耳土器 土師質土器	A [30.1]	口縁部破片。体部は直線的に外傾する。口縁部はあきかに折れを造す。	口縁部内・外面へウナテ。体部外面へウナテ。	砂粒・炭屑 黒褐色 普通	F481 5% 覆土中
		B (5.0)				

第6号溝 (第291・付図)

位置 調査1区北部, F13e区～F13f区。

重複関係 第43号住居跡を掘り込んでいるので, 本跡が新しい。

規模と形状 西側が調査区域外になるため規模は不明であるが, 確認された長さは約(14.8)mで, 上幅60～250cm, 下幅40～220cm, 深さ16～18cmである。底面はほぼ平坦である。

方向 F13e区から東(N-105°-E)に直線的に延びる。

覆土 5層からなり, 自然堆積である。

土層解説 (A-A')

- 1 黒褐色 ローム小ブロック・ローム粒子少量, 炭化粒子少量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 明褐色 ローム粒子多量
- 4 褐色 ローム粒子多量
- 5 黒褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子少量

遺物 本跡に伴う遺物は出土していない。

所見 遺物は流れ込みと思われる。本跡の時期は不明である。



第291図 第6号溝断面図

第8号溝 (第292・付図)

位置 M13d₁区～M13f₁区。

重複関係 第9号溝を掘り込んでいるため、本跡が新しい。

規模と形状 南側が調査区域外になるため規模は不明であるが、確認された長さは約(9.5)mで、上幅33～52cm、下幅5～38cm、深さ8～17cmである。断面形はU字形である。

方向 M13d₁区から南(N-0°)に、ほぼ直線的に延びている。

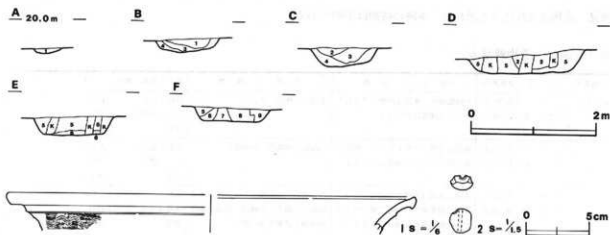
覆土 単一層で自然堆積である。

土層解説(A・B)

1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量

遺物 土師器片45点、須恵器片7点が出土している。

所見 遺物は流れ込みと思われる、本跡の時期は不明である。



第292図 第8・9・10号溝断面・出土遺物実測図

第9号溝 (第292・付図)

位置 M13f₁区～K14j₂区。

重複関係 第8号溝に掘り込まれ、第10号溝を掘り込んでいる。従って、第8号溝より古く第10号溝より新しい。

規模と形状 長さ約83mで、上幅53～180cm、下幅30～140cm、深さ20～30cmである。断面形はU字形である。

方向 M13f₁区から北東(N-48°-E)に、ほぼ直線的に延びている。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説(B・C・D)

2 暗褐色 ローム粒子・炭化粒子少量

3 暗褐色 ローム粒子少量、ローム小ブロック微量

4 褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量

遺物 土師器片89点、須恵器片37点、灰釉陶器片1点が出土している。覆土中から1の須恵器甕が出土している。

所見 遺物は流れ込みと思われる、本跡の時期は不明である。

第9号溝出土遺物観察表

図版番号	形 種	計測値(cm)	形 状 の 特 徴	手 法 の 特 徴	胎土・色研・焼成	備 考
第9号溝 1	須 惠 器	A(63.7)	口縁部破片、頸部は外傾して立ち上がり、口縁部は下方に屈曲し、底部は上方につまみ上げられる。	口縁部、頸部内・外面ロコナズ、底部外面縞縞模様波状文。	砂粒・雲母 灰色 普通	P482 5% 覆土中

第10号溝 (第292・付図)

位置 M13c1区～M13c9区。

重複関係 第9号溝に掘り込まれており、本跡が古い。

規模と形状 長さ約32.6mで、上幅100～160cm、下幅60～110cm、深さ約30cmである。断面形はU字形である。

方向 M13c1区から東(N-87°-E)に、ほぼ直線的に延びている。

覆土 5層からなり、自然堆積である。M13c1区の覆土中から骨粉が確認されている。

土層解説(D・E・F)

- 5 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 6 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化粒子微量
- 7 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量
- 8 暗褐色 ローム粒子中量、炭化粒子微量
- 9 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、炭化物微量

遺物 土師器片226点、須惠器片60点、灰軸陶器片7点、刀子1点、鉄釘4点が出土している。いずれも細片で覆土中からの出土である。2の丸玉は覆土中から出土している。

所見 遺物は流れ込みと思われる、本跡の時期は不明である。

第10号溝出土遺物観察表

図版番号	種 別	計 測 値					石 質	出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)	重量 (g)			
第292図	丸 玉	(0.6)	(0.9)	1.0	0.2	(1.0)	メノウ	覆土中	Q31 50%

第11号溝 (第293・付図)

位置 I9b区～I9d区。

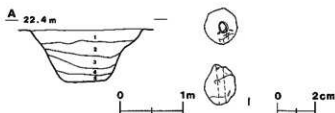
規模と形状 北側と南側が調査区域外になるため規模は不明であるが、確認された長さは約(8.5)mで、上幅140～175cm、下幅45～75cm、深さ約80cmである。断面形は逆台形で、底面は平坦である。

方向 H10j1区から西北西(N-173°-W)に、ほぼ直線的に延びる。

覆土 5層からなり、自然堆積である。

土層解説(A-A')

- 1 褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック・炭化粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量、ローム小ブロック・炭化粒子少量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量、炭化粒子少量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量、ローム中ブロック微量、炭化粒子少量



第293図 第11号溝断面・出土遺物実測図

遺物 土師器片439点、須恵器片55点、灰釉陶器片2点、陶器片2点、磁器片1点、鉄滓3点が出土している。
いずれも細片で覆土中からの出土である。1の土玉は覆土中から出土している。

所見 掘り込みがしっかりしており、他の溝と比べても深く、堀としてもよい遺構である。出土遺物が流れ込みと思われるため、本跡の時期は不明である。

第11号溝出土遺物観察表

調査番号	種別	測 値					出土地点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (mm)	孔径 (cm)	重量 (g)		
第2294号	土 瓦	1.9	1.9	2.1	0.4	6.0	覆土中	DP33 100%

第12号溝 (第294・付図)

位置 I10e9区～I10g9区。

規模と形状 南側が調査区域外になるため規模は不明であるが、確認された長さは約(9.8)m、上幅80～130cm、下幅55～98cm、深さ約35cmである。断面形はU字形である。

方向 I10b9区から南(N-0°)に、ほぼ直線的に延びる。

覆土 3層からなり、自然堆積である。

土層解説 (A-A')

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック・炭化物少量
- 2 暗褐色 ローム粒子・ローム中ブロック・炭化物少量
- 3 褐色 ローム粒子中粒、塵土小ブロック微量

遺物 土師器片95点、須恵器片14点、鉄滓3点が出土している。

いずれも細片で覆土中からの出土である。

所見 墓域のすぐ西側に位置するため、墓域に関係する中世の溝の可能性も考えられるが、大半が調査区外にあると思われる上、遺物は流れ込みのため、時期、性格とも明確ではない。



第294図 第12号溝断面図

7 その他の遺構

調査2区北東部に、長軸約7m、短軸約2.5mの範囲で鍛造剥片が集中的に出土している地点が存在するが、壁も床も確認できなかった。性格不明遺構(SX1)とし、鍛造剥片が出土した範囲を記載する。調査4区東部に、溝が巡る土壇(SX2)が検出されており、元来は小さな塚であったと思われる。これについても特徴や遺物について記載する。また、2区、3区、4区でそれぞれ検出されたピット群についてもここで記載する。

性格不明遺構(SX1)(第295図)

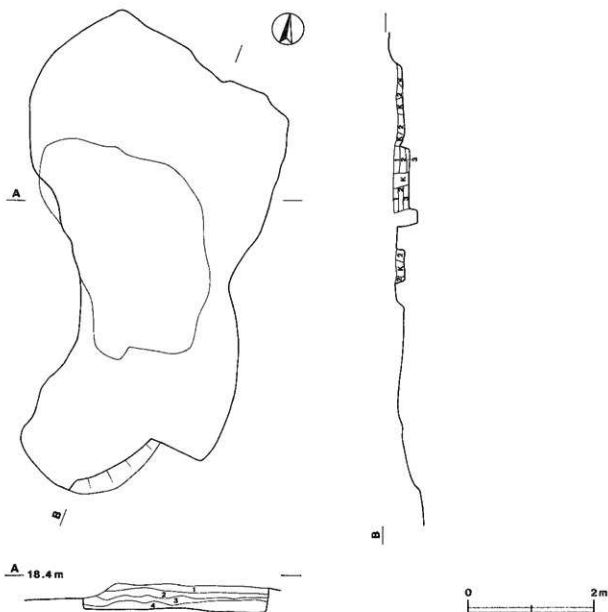
位置 調査2区北東部、L13d7区。

規模と平面形 鍛造剥片と鉄滓が確認された範囲は、長軸6.95m、短軸2.5mの不整形である。

長軸方向 N-12°-E

壁 確認されていない。

底面 確認面から約40cm下まで鍛造剥片と鉄滓が出土しており、そこが底面の可能性もあるが掃まりが他の土層と同じであり、底面とは断定しがたい。



第295図 性格不明遺構実測図

覆土 4層からなり、自然堆積である。

土層解説

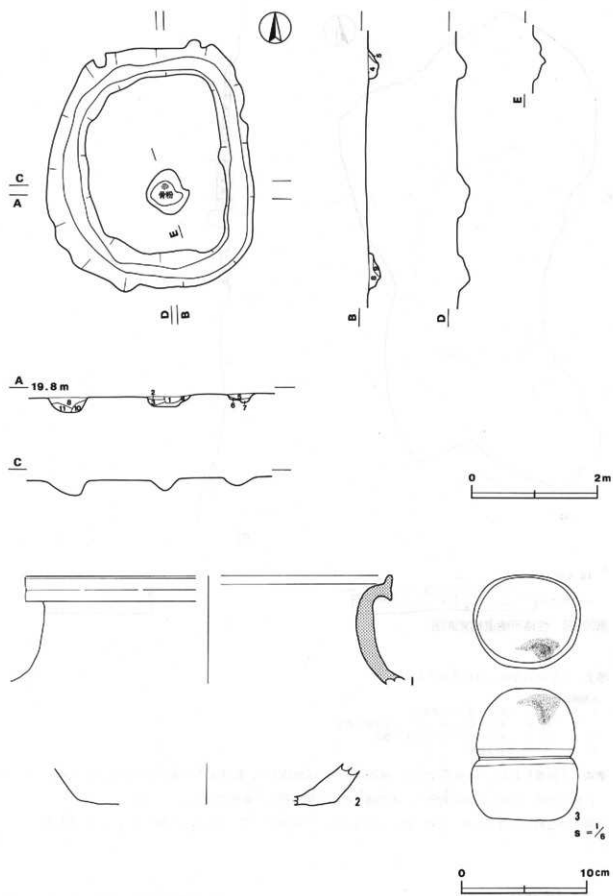
- | | | |
|---|----|-----------------------|
| 1 | 黒色 | ローム粒子・粘土粒子微量 |
| 2 | 黒色 | ローム粒子・ローム小アロック・焼土粒子微量 |
| 3 | 黒色 | ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量 |
| 4 | 黒色 | ローム粒子微量 |

遺物 土師器片412点、須恵器片27点、磁器片5点、鉄製品1点、鉄滓91点と鍛造刺片が出土している。特に長軸3.20m、短軸2.20mの範囲で、中央部を中心に鍛造刺片が集中的に出土している。

所見 鍛造刺片の出土が多いため、鍛冶工房が存在した可能性も考えられるが明確ではなく、時期も不明である。

第1号塚 (SX2) (第296図)

位置 調査4区東部、I12c1区。



第296图 第1号塚・出土遺物実測図

規模と平面形 溝の外径は、長径3,85m, 短径3,38mで楕円形に巡る。

長径方向 N-3°-W

溝 幅45~70cm, 深さ12~23cmで、断面形はU字形である。覆土は7層からなる自然堆積である。5層は暗褐色で、ローム小ブロック少量である。6層は暗褐色でローム小ブロック中量である。7層は褐色でローム粒子多量である。8層は極暗褐色で、ローム粒子・ローム小ブロック微量である。9層は暗褐色で、ローム粒子・ローム小ブロック微量である。10層は暗褐色で、ローム粒子・ローム小ブロック少量である。11層は暗褐色で、ローム粒子少量、ローム大ブロック微量である。

土坑 溝の内側には、マウンドを有していたと思われるが削平されて存在せず、中央部南寄りに長径73cm, 短径60cmの不整楕円形で深さ18cmの土坑が確認された。覆土は4層からなり、人為堆積である。1層は暗褐色で、ローム粒子・ローム小ブロック少量である。骨粉が微量確認されている。2層は暗褐色で、ローム小ブロック少量である。3層は暗褐色で、ローム小ブロック・炭化物微量である。4層は褐色で、ローム粒子多量である。

遺物 土師器片5点, 須恵器片2点, 陶器片1点, 五輪塔1点, 礫10点, 竈支脚2点が出土している。1の常滑焼の甕と2の須恵器の甕が西側の溝の覆土中から、3の五輪塔の空風輪が中央部の土坑の東側確認面から出土している。また、礫は西側の溝の覆土中に集中している。いずれも溝からの出土である。

所見 確認面から五輪塔が出土したこと、溝が巡っていること、中央の土坑から骨粉が確認されたことなどから中世の塚状の墓であったと思われる。

第1号塚出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第29図 1	甕 部	A [29, 0]	口縁部、頸部破片。頸部は外反気味に立ち上がり、口縁部は下方に傾曲し、底部は上方に積み上げられる。	口縁部、頸部内・外面ナデ。口縁部内面、頸部外向に気輪かかか。	砂粒・長石・石英 5% 青褐色 SX 2 覆土中	P 483
		B (8, 3)				
2	甕 底 部	B (2, 8)	底面破片。平底で底部は外傾して立ち上がる。	体部、底部内面へラナデ。	砂粒 に ぶ い い 赤 褐色 普通	P 484 5% SX 2 覆土中
		C [20, 4]				

図版番号	種別	計測値				石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)			
第29図 3	五輪塔 〔空風輪〕	20.9	17.1	14.6	7680.0	花崗岩	確認面	Q37 100%

2区ビット群 (第297図)

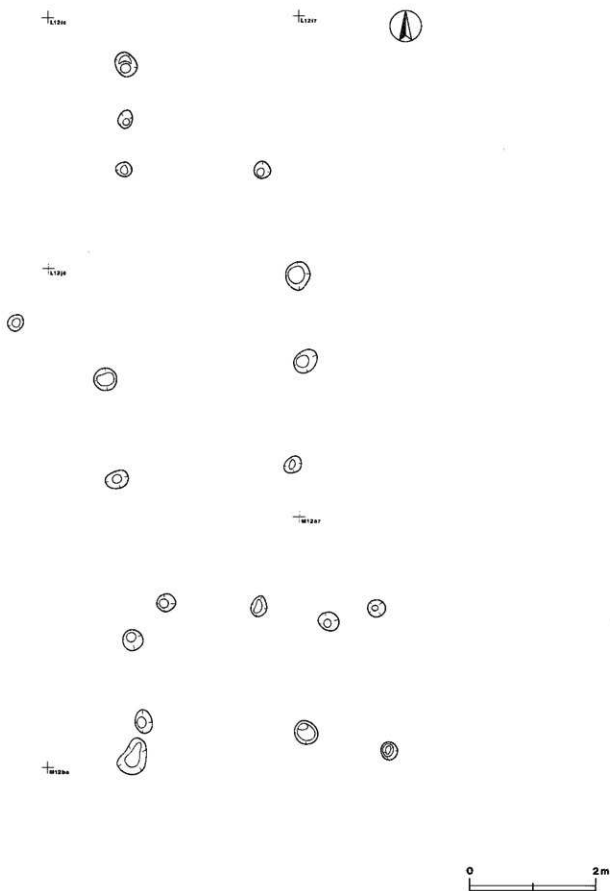
位置 調査2区中央部, L12i6区~M12a6区。

規模 南北約10.7m, 東西約4.0mの長方形に19か所確認されている。柱穴の掘り方は長径33~55cm, 短径24~43cmの楕円形で、深さは23~60cmである。柱痕跡は確認できなかった。

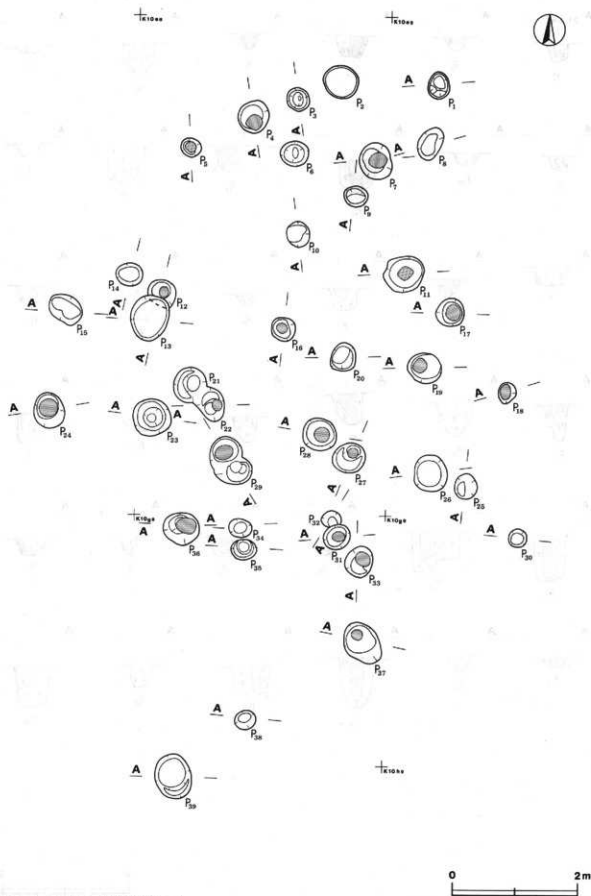
遺物 出土していない。

所見 当初、掘立柱建物跡と考え調査したが、柱穴の掘り方が小さく、桁や梁も並ばなかったためビット群とした。出土遺物がなく時期も性格も不明である。

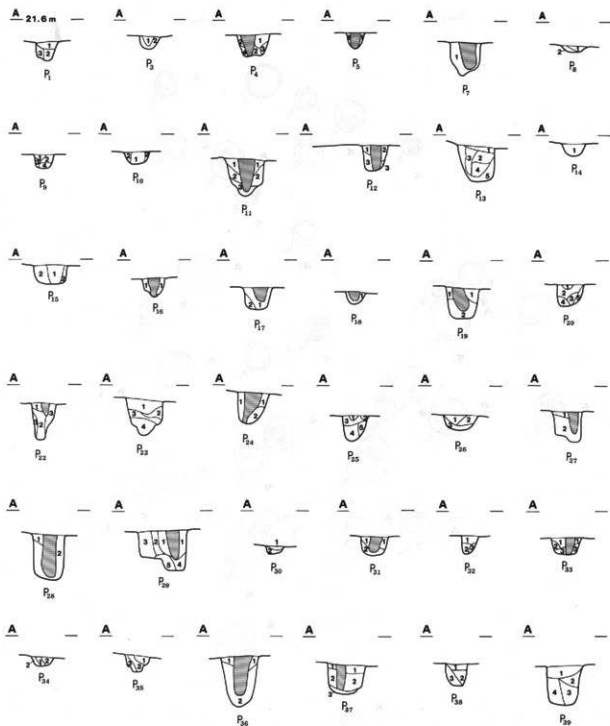
3区ビット群 (第298・299図)



第297図 2区ビット群実測図



第298図 3区ビット群実測図(1)



第299図 3区ビット群実測図(2)

位置 調査3区西部, K10es区~K10gs区。

規模 東西8m, 南北12mの範囲で41か所確認されている。柱穴の掘り方は長径28~73cm, 短径28~61cm, 深さ8~83cmである。18か所の柱穴で, 径13~32cm, 深さ23~67cmの柱痕が確認された。

覆土 ロームブロックを含む黒褐色土と暗褐色土を中心に販売されている。以下, 柱痕の確認された柱穴と掘乱を受けていない柱穴の1層を解説する。

土層解説

P₁

- 1 鮮暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子少量

P₂

- 1 黒褐色 ローム粒子少量
- 2 鮮暗褐色 ローム小ブロック少量

P₃

- 1 鮮暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 鮮暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量
- 4 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

P₄

- 1 鮮暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

P₅

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量

P₆

- 1 褐色 ローム粒子多量
- 2 褐色 ローム粒子中量

P₇

- 1 黒褐色 ローム小ブロック微量, ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 3 黒褐色 ローム小ブロック微量
- 4 暗褐色 ローム粒子中量

P₈

- 1 黒褐色 ローム中ブロック微量, ローム粒子微量
- 2 鮮暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量

P₉

- 1 鮮暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 3 暗褐色 ローム粒子少量

P₁₀

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 2 鮮暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック微量
- 3 鮮暗褐色 ローム粒子少量

P₁₁

- 1 灰褐色 ローム小ブロック中量, ローム粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック中量
- 3 灰褐色 ローム粒子微量
- 4 暗褐色 ローム粒子少量
- 5 鮮暗褐色 ローム小ブロック少量

P₁₂

- 1 黒褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量

P₁₃

- 1 鮮暗褐色 ローム粒子少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム粒子微量, 焼土粒子微量

P₁₄

- 1 鮮暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量

P₁₅

- 1 鮮暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

P₁₆

- 1 暗褐色 ローム粒子中量

P₁₇

- 1 褐色 ローム粒子・ローム小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム粒子中量

P₁₈

- 1 暗褐色 ローム粒子少量
- 2 鮮暗褐色 ローム粒子微量
- 3 褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子微量
- 4 褐色 ローム小ブロック微量
- 5 褐色 ローム粒子中量

P₁₉

- 1 暗褐色 ローム粒子・ローム小ブロック少量
- 2 鮮暗褐色 ローム小ブロック少量, 粘土小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム粒子中量

P₂₀

- 1 暗褐色 ローム小ブロック微量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック微量
- 3 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 4 鮮暗褐色 ローム粒子少量

P₂₁

- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量
- 2 鮮暗褐色 ローム小ブロック少量

P₂₂

- 1 黒褐色 ローム粒子微量
- 2 黒褐色 ローム粒子少量
- 3 鮮暗褐色 ローム粒子少量
- 4 鮮暗褐色 ローム粒子微量
- 5 暗褐色 ローム粒子中量

P₂₃

- 1 鮮暗褐色 ローム小ブロック少量, 焼土粒子微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック少量, ローム粒子少量
- 3 褐色 ローム粒子多量

P₂₄

- 1 黒褐色 ローム中ブロック少量, ローム小ブロック微量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量

P₂₅

- 1 鮮暗褐色 ローム小ブロック中量
- 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量

- P29
- 1 赭褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量
 - 2 黒褐色 ローム小ブロック少量
 - 3 赭褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量
 - 4 赭褐色 ローム中ブロック・ローム大ブロック中量
 - 5 黒褐色 ローム小ブロック少量

- P30
- 1 黒褐色 ローム粒子微量
 - 2 黒褐色 ローム粒子少量

- P31
- 1 褐色 ローム小ブロック中量
 - 2 深褐色 ローム粒子少量

- P32
- 1 黒褐色 ローム小ブロック微量、ローム粒子少量
 - 2 黒褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子少量
 - 3 褐色 ローム粒子多量

- P33
- 1 黒褐色 ローム小ブロック微量
 - 2 黒褐色 ローム小ブロック少量
 - 3 黒褐色 ローム中ブロック少量、ローム小ブロック少量

- P34
- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子少量
 - 2 褐色 ローム粒子中量

- P35
- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、ローム粒子少量
 - 2 暗褐色 ローム小ブロック少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子中量

- P36
- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土小ブロック微量
 - 2 暗褐色 ローム小ブロック少量

- P37
- 1 赭褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック少量
 - 2 暗褐色 ローム小ブロック・ローム中ブロック中量
 - 3 暗褐色 ローム粒子中量

- P38
- 1 暗褐色 ローム粒子中量
 - 2 暗褐色 ローム粒子少量
 - 3 暗褐色 ローム粒子中量

- P39
- 1 暗褐色 ローム小ブロック少量、焼土粒子微量
 - 2 暗褐色 ローム小ブロック少量
 - 3 暗褐色 ローム中ブロック少量
 - 4 暗褐色 ローム粒子微量

遺物 出土していない。

所見 柱痕の確認された柱穴が18か所あり、掘立柱建物跡が2棟以上は存在した可能性があるが、形状等は不明である。出土遺物もなく、時期は不明である。

4区ピット群 (第300区)

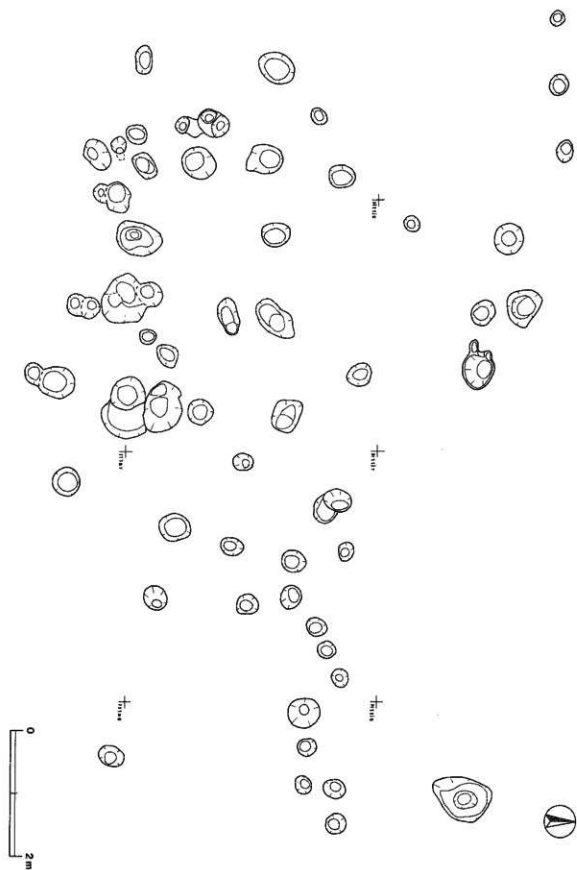
位置 I11bs区～I11ds区。

規模 東西13m、南北8mの範囲で不規則に56か所確認されている。柱穴の掘り方は長径25～95cm、短径25～75cmの楕円形と円形で、深さは14～100cmである。柱痕は確認されていない。

覆土 いずれもローム粒子・ローム小ブロック混じりの黒褐色土と暗褐色土である。骨粉がP17の覆土中から、炭化した竹がP9の覆土中から確認されている。

遺物 覆土中から骨粉と炭化材が出土している。

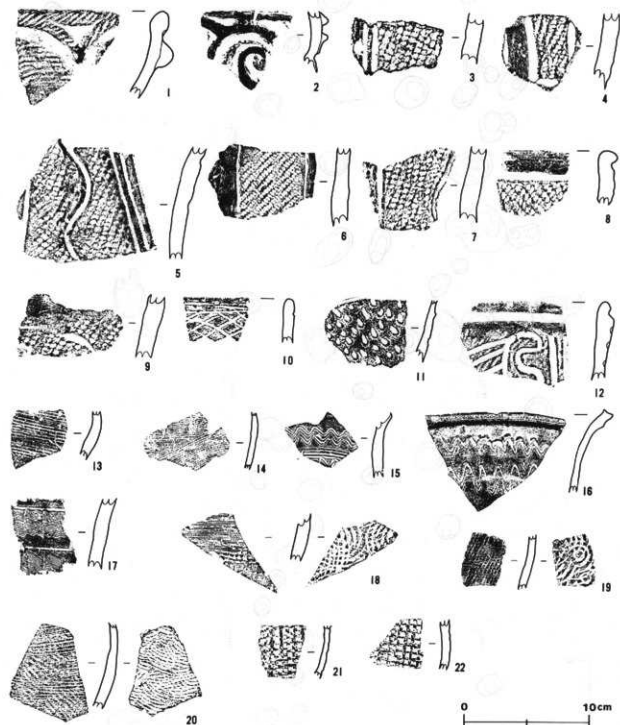
所見 柱穴の並びと掘り方が不規則であり、掘立柱建物跡とは考えられない。幕域の中に集中的に確認されることから、幕域に関わる遺構と思われる。



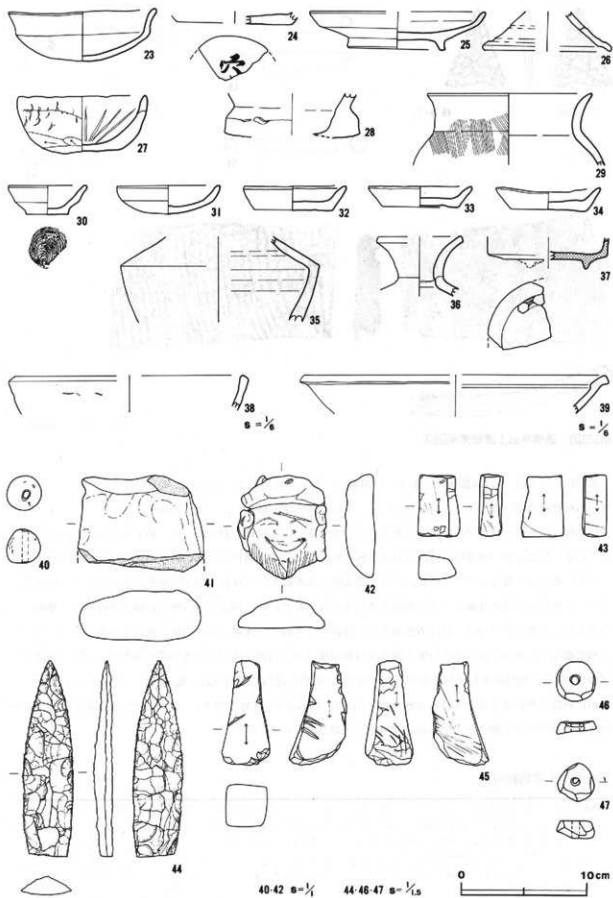
第300図 4区ビット群実測図

8 遺構外出土遺物 (第301・302・303図)

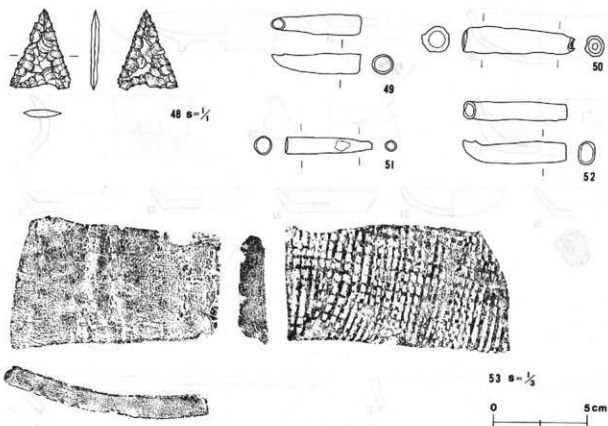
当遺跡の遺構に混入して出土した縄文土器や石器、表面採集、遺構確認中に出土した遺物の中から特色のあるものを抽出し、拓影図、実測図及び一覧表で掲載した。



第301図 遺構外出土遺物実測図(1)



第302图 遺構外出土遺物実測図(2)



第303図 遺構外出土遺物実測図(3)

第301図1は深鉢の口縁部破片である。口縁部に「V」字状の隆帯が貼られ、縄文が施されている。2は深鉢の口縁部破片で、渦巻き文が施されている。3は深鉢の胴部破片で、2条の沈線が垂下している。4, 6は深鉢の胴部破片で、沈線間に磨消しか施されている。5, 7は深鉢の胴部破片で、縄文施文後、懸垂文が施されている。11は深鉢の胴部破片で、列点文が施されている。12は深鉢の口縁部破片で、口縁部に沈線が巡り、その下に獣手文が施されている。13, 14は土師器甕の体部破片で、外面に刷毛目整形がされている。15は須恵器片で、外面に4条の沈線の上下に櫛描き波状文が施されている。16は須恵器甕の口縁部の破片で、外面に櫛描き波状文が施されている。17は須恵器片で、外面に2本以上の沈線の間に櫛描き波状文が施されている。18は須恵器片で、外面に縦位の平行叩き後カキ目痕が施され、内面には同心円当具痕が施されている。19は須恵器片で、外面に縦位の平行叩き後カキ目痕が施され、内面には同心円当具痕が施されている。20は須恵器片で、外面に斜位の平行叩き後カキ目痕が施され、内面には同心円当具痕が施されている。21, 22は須恵器片で、外面に格子目の叩きか施され、内面はロクロナデが施されている。

遺構外出土遺物観察表

図版番号	器種	計測値(cm)	器形の特徴	手法の特徴	胎土・色調・焼成	備考
第303図 23	土師器 環	A 11.7	底部丸底。体部は内脣して立ち上がり、体部とは縁部の間に棱がある。口縁部は外反する。	口縁部内・外面積ナデ。体部外面へラ削り後ナデ。体部内面ナデ。	砂粒・雲母・スコリア、褐色	P500 100% 調査4区表様
		B 4.2				
24	須恵器 環	B (0,6)	底部破片。底部平底。	底部に磨消。	砂粒・石英・長石・雲母、灰色	P488 10% 調査1区表様
		C [9,0]				

図版番号	器 種	計測値(mm)	器 形 の 特 徴	手 法 の 特 徴	粘土・色調・焼成	備 考
第34回	甕	A 14.0	高台部から口縁部にかけての破片。 高台部は「ハ」の字状に開く。底部は外傾して立ち上がり、口縁部は装飾的に外傾する。	内・外面ロクロナデ。高台部内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母 黄灰色 普通	P488 70% 調査3区表採
		B 3.1				
		D 7.6				
		E 0.7				
26	高 坏 甕 器 種	D [10,2]	胴部破片。胴部は「ハ」の字状に開く。	胴部内・外面ロクロナデ。	砂粒・黒色斑点 灰白色 普通	P485 5% 調査1区表採
		R (3,1) C 4.9				
27	瓶 土 師 器	A 10.0	口縁部一部欠損。底部平底。底部は内脣して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から底部にかけて内へラナデ。底部外周中位から下位にかけてへラ削り。底部木蓋痕。	砂粒・石英・スコリア、にぶい橙色 普通	P497 95% 調査3区表採
		B 4.5				
		C 4.9				
28	甕 甕 器 種	A 10.0 C [10,6]	底部から底部下位にかけての破片。底部厚みのある平底。底部と底部の境に稜がある。底部は外傾する。	底部内・外面ロクロナデ。底部ナデ。	砂粒・長石 黄灰色 普通	P486 5% 調査3区表採
		B (3,4)				
29	甕 土 師 器	A 13.0	体部上位から口縁部にかけての破片。底部は内脣して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ナデ。体部外周中位から下位にかけてへラ削り。体部内面ナデ。	砂粒・長石 褐色 普通	P501 20% 調査4区表採
		B (3,7)				
30	甕 土師質土器	A [6,2]	底部から口縁部にかけての破片。底部平底。底部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から底部にかけて内・外面ナデ。底部回転痕あり。	砂粒・雲母 灰色 普通	P490 60% 調査2区表採
		B 2.4				
		C 3.3				
31	甕 土師質土器	A 8.2	底部先直。底部は内脣して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部内・外面ロクロナデ。底部外周削り後ナデ。体部内面ナデ。	砂粒 灰色 普通	P494 96% 調査2区表採
		B 2.2				
32	甕 土師質土器	A 8.1	底部平底。底部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から底部にかけて内・外面ナデ。底部削り後ナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	P493 100% 調査2区表採
		B 2.0 C 6.1				
33	甕 土師質土器	A 8.2	底部平直。底部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から底部にかけて内・外面ナデ。底部削り後ナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	P496 95% 調査2区表採
		B 1.7				
		C 6.0				
34	甕 土師質土器	A 8.3	底部平直。底部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から底部にかけて内・外面ナデ。底部削り後ナデ。	砂粒 にぶい褐色 普通	P495 93% 調査2区表採
		B 1.9				
		C 6.0				
35	長頸瓶 瓶 器 種	B (6,8)	体部中位から上位にかけての破片。体部中位は外傾して立ち上がり、体部上位は内傾する。	体部内・外面ロクロナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、黄灰色 普通	P499 10% 調査3区表採
		A [6,6] B (4,2)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は内脣して立ち上がり、口縁部は外反する。	口縁部内・外面ロクロナデ。体部内・外面ロクロナデ。	砂粒 灰色 普通	P492 20% 調査2区表採
37	香 炉 甕 器 種	B (2,5)	底部から底部下位にかけての破片。底部直付。底部は直立して立ち上がる。	体部内・外面ロクロナデ。外面に稜が施されている。底部無痕。	砂粒 にぶい黄色 普通	P491 10% 調査2区表採
		D [7,2]				
		E 0.3				
		計 測 値				
38	内耳土師 土師質土器	A [35,6] B (5,7)	体部上位から口縁部にかけての破片。体部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から底部にかけて内・外面ナデ。	砂粒・長石 にぶい褐色 普通	P489 5% 調査2区表採
		A (48,0) B (6,0)	胴部上位から口縁部にかけての破片。胴部は外傾して立ち上がり、口縁部に至る。	口縁部から胴部にかけて内・外面ナデ。	砂粒・石英・長石・雲母、褐色 普通	P487 10% 調査1区表採

図版番号	種 別	計 測 値				出 土 地 点	備 考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第34回40	丸 土	1.0	0.9	0.9	0.1	1.0	表西採集 D P 34 100%
41	不明土製品	(10.0)	(7.7)	4.2		(321.8)	調査2区表内採集 D P 35
42	泥 瓦 子	2.3	2.3	0.8		4.0	表西採集 D P 36 100%

国産番号	種別	計測値				重量 (g)	石質	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)				
第3期43	磁石	(4.9)	3.4	1.9		(49.0)	凝灰岩	調査2区表面採集	Q35
44	穴痕跡	7.8	2.0	0.7		11.0	頁岩	調査3区表面採集	Q36 100%
45	磁石	(8.3)	3.8	4.3		(133.0)	凝灰岩	調査1区表面採集	Q32 80%
46	口玉	1.6	1.6	(0.5)	0.3	(2.0)	緑泥片岩	調査1区表面採集	Q33
47	口玉	1.5	1.5	(0.8)	0.3	(2.0)	緑泥片岩	調査1区表面採集	Q39
第3期48	石鏃	2.1	1.7	0.2		1.0	黒曜石	表面採集	Q34 100%

国産番号	種別	計測値				重量 (g)	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)		
第3期49	磁管	(4.7)	1.1	1.1	(9.0)	M50	調査2区表面採集 20%
50	磁管	(5.9)	1.5	1.0~1.4	(12.0)	M51	調査3区表面採集 20%
51	磁管	(4.6)	0.9	0.6~0.9	(4.0)	M53	調査3区表面採集 20%
52	磁管	(5.5)	1.1	0.8	(10.0)	M52	表面採集 20%

国産番号	種別	計測値				重量 (g)	出土地点	備考
		長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	孔径 (cm)			
第3期53	平瓦	(9.9)	(17.2)	2.0	(567.0)	調査2区表面採集	T1 四国布目 凸海側子印	

第4節 まとめ

熊の山遺跡の調査と整理で得られた成果を、各時代ごとにまとめておきたい。

1 旧石器時代

尖頭器が表土から出土しているのみである。

2 縄文時代

縄文時代の遺構は検出されていない。遺物は、遺構外や表面採集として中期から後期の土器片が数点と石鏃が出土している。

3 古墳時代

本遺跡の中心となる時期である。4期に分けることができる。

第1期（4世紀）

第40, 48, 54号住居跡の3軒が該当する。いずれも調査1区の北部で検出されている。住居跡の平面形は方形または長方形で、3軒ともが確認することはできなかった。出土遺物は土師器甕、器台、埴、ミニチュア土器などである。

第2期（5世紀）

第61, 115-C号住居跡の2軒が該当する。第61号住居跡は調査1区の中央部から、第115-C号住居跡は調査2区の中央部からそれぞれ検出され、両住居跡とも調査区の比較的高い位置に立地している。住居跡の平面形は方形または長方形である。出土土器は、土師器高坏、小型壺、埴、坏などである。第61号住居跡から出土した小型壺中には、土器の赤彩に使用したと考えられる赤色顔料（ベンガラ）が多量に残っていた。^①

第3期（6世紀）

第1, 2, 4, 7, 9-A, 9-B, 10, 11, 12, 16, 18, 20, 21, 31, 39, 44, 46, 49, 55, 60, 64, 68, 78, 79, 86, 88, 90, 123, 124, 130号住居跡と第20号土坑が該当する。調査1区全般、調査2区の東部、調査3区の中央部から西部、調査4区の中央部から東部の広い範囲で検出されている。特に一辺が6m以上の大型住居跡は、標高19~21mの位置に立地している。平面形は、方形または長方形で、北竈が主体である。出土遺物は土師器甕、甌、小型壺、高坏、坏が主である。坏は丸底で、体部と口縁部の境に稜があり、口縁部が直立するものが多い。黒色処理されたものが目立つ。高坏は短脚で、ラッパ状に開き、外面に黒色処理がされている。

第4期（7世紀）

第3, 15, 19, 22, 24, 26, 29, 50, 56, 76, 89, 119号住居跡の12軒が該当する。調査1区の北部と南部、調査2区の東部、調査3区の西部、調査4区の中央部の広い範囲から検出されている。平面形は方形または長方形で、北竈が主体である。第15号住居跡は、竈が北東コーナー部に付設されていた。出土土器は土師器甕、鉢、小型壺、坏、蓋である。坏はやや小型になり、器高が低くなる。

4 奈良時代

古墳時代、平安時代とともに、本遺跡の中心となる時期である。（8世紀）

第6, 8, 25, 28, 37, 38, 42, 52, 57, 62, 66, 69, 70, 72-A, 77-A, 77-B, 83, 129号住居跡の18軒が該当する。調査1区全般、調査3区の中央部と西部、調査4区の中央部の広い範囲から検出されている。そのうち調査1, 3区で17軒確認されているのに対し、調査4区からは1軒のみ、調査2区からは検出されていないことから、集落の中心が前の時期と比べて、変化してきていることが考えられる。平面形は方形または長方形で、竈は第18号住居跡が西壁である以外は北壁に付設されている。出土遺物は土師器甕、坏、須恵器甕、甌。

鉢、高台付坏、坏、盤、蓋であり、土師器に比べ須恵器の出土量が多い。

5 平安時代

古墳時代、奈良時代とともに、本遺跡の中心となる時期である。3期に分けることができる。

第1期（9世紀）

第13-A、13-B、41、51、59、65、67、72-B、73、74、75、80、81、82、99、111、112、122、125号住居跡の19軒が該当する。調査1区全般、調査2区の西部と中央部、調査3区の中央部、調査4区の中央部と東部の広い範囲で検出されているが、調査1区から14軒検出したのに対し、調査2、3、4区では、合わせて5軒と非常に少ない。平面形は方形または長方形で、北窓が主体である。出土遺物は土師器甕、高台付坏、坏、須恵器甕、瓶、高盤、鉢、坏のほか、鉄鏡、鉄鏝、刀子の鉄製品の出土が多く見られる。

第2期（10世紀）

第14、27、30、32、33、34、35、36、47、63、85、91、92、93、94、95、97、98、100、101、102、103、105、106、107-A、107-B、108、109、110、113、114、115-A、115-B、116、117、118、120、121、126-A、126-B号住居跡の40軒が該当する。調査1区の北部と中央部、調査2区の中央部から西部、調査3区の中央部から東部にかけて検出されている。検出された40軒のうち、37軒が調査2区と調査3区に集中している。平面形は方形または長方形で、東壁に窓を付設し、壁外に長く煙道を伸ばした住居跡が多くなる。出土遺物は、土師器甕、瓶、鉢、高台付坏、土師質土器の皿が多い。

第3期（12世紀）

第7、45号墓塚の2基が該当する。調査2区の中央部と西部から検出されている。両遺構から和鏡が出土している。⁽²⁾

6 中世

第9、18、24、78、103墓塚と第1、2、3、4号地下式塙と第1、2、3、4、5、6号井戸と第1号塚が該当する。また、第11、12、14、16、17、23、36、40、41、88、95、96、104、107、109、110、112、114、115、116、117、123、124号七塚も同時期の遺構の可能性ある。各遺構とも調査2区の中央部から西部にかけてと、調査4区の中央部から集中して検出されている。各遺構に伴う遺物は出土していない。

7 近世

近世の遺構は検出されていないが、遺物として、煙管の一部や泥面子が表面採集や遺構外から出土している。

註・参考文献

- (1) 水嶋正幸氏の分析によれば、比較的良質のもので、1%の濃度に水で薄めれば熊の山遺跡から出土する土器に十分赤彩を施すことができるという御教示をいただいた。
- (2) 青木豊氏から、和鏡全般についての御指導と、12世紀前後の和鏡が、経塚の他に茨城県南西部、埼玉県、千葉県、千葉県から比較的多く出土するという御教示をいただいた。
 - ・長谷川厚「土師器の編年 関東」『古墳時代の研究』第6巻土師器と須恵器 雄山閣 1991年5月
 - ・櫻村宣行「茨城県南部における鬼高式土器について」『研究ノート』2号 茨城県教育財団 1993年7月
 - ・浅井哲也「茨城県内における奈良・平安時代の土器」『研究ノート』創刊号 茨城県教育財団 1992年7月
 - ・茨城県『茨城県史料 考古資料編 奈良・平安時代』1995年3月

写 真 图 版



現地説明会



1区遺構確認状況



2区全景

PL2



3区全景



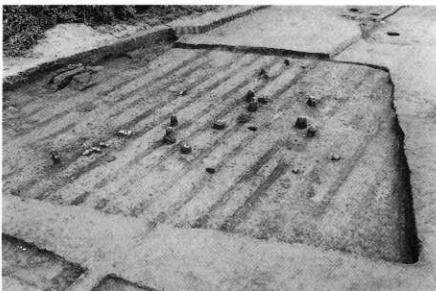
4区全景



4区遺構確認状況



第1・4・5号住居跡



第1号住居跡遺物出土状況



第2号住居跡遺物出土状況

PL4



第3号住居跡



第3号住居跡遺物出土状況



第6・7号住居跡



第8号住居跡



第9-A号住居跡



第10・12号住居跡

PL6



第15号住居跡



第15・16・17号住居跡
第3号土坑



第18・19号住居跡



第19号住居跡竈



第24～27号住居跡



第25号住居跡

PL8



第26号住居跡遺物出土状況



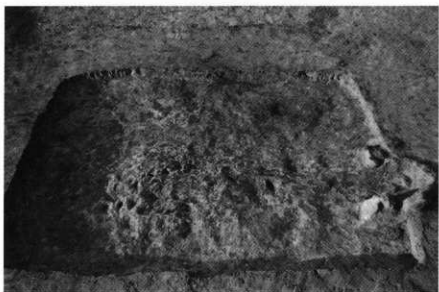
第27号住居跡遺物出土状況



第28号住居跡



第31号住居跡



第32号住居跡



第32号住居跡遺物出土状況

PL10



第33号住居跡



第33号住居跡遺物出土状況



第34号住居跡



第34号住居跡遺物出土状況



第35号住居跡



第35号住居跡遺物出土状況

PL12



第36号住居跡



第36号住居跡遺物出土状況



第37号住居跡



第38号住居跡



第39号住居跡



第40号住居跡

PL14



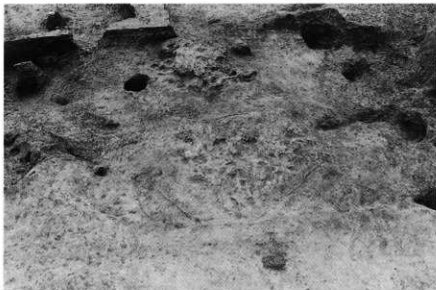
第41号住居跡



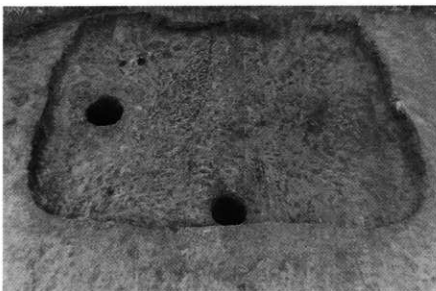
第42号住居跡



第42号住居跡遺物出土状況



第43号住居跡



第48号住居跡



第51号住居跡

PL16



第52号住居跡・第5号土坑



第54~56号住居跡



第54号住居跡遺物出土状況



第55号住居跡



第55号住居跡遺物出土状況



第56号住居跡竈

PL18



第57・59号住居跡



第57号住居跡遺物出土状況



第59号住居跡遺物出土状況



第59号住居跡遺物出土状況



第60号住居跡



第60号住居跡遺物出土状況

PL20



第61号住居跡



第62号住居跡



第63号住居跡



第64号住居跡



第64号住居跡遺物出土状況



第68・69・80・82号住居跡

PL22



第68・69号住居跡



第69・82号住居跡



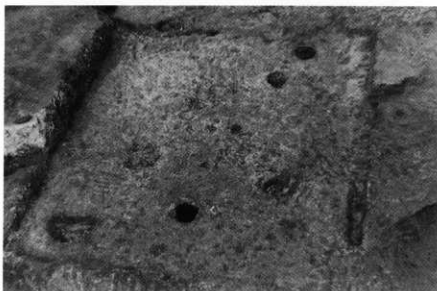
第70号住居跡



第73号住居跡遺物出土状況



第75号住居跡



第77-A号住居跡

PL24



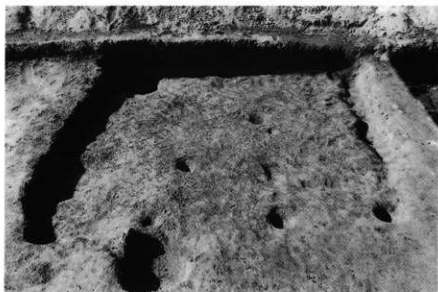
第77-B号住居跡遺物
出土状況



第78号住居跡



第83・84号住居跡



第85号住居跡



第86号住居跡



第88号住居跡遺物出土状況

PL26



第89号住居跡



第89号住居跡遺物出土状況



第90号住居跡



第91号住居跡



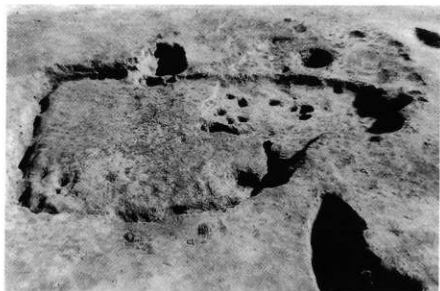
第92号住居跡
第68・74号土坑



第92号住居跡遺物出土状況



第93号住居跡・第30号土坑



第94号住居跡



第95・111号住居跡



第95号住居跡遺物出土状況



第96号住居跡・第43号土坑
第2号井戸



第97号住居跡・第3号井戸

PL30



第98号住居跡・第44号土坑



第100号住居跡



第100号住居跡遺物出土状況



第101号住居跡・第27号土坑



第102号住居跡



第103号住居跡・第56号土坑

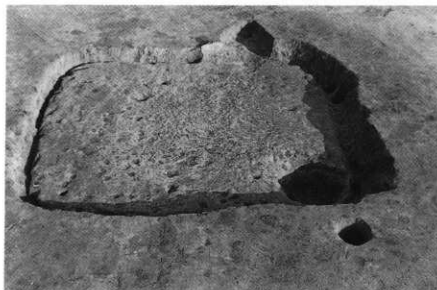
PL32



第105号住居跡



第105号住居跡遺物出土状況



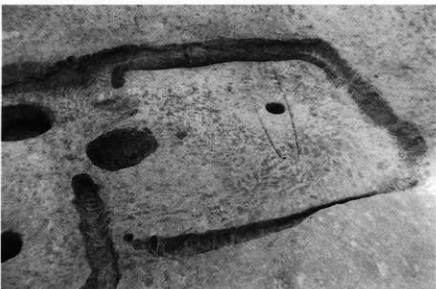
第106号住居跡



第107-A・B号住居跡



第108号住居跡



第109号住居跡

PL34



第110号住居跡



第112号住居跡



第114号住居跡



第116号住居跡

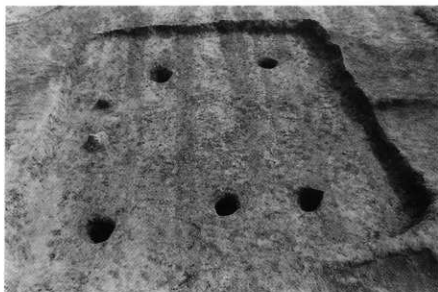


第117号住居跡
第93・127号土坑



第118・130号住居跡

PL36



第119号住居跡



第120号住居跡遺物出土状況



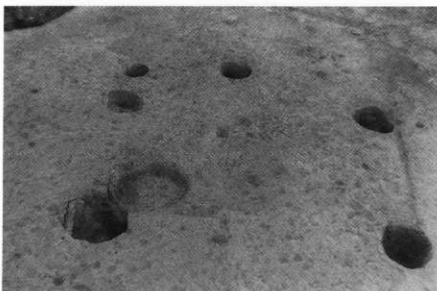
第121号住居跡
第75・105・113号土坑



第122号住居跡



第122号住居跡遺物出土状況



第123号住居跡

PL38



第124号住居跡



第124・125号住居跡



第124号住居跡遺物出土状況



第124号住居跡遺物出土状況



第126-A・B号住居跡



第1号方形竖穴遺構

PL40



第2号方形竖穴遺構



第3号方形竖穴遺構



第7号土壩遺物出土状況



第18号土坑

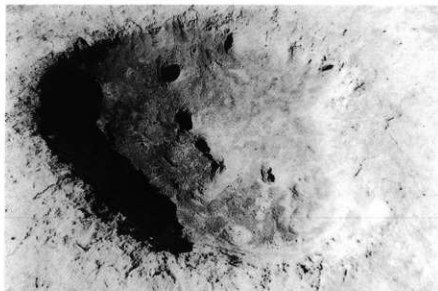


第45号土坑遺物出土状況

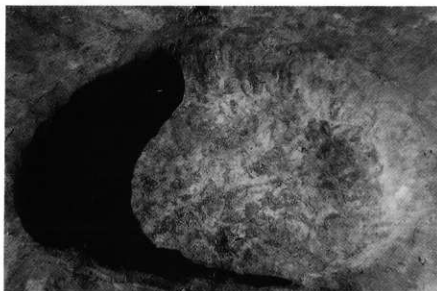


第78号土坑

PL42



第11号土壤



第14号土壤



第17号土壤

第40・41号土坑



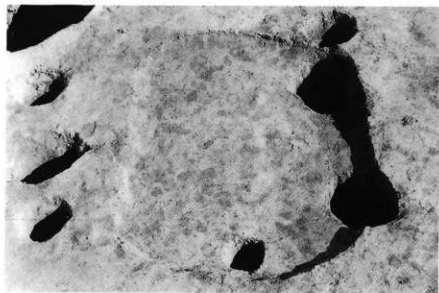
第88号土坑



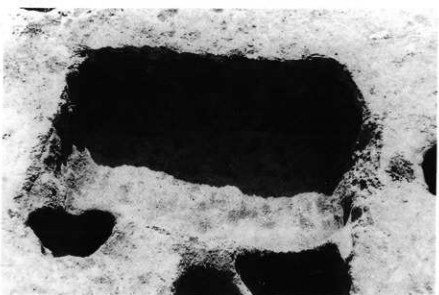
第95号土坑



PL44



第96号土坑



第107号土坑



第10号土坑



第13号土坑



第15号土坑

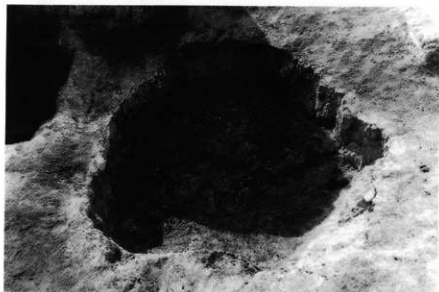


第20号土坑遺物出土状況

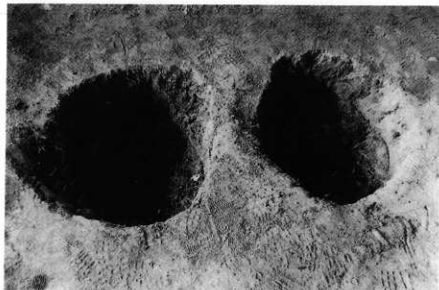
PL46



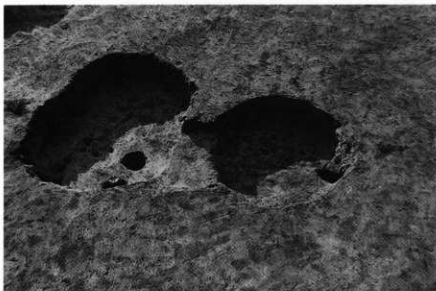
第27号土坑



第31号土坑



第38·39号土坑



第46・47号土坑



第52号土坑



第53号土坑

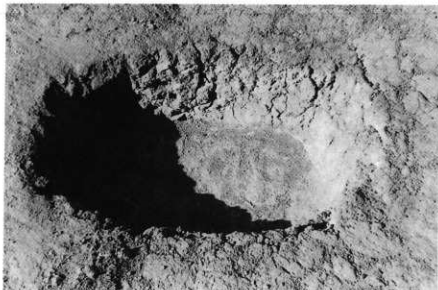
PL48



第54号土坑



第58号土坑



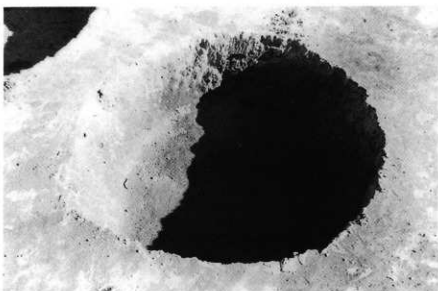
第60号土坑



第61号土坑



第62号土坑



第63号土坑

PL50



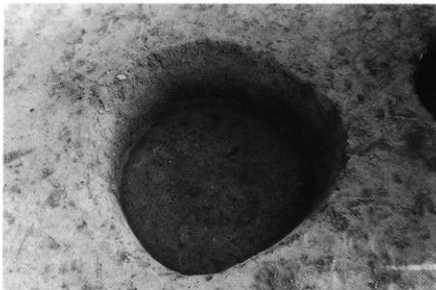
第64号土坑



第65号土坑



第66号土坑



第71号土坑

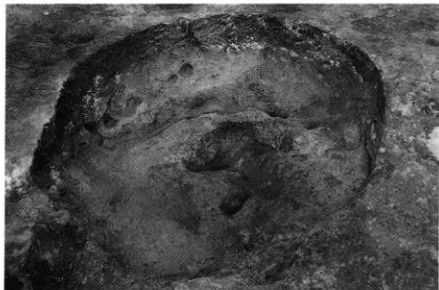


第72号土坑



第73号土坑

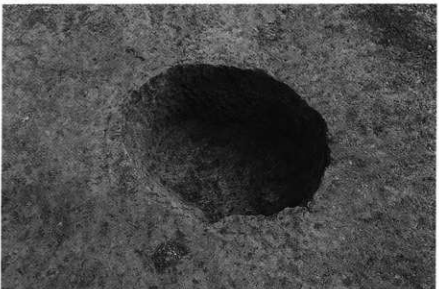
PL52



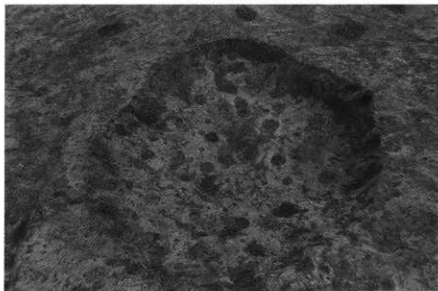
第76号土坑



第81号土坑



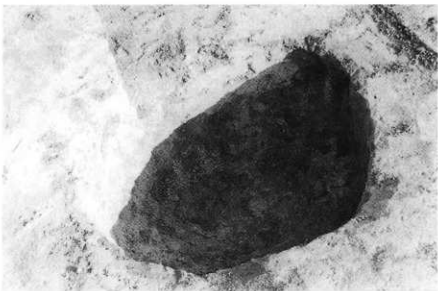
第82号土坑



第83号土坑



第91号土坑

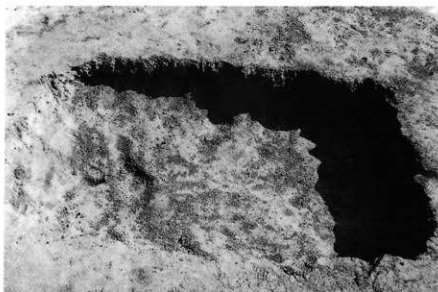


第92号土坑

PL54



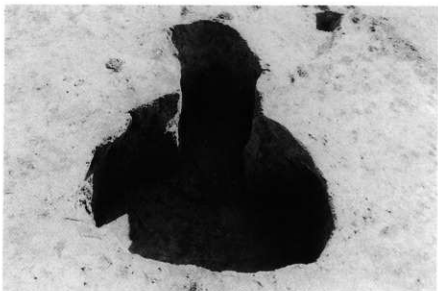
第94号土坑



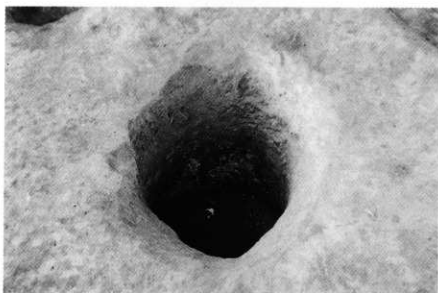
第108号土坑



第113号土坑



第1号地下式墳



第2号井戸



第3号井戸

PL56



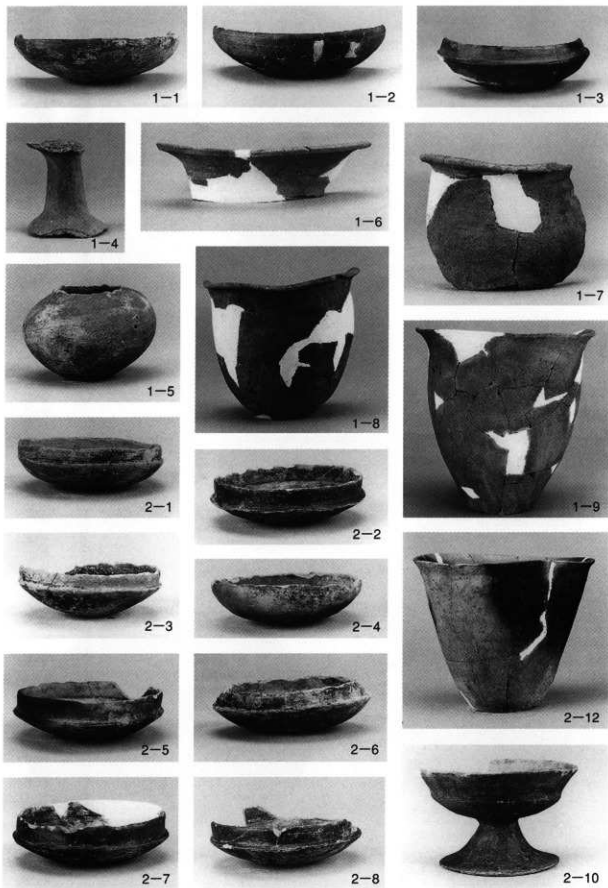
第1号沟·第1号土坑



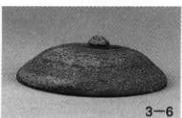
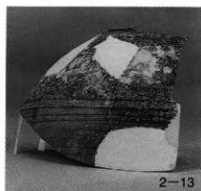
第1号塚

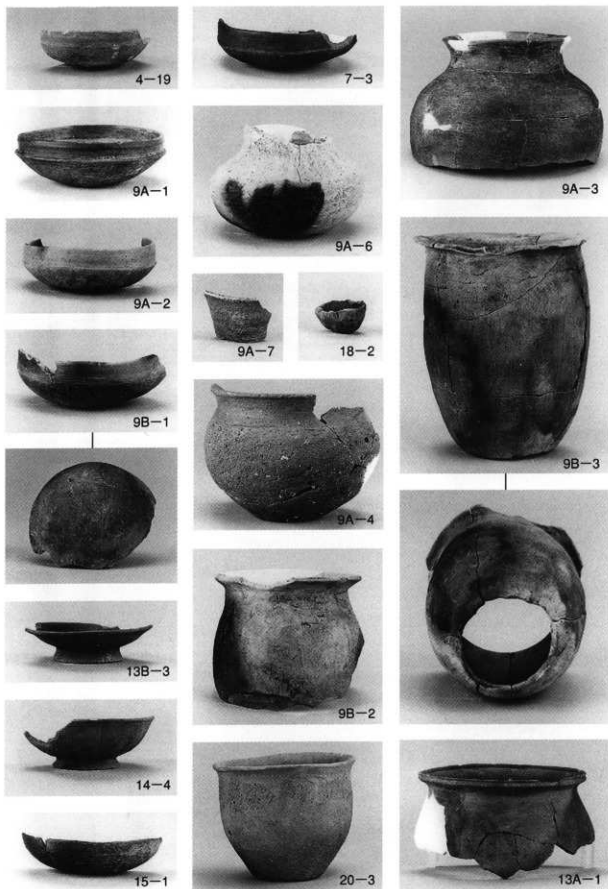


第1号塚遺物出土状況



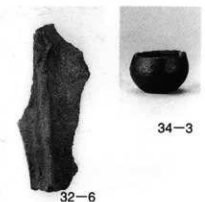
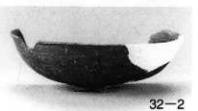
第1・2号住居跡出土遺物





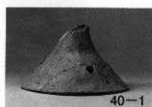
第4・7・9-A・B・13-A・B～15・18・20号住居跡出土遺物

PL60



第22・25・26・29・31～34号住居跡出土遺物







46-1



49-1



54-5



46-2



48-2



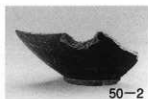
50-1



54-3



54-7



50-2



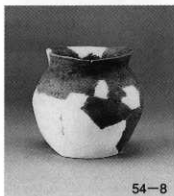
54-2



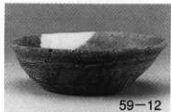
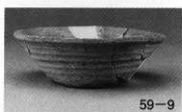
54-1

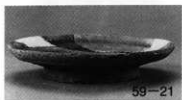


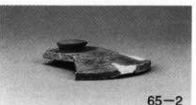
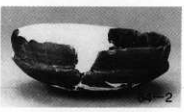
54-4



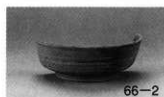
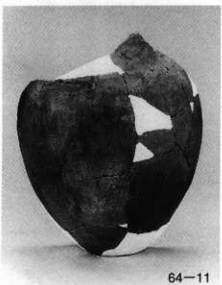
54-8







第59・60・64・65号住居跡出土遺物





74-2



74-3



74-4



74-9



75-1



77B-7



80-1



82-2



77B-9



78-3



78-6



79-14



79-12



79-13



78-4



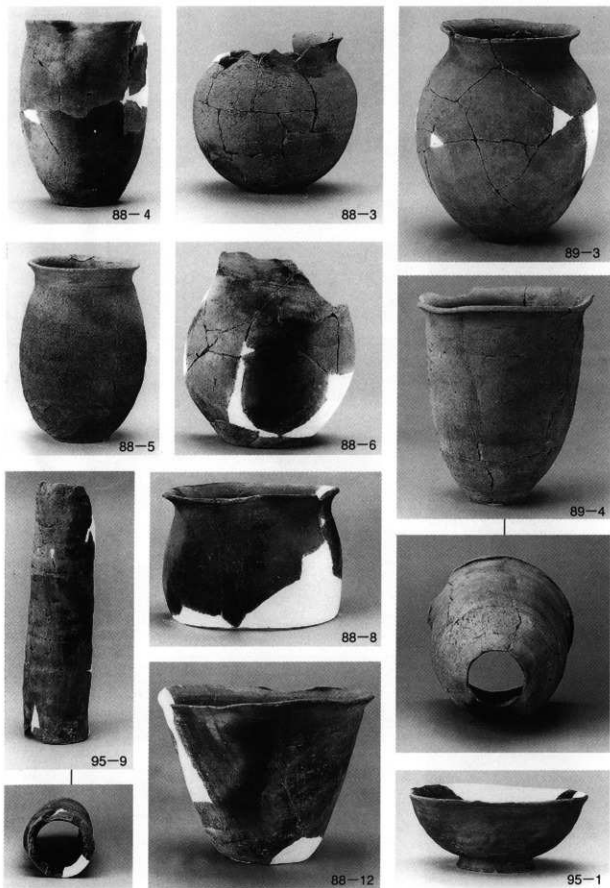
78-5



82-3



83-5



第88・89・95号住居跡出土遺物

PL70



91-1



95-2



95-3



91-7



95-4



97-1



95-6



95-7



97-6



97-2



100-1



97-7



100-4



100-2



102-4



100-4



100-2



102-5



103-4



100-3



102-6



105-3



105-5



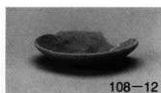
108-11



108-8



108-9



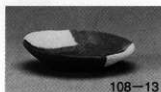
108-12



110-2



110-3



108-13



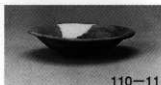
110-7



110-8



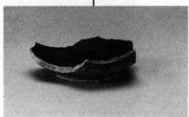
110-5



110-11



110-7



110-14



110-14



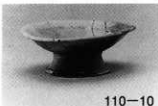
111-1



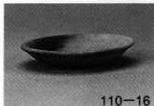
112-1



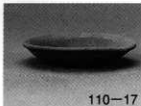
112-3



110-10



110-16



110-17



117-2



110-18



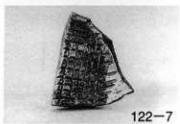
115C-12



115B-8



117-2





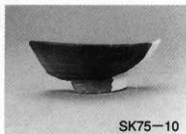
SK20-1



SK20-2



SK75-9



SK75-10



SD5-3



SK112-2



遺構外-24



遺構外-23



遺構外-25



遺構外-31



遺構外-32



遺構外-33



遺構外-34



遺構外-27



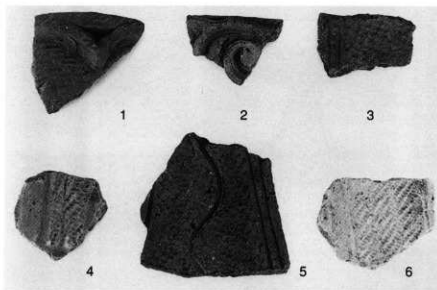
遺構外-37



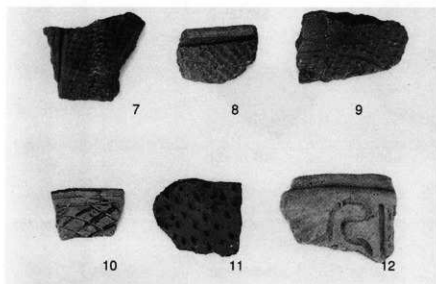
遺構外-36



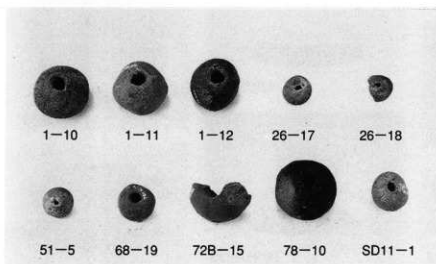
PL74



遺構外



遺構外



出土土器・土製品



26-20



37-7



68-18



57-5



90-5



1-15



1-13



64-16



SD10-2



19-6



26-21



9A-10



49-4



遺構外-44



60-7

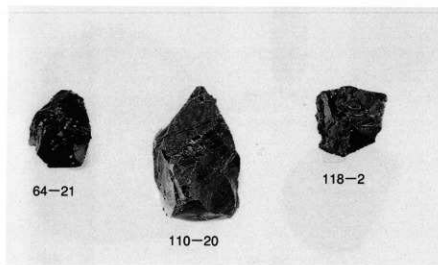
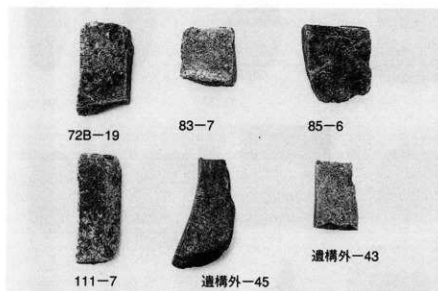
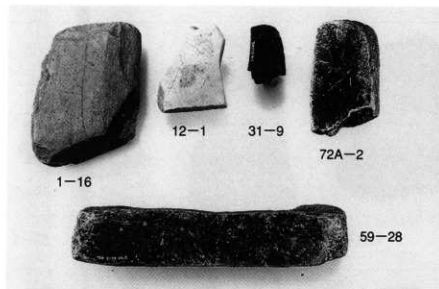


60-8

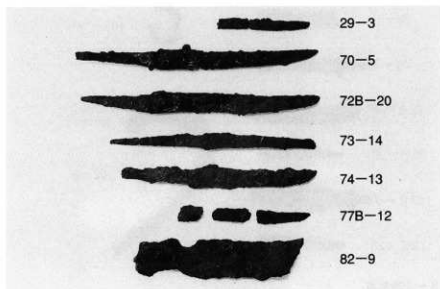
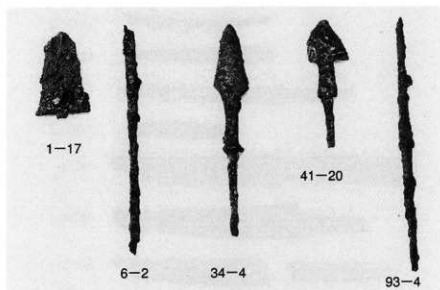
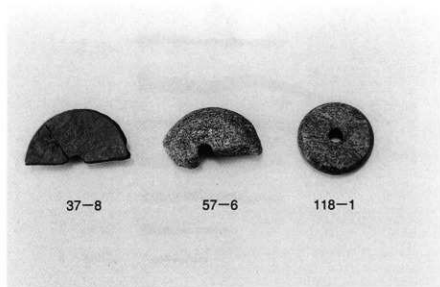


第1号塚-3

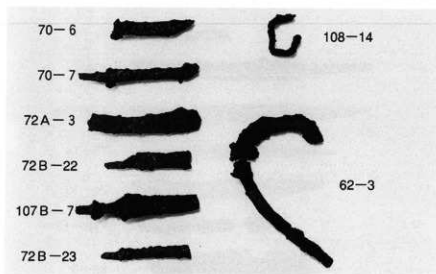
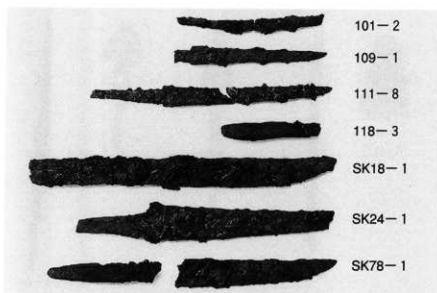
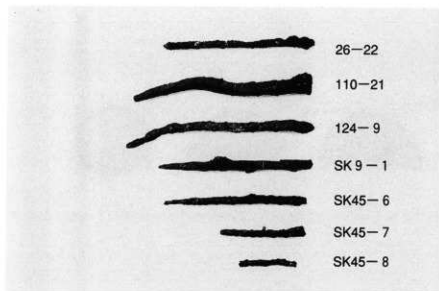
PL76



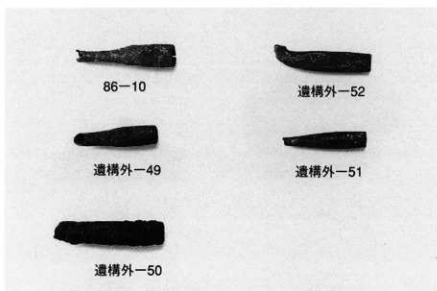
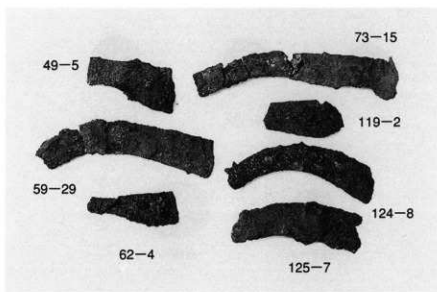
出土石製品



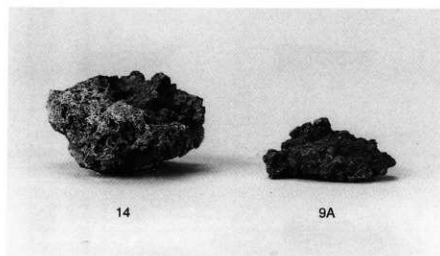
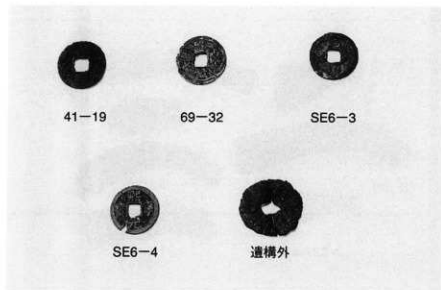
PL78



出土金属製品



PL80



出土古銭・鉄滓・瓦・自然遺物

茨城県教育財団文化財調査報告第120集

(仮称) 島名・福田坪地区土地区画整理
事業地内埋蔵文化財調査報告書 I

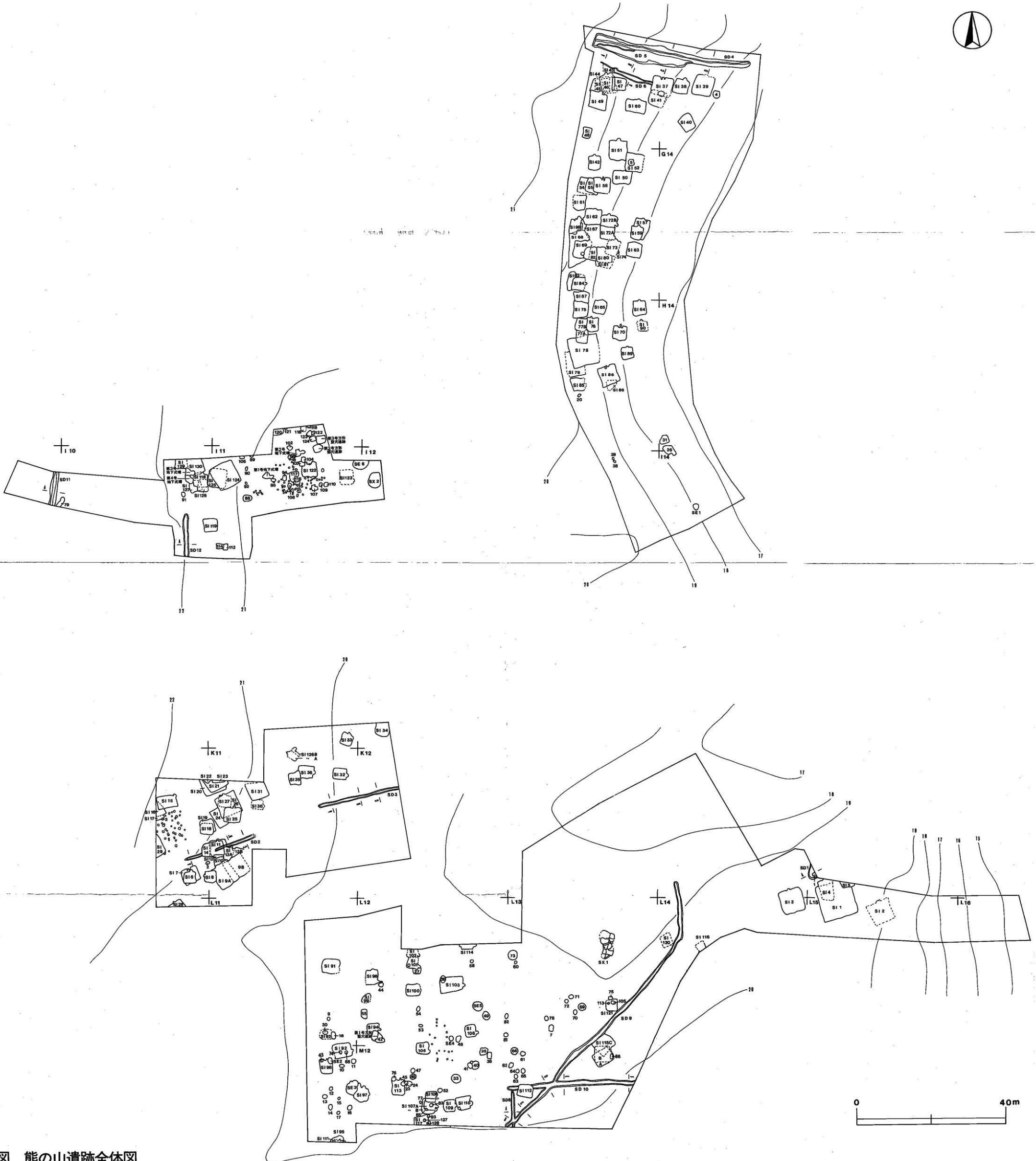
熊の山遺跡

平成9年3月10日印刷

平成9年3月19日発行

発行 財団法人 茨城県教育財団
〒310 水戸市見和1丁目356番地の2
TEL. 029-225-6587

印刷 富士オフセット印刷株式会社
〒310 水戸市根本3丁目1534-2
TEL. 029-231-4242℡



付図 熊の山遺跡全体図